



AV RECEIVER

VSX-S520

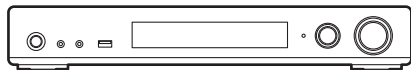
取扱説明書



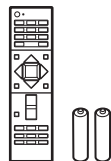
はじめに	
箱の中身を確認する	2
各部の名前	
前面パネル	3
後面パネル	4
リモコン	5
表示部	6
接続する	
1. スピーカーを設置する	7
2. スピーカーを接続する	12
3. テレビを接続する	14
4. HDMI 端子のある AV 機器との接続	15
5. オーディオ機器との接続	16
6. その他の接続	17
初期設定	
電源オンと初期設定	18
再生する	
AV 機器の再生	21
インターネットラジオ	22
Music Server	23
USB ストレージ	25
AirPlay®	27
BLUETOOTH® 再生	28
FM ラジオを聴く	29
リスニングモード	30
AV Adjust	40
追補情報	
再生機能に関する追補情報	42
応用的な設定	
システム設定	43
MCACC	53
ネットワーク / Bluetooth	56
ファームウェアアップデート	59
その他	
困ったときは	62
主な仕様	67
HDMI について	68
ライセンスと商標について	69



箱の中身を確認する



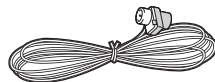
本体 (1)



リモコン (RC-933R) (1)、乾電池 (単4形、R03) (2)



測定用マイク (1)



FM 室内アンテナ (1)

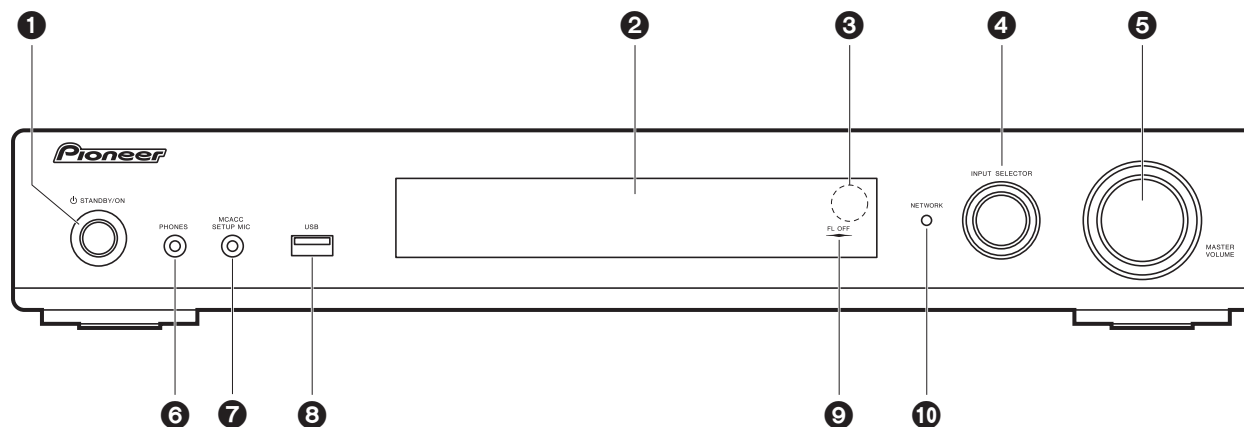
保証書 (1)



- スピーカーはインピーダンスが $4 \sim 8 \Omega$ のものを接続してください。
- 電源コードは、すべてのケーブル接続が完了してから接続してください。
- 他社製品との接続により生じたいかなる損害に対しても、当社では責任を負いかねます。
- お使いいただけるネットワークサービスやコンテンツは、ファームウェアのアップデートにより新しい機能が追加されたり、サービスプロバイダーのサービス終了などによりご利用できなくなる場合があります。
- 仕様および外観は予告なく変更することがあります。
- 本製品はファームウェアのアップデートにより、Dolby Atmos および DTS:X 音声フォーマットの再生への対応を予定しております。詳細はホームページでお知らせします。



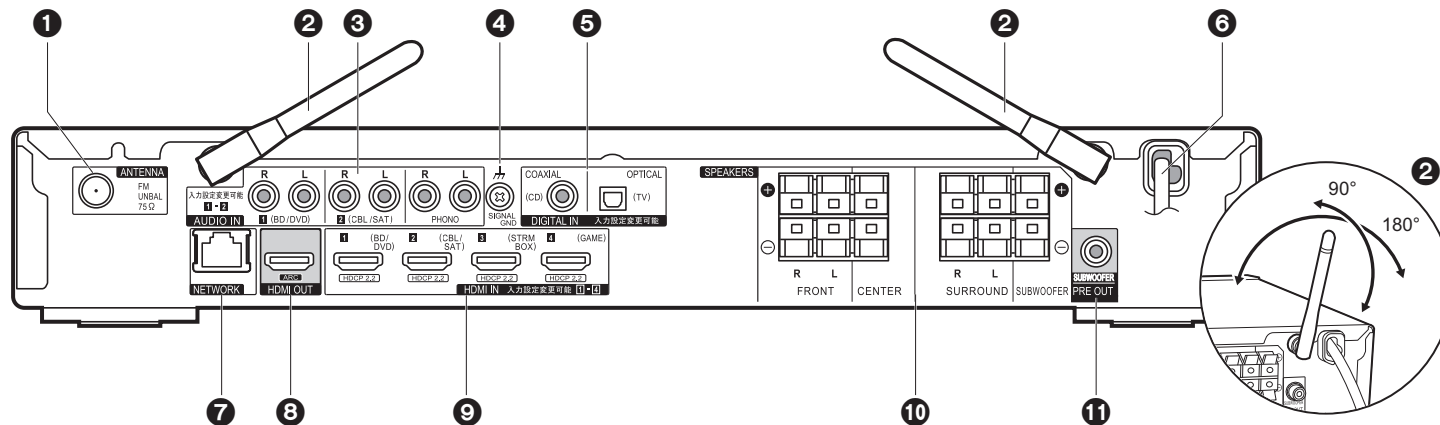
前面パネル



1. \odot STANDBY/ON ボタン：電源のオン / スタンバイを切り換えます。
2. 表示部 (→P6)
3. リモコン受光部
4. INPUT SELECTOR ダイアル：再生する入力を切り換えます。(BD/DVD / CBL/SAT / GAME / STRM BOX / CD / TV / PHONO / FM / NET / USB / BT AUDIO)
5. MASTER VOLUME ダイアル：音量を調整します。
6. PHONES 端子：ミニプラグ (φ3.5 mm) のステレオヘッドホンを接続します。
7. MCACC SETUP MIC 端子：付属の測定用マイクを接続します。
8. USB 端子：USB ストレージを接続して音楽ファイルを再生します。USB ケーブルを使用して、USB 機器への電源供給 (最大 5V/1A) も可能です。
9. FL OFF インジケータ：リモコンの DIMMER ボタンをくり返し押し、表示部を消灯させているときに点灯します。
10. NETWORK インジケータ：本機の電源がオンの場合、「NET」入力切換でネットワークに接続されているときに点灯します。また電源がスタンバイの場合、HDMI CEC やネットワークスタンバイなどが有効に設定されているときに点灯します。



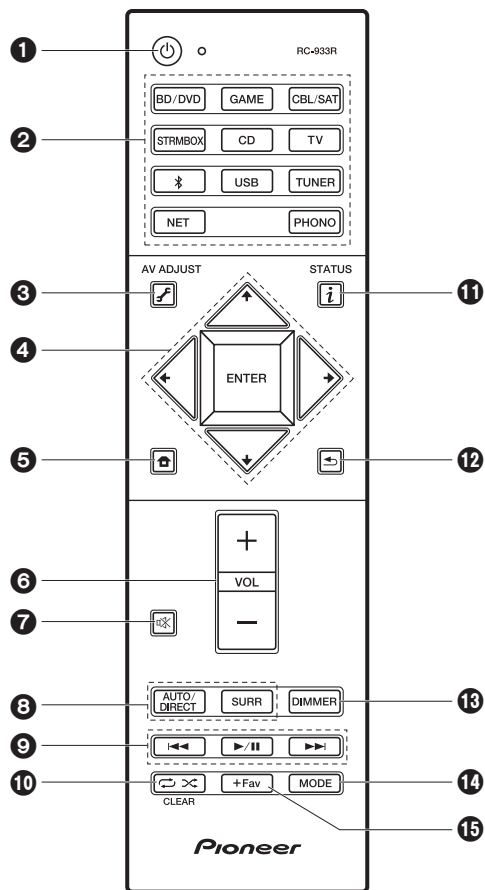
後面パネル



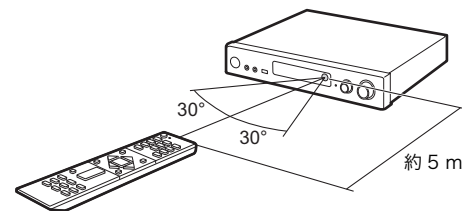
1. ANTENNA FM UNBAL 75Ω 端子：付属のアンテナを接続します。
2. 無線アンテナ：Wi-Fi 接続を行う場合や、BLUETOOTH 対応機器をご使用の場合に、立てて使用します。無線アンテナの可動範囲は図のとおりです。無理に力を加えると破損する恐れがあります。
3. AUDIO IN 端子：オーディオ用ピンケーブルを使用して、AV 機器の音声信号を入力します。
4. SIGNAL GND 端子：レコードプレーヤーのアース線を接続します。
5. DIGITAL IN OPTICAL/COAXIAL 端子：光デジタルケーブルまたは同軸デジタルケーブルを使用して、テレビや AV 機器のデジタル音声信号を入力します。
6. 電源コード
7. NETWORK 端子：LAN ケーブルを使用して、ネットワークに接続します。
8. HDMI OUT 端子：HDMI ケーブルを使用してテレビと接続し、映像信号や音声信号を送ります。
9. HDMI IN 端子：HDMI ケーブルを使用して AV 機器と接続し、映像信号や音声信号を送ります。
10. SPEAKERS 端子：スピーカーケーブルを使用して、スピーカーやパッシブサブウーファを接続します。
11. SUBWOOFER PRE OUT 端子：サブウーファケーブルを使用して、アンプ内蔵サブウーファを接続します。



リモコン

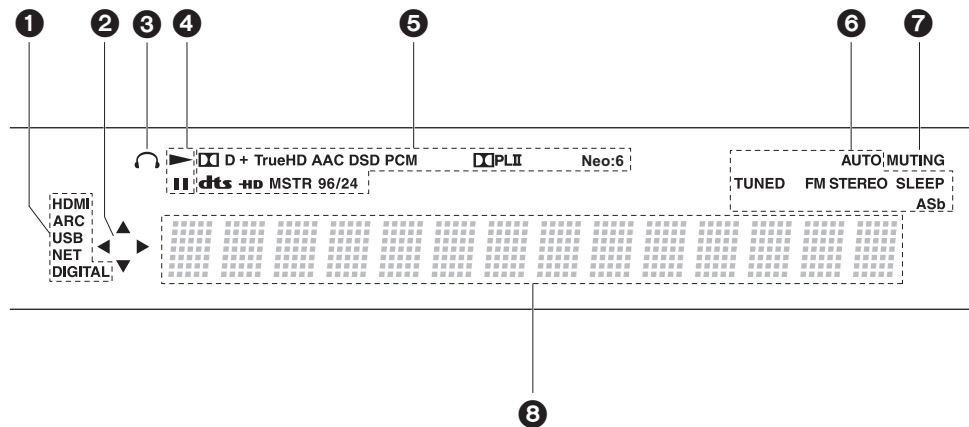


1. 電源ボタン：電源のオン / スタンバイを切り換えます。
2. 入力切替ボタン：再生する入力を切り換えます。
3. AV ADJUST ボタン：よく利用する設定をテレビの画面で行うことができます。(→P40)
4. カーソル、ENTER ボタン：カーソルで項目を選び、ENTER で決定します。
5. ホームボタン：ホーム画面を表示します。
6. ボリュームボタン：音量を調整します。消音状態のときは、消音状態を解除できます。
7. 消音ボタン：一時的に消音します。もう一度押しと消音状態を解除できます。
8. リスニングモードボタン：リスニングモードを選びます。(→P30)
9. 再生操作ボタン：Music Server や USB 再生の再生操作ができます。
10. リピート / ランダム再生ボタン：Music Server や USB 再生時にリピート / ランダム再生の操作ができます。
- CLEAR ボタン：テレビ画面での文字入力時に、入力した文字をすべて消去します。
11. i (STATUS) ボタン：表示部の情報を切り換えます。
12. X ボタン：設定中にひとつ前の表示に戻します。
13. DIMMER ボタン：表示部を消灯したり、明るさを 3 段階で切り換えることができます。
14. MODE ボタン：FM 放送局の自動選局 / 手動選局を切り換えるときに使用します。
15. +Fav ボタン：FM 放送局を登録するときに使用します。





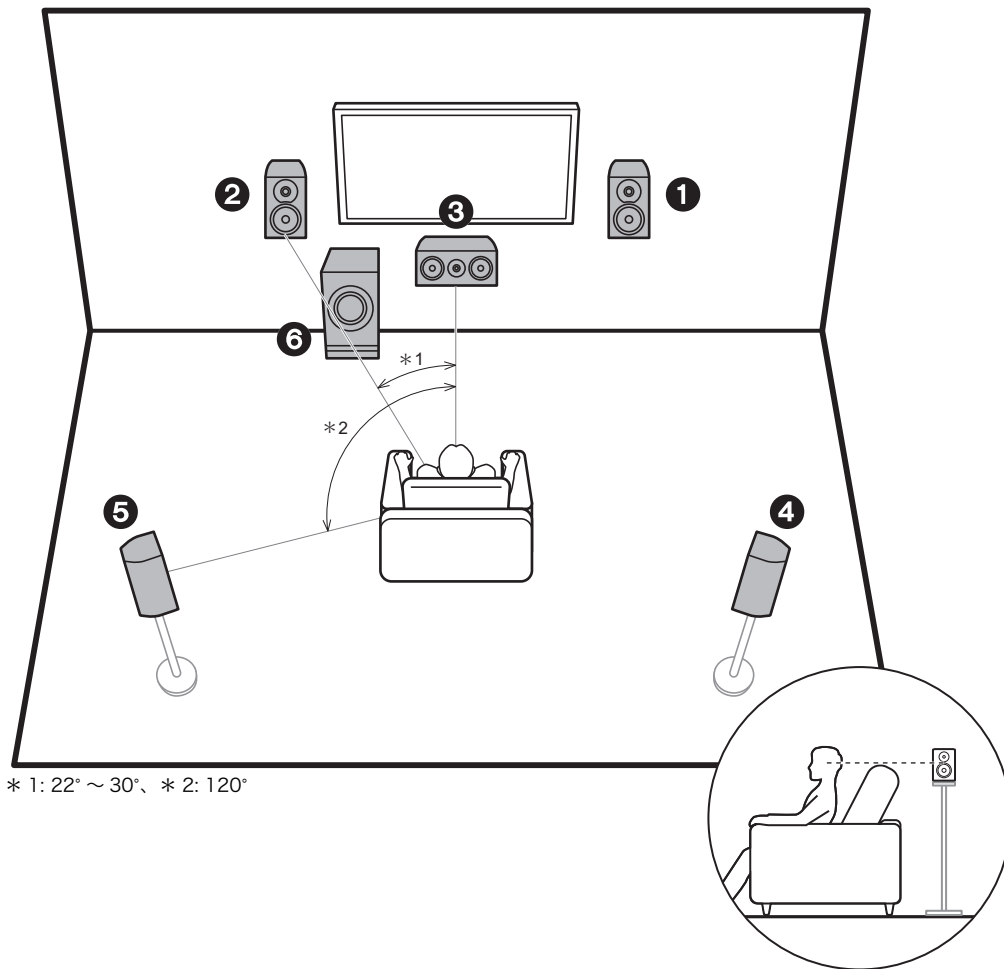
表示部



1. 次の状態のときに点灯します。
 HDMI: HDMI 信号が入力かつ選択されているとき
 ARC: ARC 対応テレビからの音声信号が入力かつ選択されているとき
 USB: 「USB」入力切替で USB が接続かつ選択されているとき。USB が正しく接続されていないときは点滅します。
 NET: 「NET」入力切替でネットワークに接続されているとき。ネットワークに正しく接続されていないときは点滅します。
 DIGITAL: デジタル信号が入力かつ選択されているとき
2. 「NET」、「USB」入力切替での操作時に、楽曲の一覧画面などリモコンのカーソル操作ができる場合などに点灯します。
3. ヘッドホン接続時に点灯します。
4. 「NET」、「USB」入力切替での操作時に、楽曲の再生や一時停止をすると点灯します。
5. 入力されているデジタル音声信号の種類やリスニングモードに応じて点灯します。
6. 次の状態のときに点灯します。
 AUTO: 放送局の選局モードがオートのとき
 TUNED: FM 放送局の受信時
 FM STEREO: FM ステレオ局の受信時
 SLEEP: スリープタイマーが設定されているとき
 ASb: 自動スタンバイ機能が有効なとき (→P51)
7. 消音中に点滅します。
8. 入力信号のさまざまな情報を表示します。本機で対応していない文字はアスタリスク (*) に置き換わります。



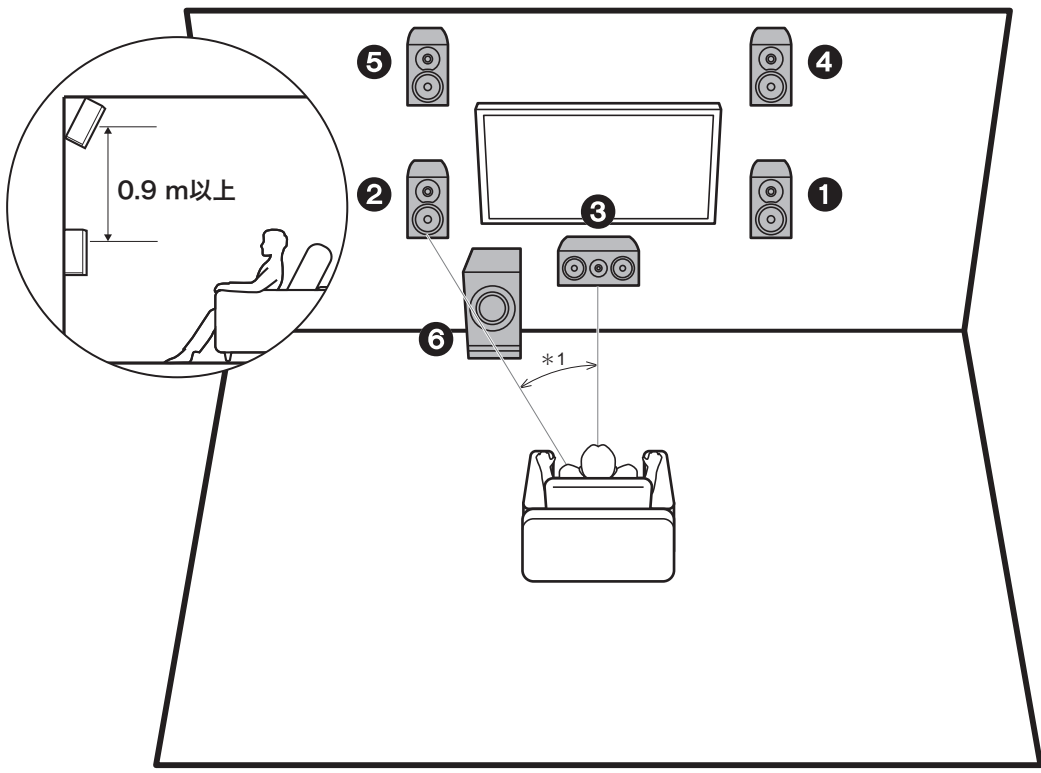
1. スピーカーを設置する



5.1 チャンネルシステム

フロントスピーカーは前方のステレオ音声を、センタースピーカーはセリフやボーカルなど画面中央の音声を出力します。サラウンドスピーカーは後方音場を創出します。アンプ内蔵サブウーファーは重低音を再生し、音場の密度感を高めます。フロントスピーカーは耳の高さに、サラウンドスピーカーは耳の高さのちょうど上に設置するのが理想です。センタースピーカーは視聴者に向くよう角度をつけて設置します。アンプ内蔵サブウーファーは、センタースピーカーとフロントスピーカーの間に設置すると、音楽ソースでも自然に再生できます。

- 1、2 フロントスピーカー
- 3 センタースピーカー
- 4、5 サラウンドスピーカー
- 6 アンプ内蔵サブウーファー



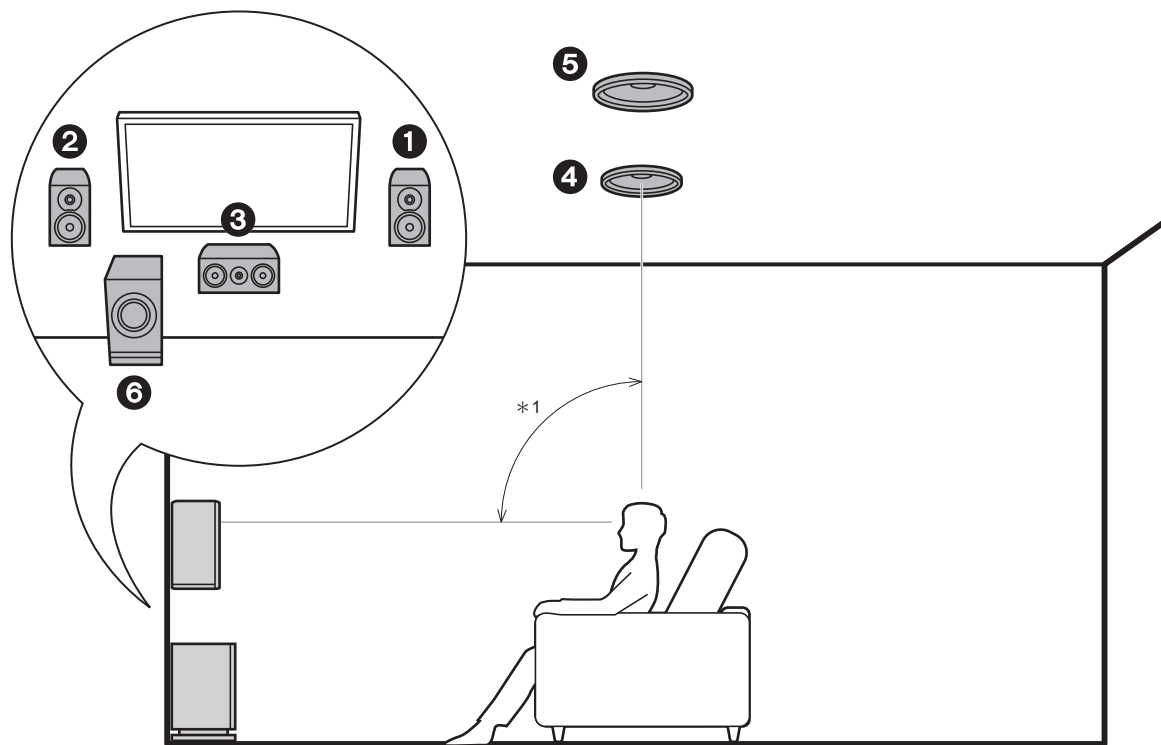
* 1: 22° ~ 30°

3.1.2 チャンネルシステム-1 (フロントハイスピーカー)

フロントスピーカー、センタースピーカーそしてアンプ内蔵サブウーファーで構成される3.1チャンネルシステムにハイトスピーカーのタイプのひとつであるフロントハイスピーカーを加えたシステムです。フロントハイスピーカーはフロントスピーカーの少なくとも0.9 m以上高く設置します。また、フロントスピーカーの真上に設置し、視聴者に向くよう角度をつけて設置してください。

• 本機はファームウェアのアップデートにより、Dolby Atmos 音声フォーマットの再生への対応を予定しております。このファームウェアのアップデート後は、ハイトスピーカーの設置により、Dolby Atmos フォーマットの入力では、頭上を含む最新の3Dサウンドを実現するDolby Atmos リスニングモードが選択できます。ファームウェアのアップデートの詳細はホームページでご確認ください。

- 1、2 フロントスピーカー
- 3 センタースピーカー
- 4、5 フロントハイスピーカー
- 6 アンプ内蔵サブウーファー



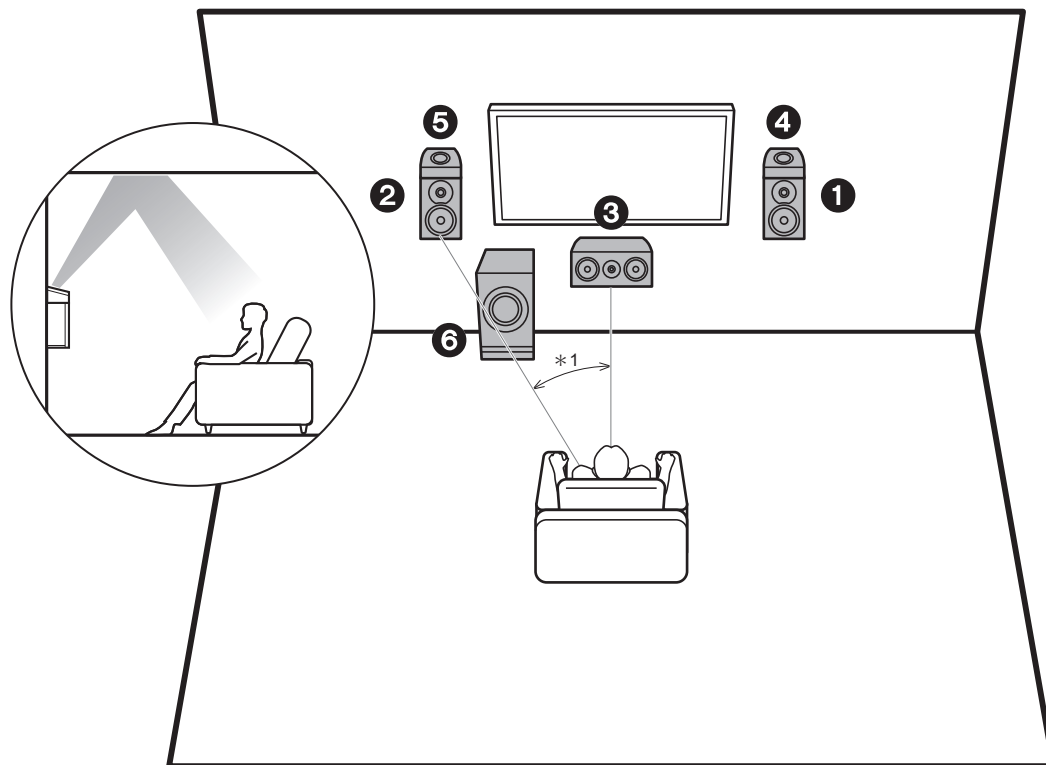
* 1: 65° ~ 100°

3.1.2 チャンネルシステム-2 (天井埋め込み型スピーカー)

フロントスピーカー、センタースピーカーそしてアンプ内蔵サブウーファーで構成される3.1チャンネルシステムにハイトスピーカーのタイプのひとつであるトップミドルスピーカーを加えたシステムです。トップミドルスピーカーは視聴位置の真上の天井に取り付けます。左右の間隔はフロントスピーカーの左右に合わせるのが理想です。

- 本機はファームウェアのアップデートにより、Dolby Atmos 音声フォーマットの再生への対応を予定しております。このファームウェアのアップデート後は、ハイトスピーカーの設置により、Dolby Atmos フォーマットの入力では、頭上を含む最新の3Dサウンドを実現するDolby Atmos リスニングモードが選択できます。ファームウェアのアップデートの詳細はホームページでご確認ください。
- ドルビーラボラトリーズはDolby Atmosの効果を最大に高める設置として、このタイプのハイトスピーカーの設置を推奨しています。

- 1、2 フロントスピーカー
- 3 センタースピーカー
- 4、5 トップミドルスピーカー
- 6 アンプ内蔵サブウーファー



* 1: 22° ~ 30°

3.1.2 チャンネルシステム -3 (Dolby Enabled スピーカー (Dolby Speaker))

フロントスピーカー、センタースピーカーそしてアンプ内蔵サブウーファーで構成される 3.1 チャンネルシステムにハイトスピーカーのタイプのひとつである Dolby Enabled スピーカー (フロント) を加えたシステムです。Dolby Enabled スピーカーは天井に向くように設計された特殊なスピーカーで、音声を天井で反射させて頭上から音声が聞こえる効果があります。Dolby Enabled スピーカー (フロント) は、フロントスピーカーの上に設置します。

- 本機はファームウェアのアップデートにより、Dolby Atmos 音声フォーマットの再生への対応を予定しております。このファームウェアのアップデート後は、ハイトスピーカーの設置により、Dolby Atmos フォーマットの入力では、頭上を含む最新の 3D サウンドを実現する Dolby Atmos リスニングモードが選択できます。ファームウェアのアップデートの詳細はホームページでご確認ください。

- 1、2 フロントスピーカー
- 3 センタースピーカー
- 4、5 Dolby Enabled スピーカー (フロント)
- 6 アンプ内蔵サブウーファー

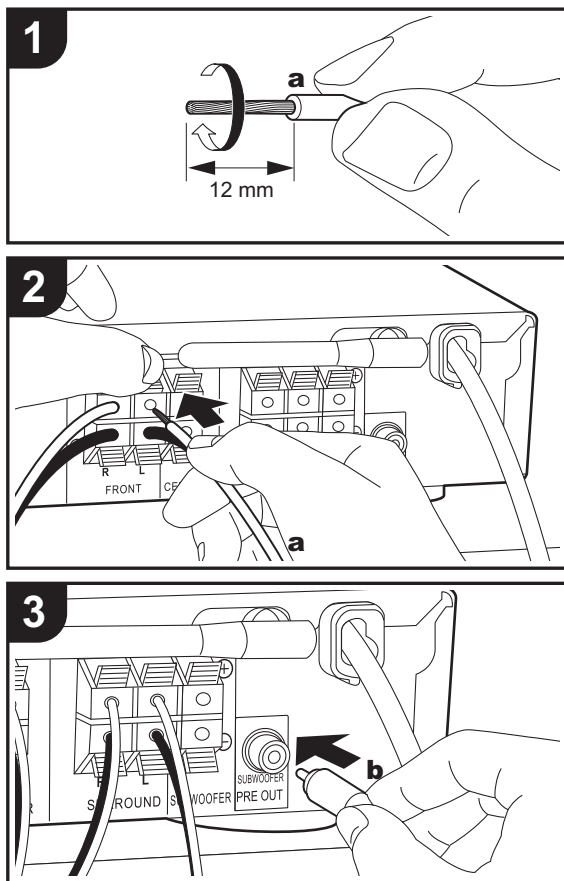


スピーカー組み合わせ一覧

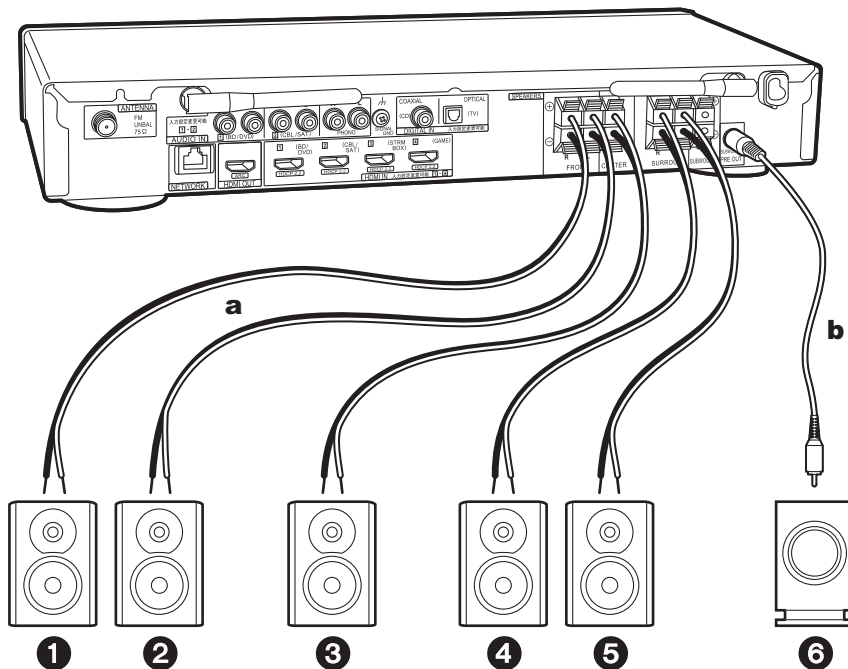
スピーカーチャンネル	FRONT	CENTER	SURROUND	HEIGHT
2.1 ch	✓			
3.1 ch	✓	✓		
4.1 ch	✓		✓	
5.1 ch	✓	✓	✓	
2.1.2 ch	✓			✓
3.1.2 ch	✓	✓		✓



2. スピーカーを接続する



a スピーカーケーブル、b サブwooferケーブル



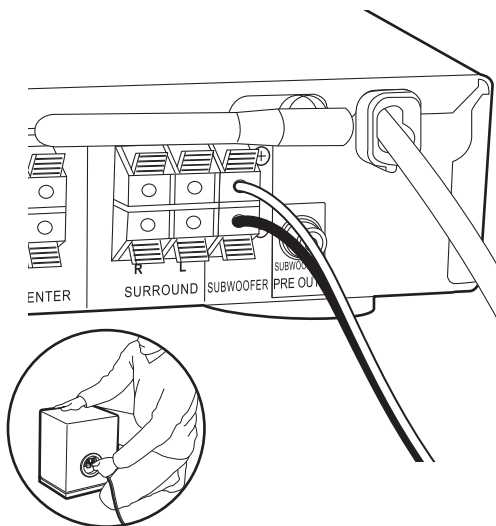
スピーカーを接続する

イラストを参考にスピーカーシステムを接続します。スピーカーケーブルの芯線はしっかりよじってから、SPEAKERS 端子に差し込みます。本機の端子の+側とスピーカーの端子の+側を、-側は-側とを、チャンネルごとに必ず合わせて接続してください。間違えて接続すると、位相が逆になり低音が出にくくなります。サブwooferは、アンプ内蔵サブwoofer、パッシブ

サブwooferのいずれかを接続することができます。アンプ内蔵サブwooferは、サブwooferケーブルを使用して SUBWOOFER PRE OUT 端子に接続します。



また、接続するサブウーファーがパッシブサブウーファーの場合は、次のようにスピーカーケーブルを使用して SPEAKERS 端子に接続してください。

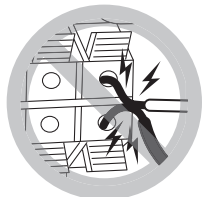


設定が必要です

- 接続したスピーカー構成の設定は、初期設定の「1. フルオート MCACC」(→P19) で設定が必要です。

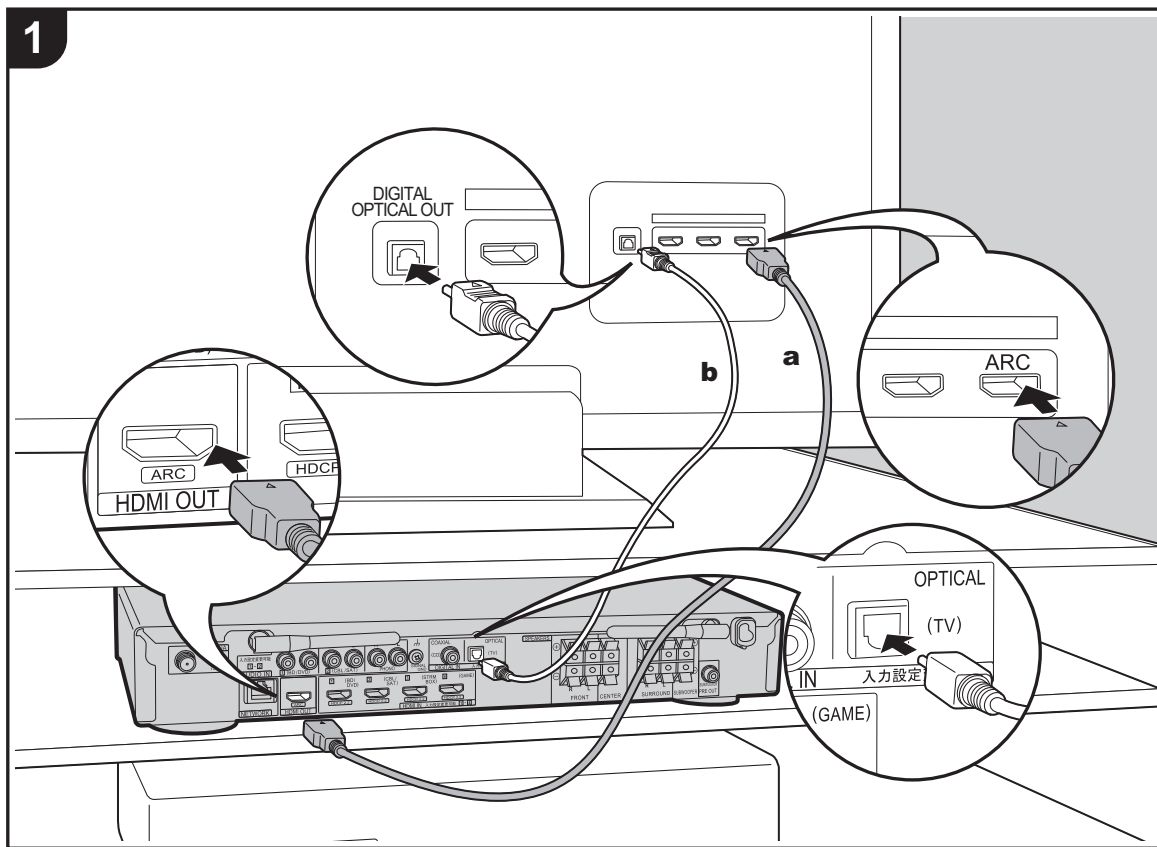
スピーカーケーブルの芯線がスピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルに接触したり、+側と-側が接触すると保護回路が動作します。

(→P62)





3. テレビを接続する



a HDMI ケーブル、b 光デジタルケーブル

ARC 対応テレビとの接続

テレビが ARC (オーディオリターンチャンネル) 機能 (→P68) に対応している場合は、HDMI ケーブルを使用し、イラストの「a」の接続を行います。テレビ側の HDMI IN 端子は ARC 対応の端子を選んで接続してください。

ARC 非対応テレビとの接続

テレビが ARC (オーディオリターンチャンネル) 機能に対応していない場合は、イラストの「a」の HDMI ケーブルと「b」の光デジタルケーブルを接続します。

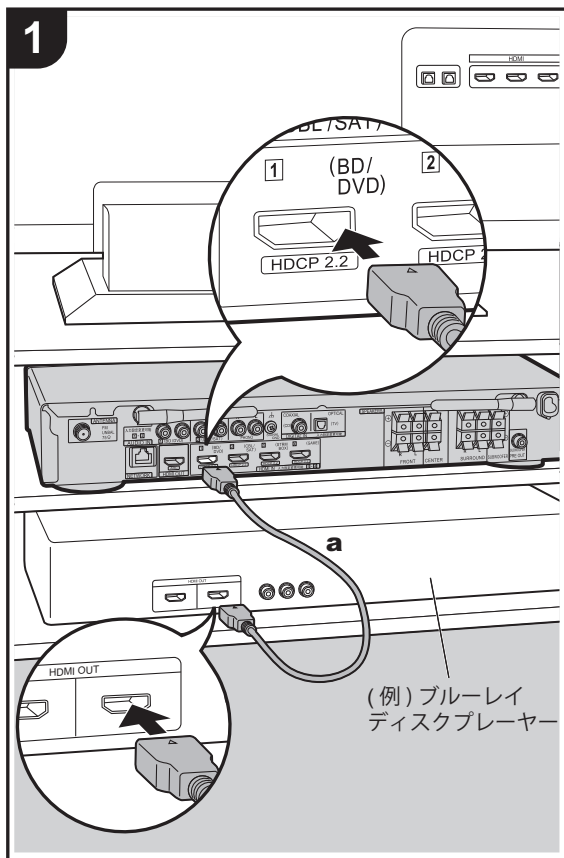


設定が必要です

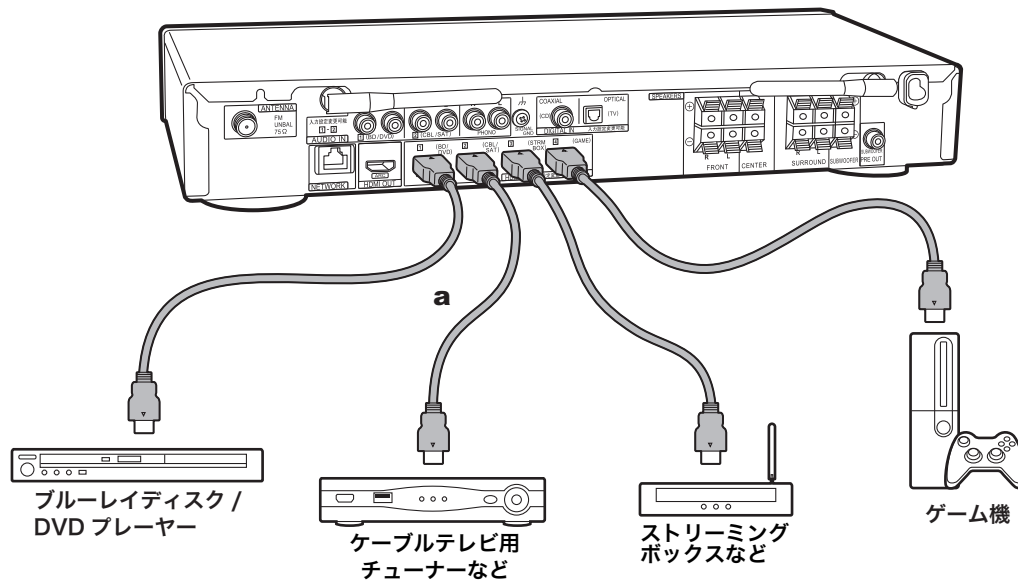
- ARC 機能を使用するためには設定が必要です。初期設定の「4. オーディオリターンチャンネル」(→P20) で、「はい」を選択してください。
- テレビとの接続、設定方法については、テレビの取扱説明書もご覧ください。



4. HDMI 端子のある AV 機器との接続



a HDMI ケーブル



HDMI 端子を持つ AV 機器との接続例です。CEC (Consumer Electronics Control) 規格に準拠している AV 機器との接続では、入力の連動切替などの HDMI CEC 機能や、本機の電源がスタンバイ状態になっているときでも AV 機器の映像 / 音声信号をテレビに伝送できる HDMI スタンバイスルー機能を使用することができます。(→P68)

- 4K、1080p の映像を再生する場合は、ハイスピード HDMI ケーブルをご使用ください。

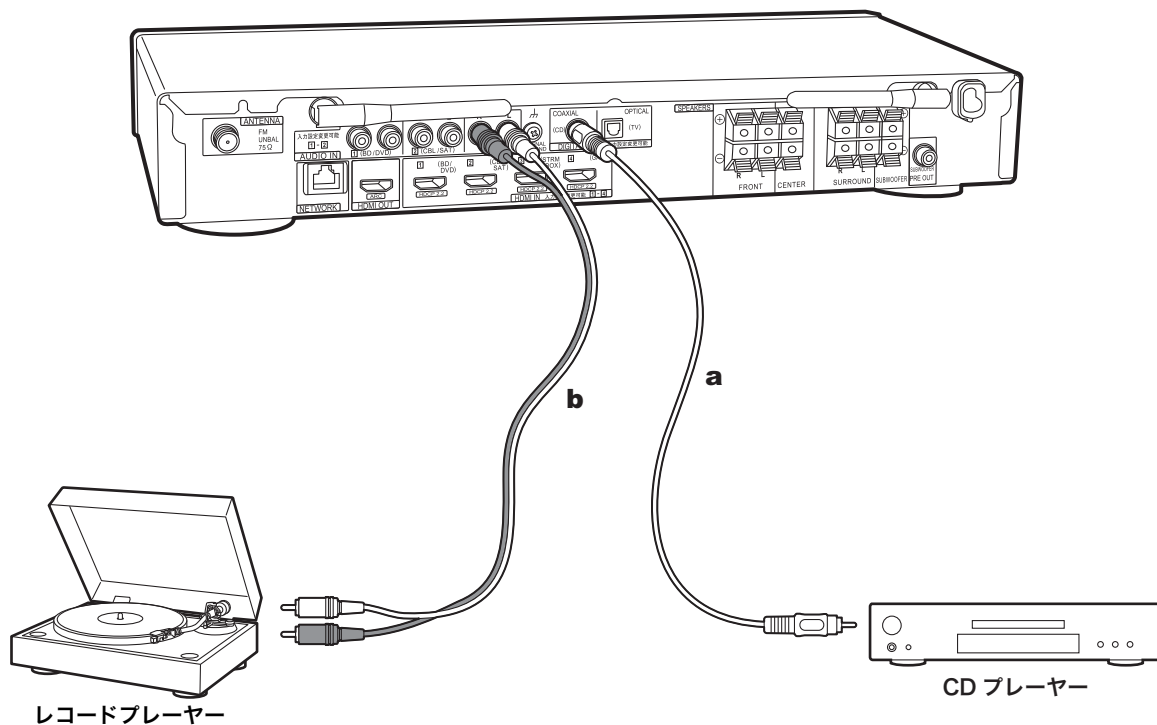


設定が必要です

- HDMI CEC 機能や HDMI スタンバイスルー機能を使用するには設定が必要です。(→P50) すべての接続が完了した後に設定を行ってください。
- Dolby Digital などのデジタルサラウンド音声を楽しむためには、接続したブルーレイディスクプレーヤーなどの音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。



5. オーディオ機器との接続



a 同軸デジタルケーブル、**b** オーディオ用ピンケーブル

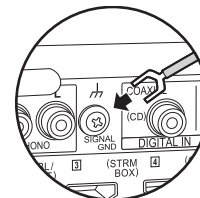
CD プレーヤーを接続する

CD プレーヤーは同軸デジタルケーブルを使って DIGITAL IN COAXIAL 端子に接続します。

レコードプレーヤーを接続する

PHONO 端子には、MM 型のカートリッジを使用したレコードプレーヤーを接続することができます。

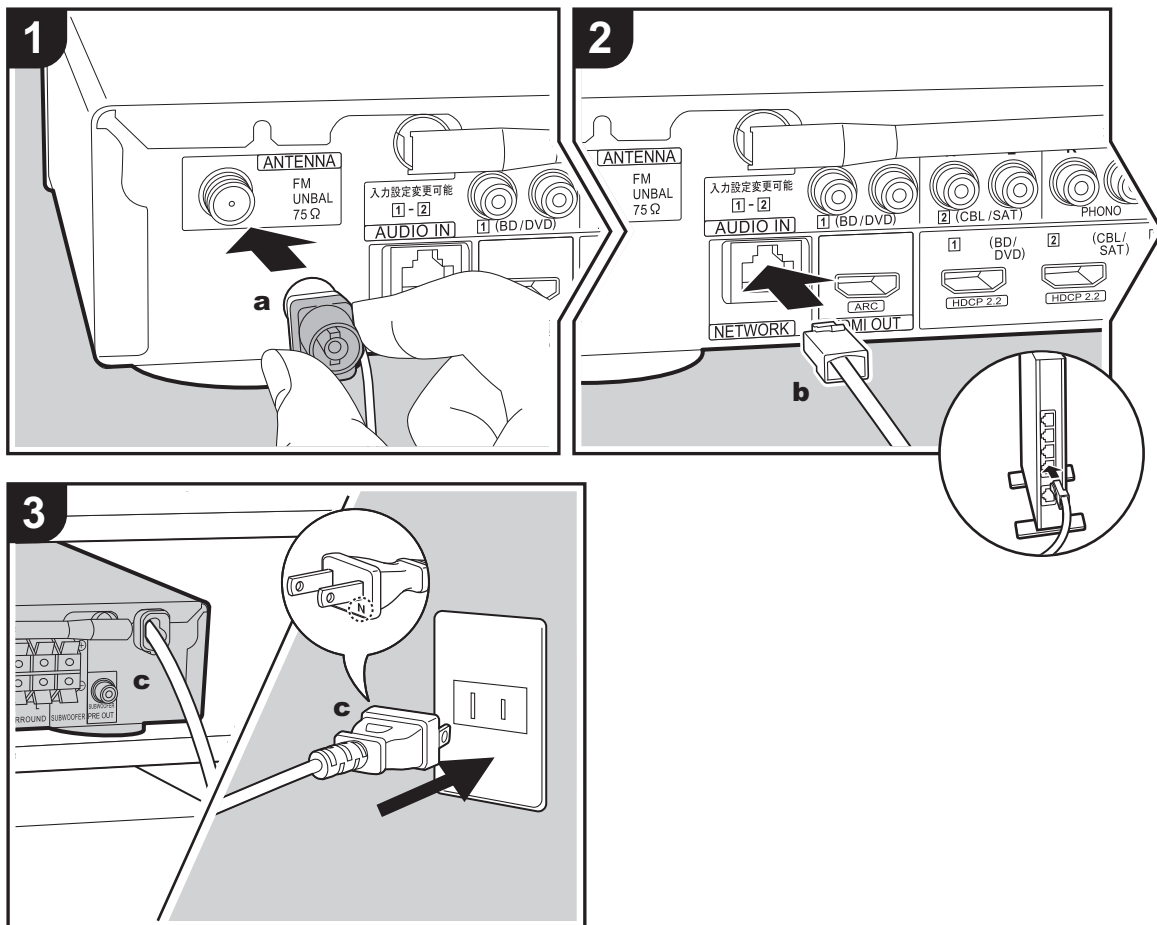
- レコードプレーヤーがフォノイコライザーを内蔵している場合は、PHONO 端子以外の AUDIO IN 端子のいずれかに接続します。また、MC 型カートリッジを使用したレコードプレーヤーの場合は、MC カートリッジ対応のフォノイコライザーを本機とレコードプレーヤーの間に介して、PHONO 端子以外の AUDIO IN 端子のいずれかに接続します。



レコードプレーヤーにアース線がある場合は、SIGNAL GND 端子に接続します。



6. その他の接続



a FM 室内アンテナ、b LAN ケーブル、c 電源コード

アンテナ接続

付属の FM 室内アンテナを ANTENNA FM UNBAL 75Ω 端子に接続します。受信しながら、もっとも聴き取りやすい位置に FM 室内アンテナを設置してください。



ネットワーク接続

本機は有線 LAN または Wi-Fi (無線 LAN) を使用してネットワーク接続し、インターネットラジオなどのネットワーク機能を楽しむことができます。有線 LAN で接続する場合は、ルーターと NETWORK 端子を LAN ケーブルで接続してください。Wi-Fi で接続するには、初期設定の「3. ネットワーク接続」(→P19) で「ワイヤレス」を選んだあと、お好みの設定方法を選んで画面の指示に従って設定してください。

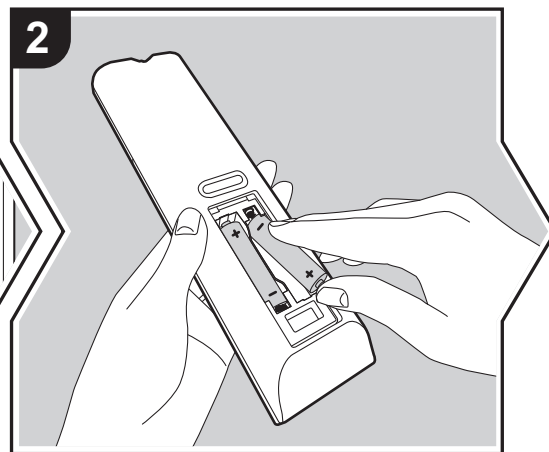
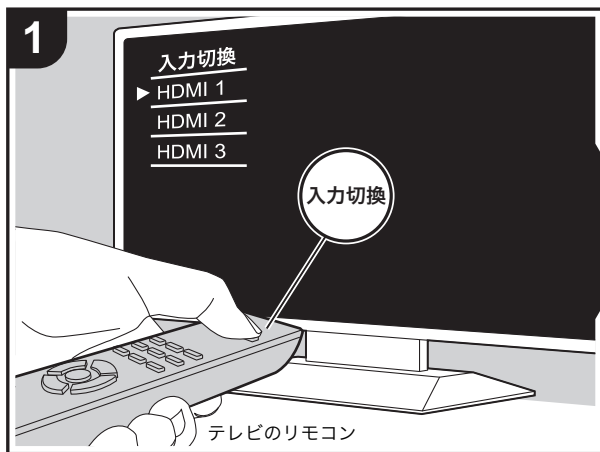
電源コードの接続

すべての接続が完了したあとに、本体の電源コードをコンセントに接続してください。

音質向上のため、電源の極性を合わせます。電源プラグの N の印字がある側をコンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。コンセントの溝の長さが同じ場合は、どちらを接続してもかまいません。



電源オンと初期設定

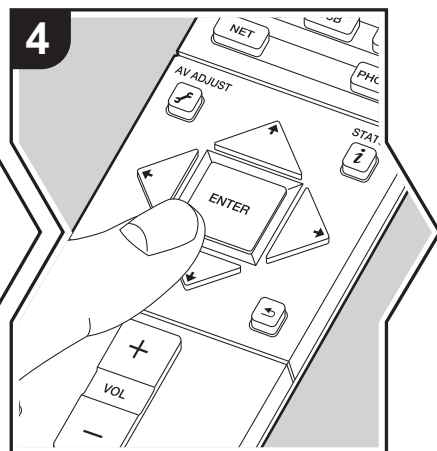
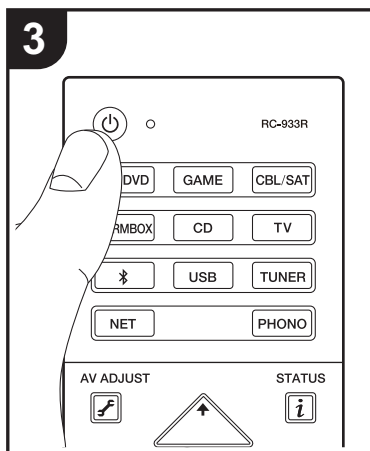


初期設定が自動で開始

1. テレビの入力を本機と接続した入力に切り換えます。
2. 本機のリモコンに電池を入れます。
3. リモコンの ボタンを押します。初めて電源を入れると、スタートアップに必要な初期設定の画面が自動でテレビに表示されます。



4. 画面の表示に従って、リモコンのカーソルで項目を選び、ENTER ボタンで決定します。
 - ひとつ前の画面に戻るには、 ボタンを押します。



初期設定をやり直すには：途中で終了してしまった場合や、再度初期設定を変更する場合は、リモコンの ボタンを押し、ホーム画面から「システム設定」- 「その他」- 「初期設定」を選んで ENTER ボタンを押してください。画面に表示する言語を選び直すには、「OSD 言語」で変更してください。(➡P43)

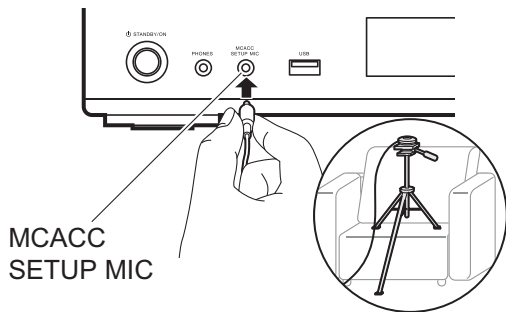


1. フルオート MCACC

付属の測定用マイクを視聴位置に設置して、各スピーカーから出力されるテスト音を測定し、最適な音量レベルやクロスオーバー周波数、視聴位置からの距離を自動で設定します。また、スピーカーのイコライザ調整を自動で行い、部屋の環境による音のひずみを補正することができます。

- 測定は完了するまでに3～12分ほどかかります。測定中は各スピーカーより大音量のテスト音が出力されますので、周囲への影響に充分ご注意ください。また、測定中はできるだけ部屋を静かにしてください。
- 本機の電源が突然切れるときは、スピーカーケーブルの芯線がリアパネルや他の芯線と接触して、保護回路が働いています。芯線をしっかりねじり直し、スピーカー端子からはみ出ないように接続してください。

1. 付属の測定用マイクを視聴位置に設置し、本体の MCACC SETUP MIC 端子に接続します。



MCACC
SETUP MIC

測定用マイクの設置で三脚などをご使用の場合は、イラストを参考に設置してください。

- フルオート MCACC を途中で終了する場合は、測定用マイクを取り外してください。
2. 接続しているスピーカー構成を選びます。



「スピーカーチャンネル」では、チャンネル数を選ぶごとに画面の図が切り換わりますので参考にしてください。サブウーファースの有無もこの画面で選択します。

- サブウーファースを接続している場合は、サブウーファースの電源や音量を確認してください。サブウーファースの音声が超低域のため認識されない場合があるので、音量は半分以上に設定してください。
3. 各スピーカーからテスト音が出力され、まずは、接続したスピーカーと周囲のノイズが自動で測定されます。
 4. 上記の測定結果が表示され、「次へ」を選びリモコンの ENTER ボタンを押すと、再度テスト音が出力され、最適な音量レベルやクロスオーバー周波数などの設定が自動で行われます。
 5. 測定が完了したら、測定結果が表示されます。リモコンのカーソル ◀ / ▶ で各設定が確認できます。「設定保存」を選びリモコンの ENTER ボタンを押すと、設定が保存されます。



6. 測定用マイクを取り外します。接続したままでは、他のメニュー操作はできません。

2. 接続確認

接続した各入力接続確認を行います。ガイダンスに沿って、確認したい入力を選び、選んだ機器の再生を開始して、テレビの画面に映像と音声再生されるかを確認します。

3. ネットワーク接続

無線 LAN ルータなどのアクセスポイントとの Wi-Fi 接続設定を行います。Wi-Fi の接続方法には 2 通りの方法があります。

「ネットワークを検索する」：本機からアクセスポイントを検索して接続します。事前にアクセスポイントの SSID をお調べください。

「iOS デバイス (iOS7 以降) を使用する」：お使いの iOS 端末の Wi-Fi 設定を本機に共有して接続します。

「ネットワークを検索する」を選んだ場合は、さらに 2 種類の接続方法があります。以下の内容をご確認ください。

- 「パスワード入力」：アクセスポイントのパスワード (キー) を入力して接続します。
- 「プッシュボタン」：アクセスポイントに自動設定ボタンが装備されている場合に、パスワードの入力を行わずに接続できます。
- アクセスポイントの SSID が表示されない場合は、SSID の一覧画面でリモコンのカーソルの ▶ ボタンで「その他・・・」を選んで ENTER ボタンを押し、画面に従って設定してください。



キーボードの入力について：大文字 / 小文字を切り換える



には、画面の「A/a」を選び、ENTER ボタンを押します。リモコンの +Fav ボタンを押すと、パスワードを「*」で表示するか入力した文字をそのまま表示するか切り換えます。CLEAR ボタンを押すと入力した文字をすべて消去します。

プライバシーポリシーについて：ネットワーク設定中にプライバシーポリシーに同意するかの確認画面が表示されます。同意する場合は「はい」を選択し、ENTER ボタンを押してください。

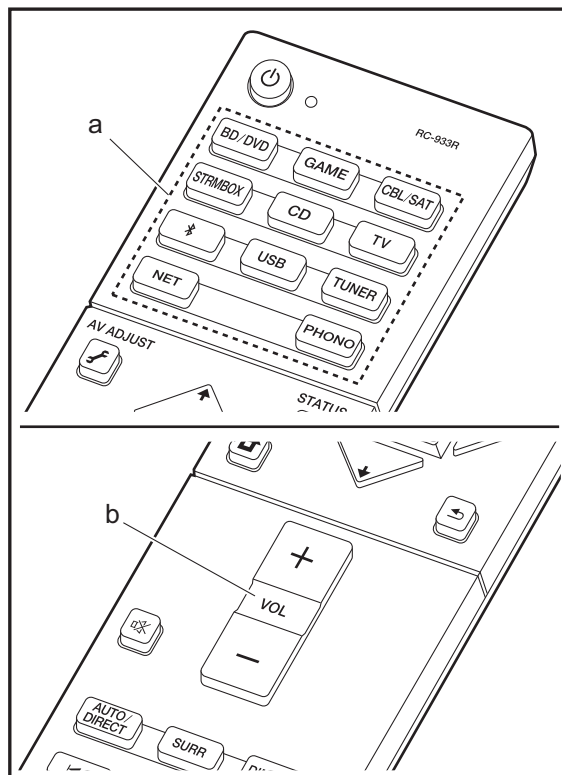
4. オーディオリターンチャンネル

ARC 機能に対応したテレビと接続する場合、「はい」を選んでください。本機の ARC 設定がオンになり、テレビの音声を本機で楽しむことができます。

- 「はい」を選ぶと HDMI CEC 機能がオンになり、スタンバイ時の消費電力が増加します。



AV 機器の再生



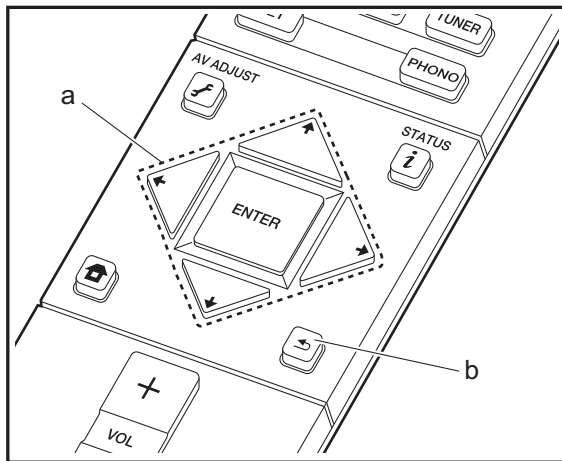
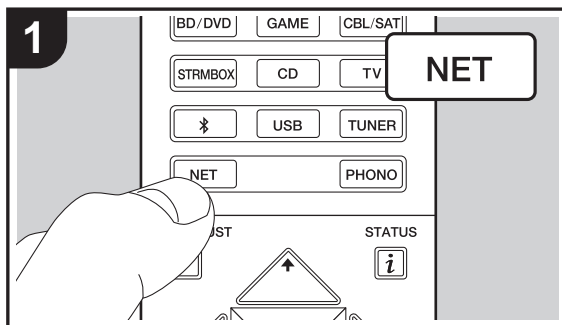
基本の操作

HDMI ケーブルなどで接続した、AV 機器やテレビなどを再生します。

1. テレビの入力を本機と接続した入力に切り換えます。
2. 接続した端子名と同じ名称のリモコンの入力切換ボタン (a) を押して、入力を切り換えます。
例えば、BD/DVD 端子に接続した機器を再生する場合は、BD/DVD ボタンを押します。テレビの音声を聴くには TV ボタンを押します。
 - CEC の連動機能が働くと、本機と HDMI 接続した CEC 対応テレビや再生機器とは入力切換が自動で行われます。
3. 機器を再生します。
4. 音量調整は VOL+/- (b) で行います。



インターネットラジオ



基本の操作

本機をネットワークに接続しているとき、TuneIn などあらかじめ登録されたインターネットラジオサービスを再生することができます。

1. テレビの入力を本機と接続した入力に切り換えます。
2. リモコンの NET ボタンを押します。



3. 画面の表示に従ってカーソルでラジオ局や番組を選び、ENTER ボタンで再生します (a)。バッファリングが 100% 表示になると、再生がはじまります。
 - ひとつ前の画面に戻るには ◀ ボタン (b) を押します。
 - ネットワークサービスを選択できない場合は、ネットワーク機能が起動すると選べるようになります。

TuneIn Radio について

放送局の再生中にリモコンの ENTER ボタン (a) を押すと、TuneIn Radio のメニューが表示されます。

Add to My Presets: 放送中のラジオ局や番組を「My Presets」に登録します。「My Presets」は登録すると、TuneIn Radio の次の階層に表示されます。再生する場合は「My Presets」からお好きな番組を選びます。

Remove from My Presets: ラジオ局や番組を TuneIn Radio の「My Presets」から削除します。

radiko.jp について

放送局の再生中にリモコンの ENTER ボタン (a) を押すと、radiko.jp のメニューが表示されます。

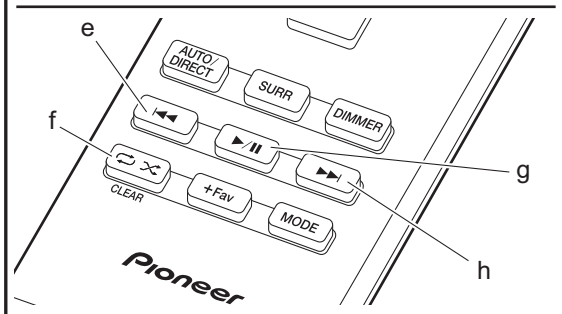
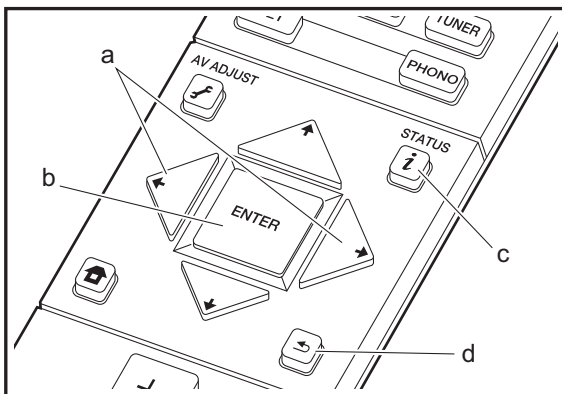
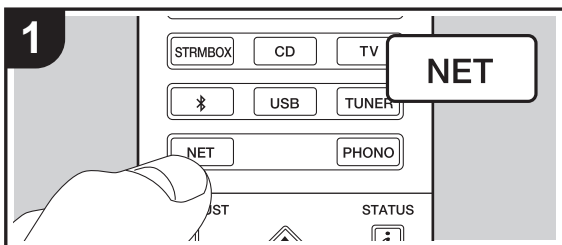
今日の番組表: 当日の番組一覧を表示します。

明日の番組表: 明日の番組一覧を表示します。

番組情報: 再生中の番組の詳細を表示します。



Music Server



本機と同じネットワークに接続した PC や NAS に保存された音楽ファイルをストリーミング再生することができます。本機が対応しているネットワークサーバーは、Windows Media® Player 11 または 12 などのサーバー機能を備えたプレーヤーがインストールされた PC、またはホームネットワーク機能対応の NAS です。Windows Media® Player 11 または 12 をお使いの場合、事前の設定が必要です。なお、Windows Media® Player のライブラリに登録されている音楽ファイルのみが再生できます。

Windows Media® Player の設定

■ Windows Media® Player 11 の場合

1. PC の電源を入れ、Windows Media® Player 11 を開きます。
2. 「ライブラリ」メニューから「メディアの共有」を選んで、ダイアログを開きます。
3. 「メディアを共有する」のチェックボックスにチェックを入れ、「OK」をクリックして、対応機器を表示させます。
4. 本機を選び、「許可」をクリックして、本機のアイコンにチェックを付けます。
5. 「OK」をクリックして、ダイアログを閉じます。
 - Windows Media® Player のバージョンによっては、選択する項目の名称が説明と異なる場合があります。

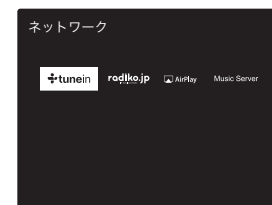
■ Windows Media® Player 12 の場合

1. PC の電源を入れ、Windows Media® Player 12 を開きます。
2. 「ストリーム」メニューから「メディアストリーミングを有効にする」を選び、ダイアログを開きます。
 - メディアストリームがすでに有効になっている場合は、「ストリーム」メニューから「その他のストリーミングオプション」を選ぶと、ネットワーク内の再生機器一覧が表示されますので、手順 4 に進んでください。
3. 「メディアストリーミングを有効にする」をクリックして、ネットワーク内の再生機器一覧を表示させます。
4. 「メディアストリーミングオプション」で本機を選び、

- 「許可」になっていることを確認します。
5. 「OK」をクリックして、ダイアログを閉じます。
 - Windows Media® Player のバージョンによっては、選択する項目の名称が説明と異なる場合があります。

再生する

1. 再生する音楽ファイルが保存されているサーバー (Windows Media® Player 11、Windows Media® Player 12、NAS のいずれか) を起動します。
2. PC や NAS が本機と同じネットワークに接続されているか確認します。
3. テレビの入力を本機と接続した入力に切り換えます。
4. リモコンの NET ボタンを押します。



5. リモコンのカーソルで「Music Server」を選び、ENTER ボタン (b) を押します。
6. リモコンのカーソルで目的のサーバーを選び、ENTER ボタン (b) を押して、項目のリスト画面を表示させます。
7. リモコンのカーソルで再生する音楽ファイルを選び、ENTER ボタン (b) で再生します。ひとつ前の画面に戻るには ◀ ボタン (d) を押します。
 - 画面に「No Item.」と表示される場合は、ネットワークの接続が正しくされているか確認してください。
 - サーバーの種類や共有設定によっては、本機から認識できなかったり、サーバーに保存された音楽ファイルを再生できない場合があります。また、本機ではサーバーにある写真や動画にはアクセスできません。
 - サーバー内の音楽ファイルは、1 フォルダにつき 20,000



曲まで、フォルダは16階層まで対応しています。

また、以下のリモコン操作が可能です。

- (a) フォルダやファイルのリストが一画面で表示されない場合に、画面を切り換えることができます。
- (c) 再生中に押すと、曲情報を切り換えます。フォルダやファイルのリスト画面を表示中に押すと、再生画面に戻ります。
- (e) 前の曲を再生します。
- (f) リピートやランダム再生します。このボタンを押すたびにリピートモードが切り換わります。
- (g) 再生中に押すと、一時停止します。一時停止中に押すと、再生します。
- (h) 次の曲を再生します。

PC を操作してリモート再生する

ホームネットワーク内の PC を操作することにより、PC に保存された音楽ファイルを本機で再生できます。本機では、Windows Media® Player 12 を介したリモート再生操作が行えます。

1. PC の電源を入れ、Windows Media® Player 12 を開きます。
2. 「ストリーム」メニューを開き、「プレーヤーのリモート制御を許可」にチェックが入っていることを確認します。「メディアストリーミングを有効にする」をクリックして、ネットワーク内の再生機器一覧を表示させます。
3. テレビの入力を本機と接続した入力に切り換えます。
4. Windows Media® Player 12 で再生する音楽ファイルを選び、右クリックします。別のサーバー内の音楽ファイルをリモート再生する場合は、「その他のライブラリ」から目的のサーバーを開き、再生する音楽ファイルを選びます。
5. 「リモート再生」から本機を選び、Windows Media® Player 12 の「リモート再生」ウィンドウを開いて、本機で再生を始めます。Windows® 8.1 をお使いの場合は、「リモート再生」をクリックしてから本機を選びます。Windows® 10 をお使いの場合は、「デバイスキャ

スト」をクリックしてから本機を選びます。リモート再生中の操作は、PC の「リモート再生」ウィンドウで行います。再生画面は HDMI 接続されたテレビに表示されます。

6. 「リモート再生」ウィンドウの音量バーで、音量を調節します。
 - リモート再生ウィンドウと本機の音量値は一致しない場合があります。また、本機で変更した音量は、「リモート再生」ウィンドウには反映されません。
 - ネットワークサービスを使っていたり、USB ストレージの音楽ファイルを再生している場合は、リモート再生できません。
 - Windows® のバージョンによっては、選択する項目の名称が説明と異なる場合があります。

対応音声フォーマットについて

本機で再生できる音楽ファイルのフォーマットは次のとおりです。なお、リモート再生では FLAC、DSD、Dolby TrueHD には対応していません。

MP3 (.mp3/.MP3):

- 対応フォーマット：MPEG-1/MPEG-2 Audio Layer-3
- 対応サンプリングレート：44.1 kHz、48 kHz
- 対応ビットレート：8～320 kbps および VBR

WMA (.wma/.WMA):

- 対応サンプリングレート：44.1 kHz、48 kHz
- 対応ビットレート：5～320 kbps および VBR
- WMA Pro/Voice/WMA Lossless 非対応

WAV (.wav/.WAV):

- WAV ファイルは非圧縮の PCM デジタルオーディオを含みます。
- 対応サンプリングレート：44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
 - 量子化ビット：8 bit、16 bit、24 bit

AIFF (.aiff/.aif/.aifc/.afc/.AIFF/.AIF/.AIFC/.AFC):

AIFF ファイルは非圧縮の PCM デジタルオーディオを含みます。

- 対応サンプリングレート：44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
- 量子化ビット：8 bit、16 bit、24 bit

AAC (.aac/.m4a/.mp4/.3gp/.3g2/.AAC/.M4A/.MP4/.3GP/.3G2):

- 対応フォーマット：MPEG-2/MPEG-4 Audio
- 対応サンプリングレート：44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 対応ビットレート：8～320 kbps および VBR

FLAC (.flac/.FLAC):

- 対応サンプリングレート：44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
- 量子化ビット：8 bit、16 bit、24 bit

LPCM (Linear PCM):

- 対応サンプリングレート：44.1 kHz、48 kHz
- 量子化ビット：16 bit

Apple Lossless (.m4a/.mp4/.M4A/.MP4):

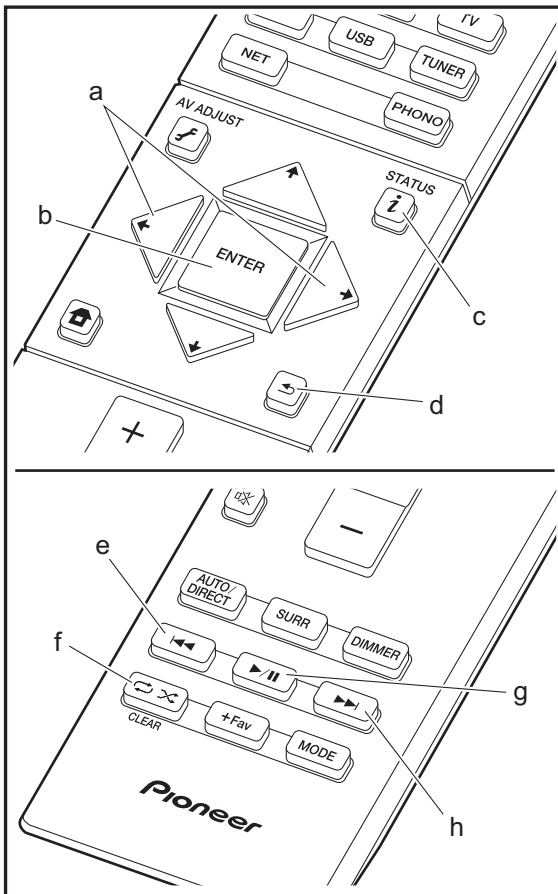
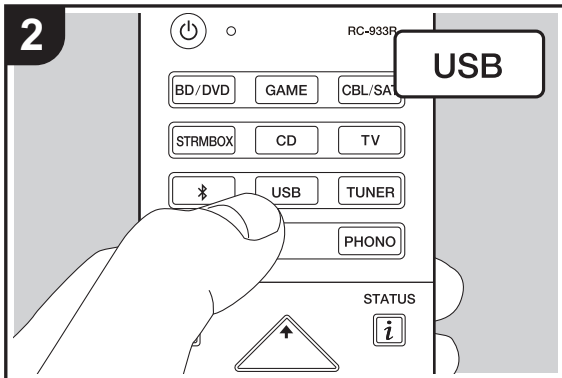
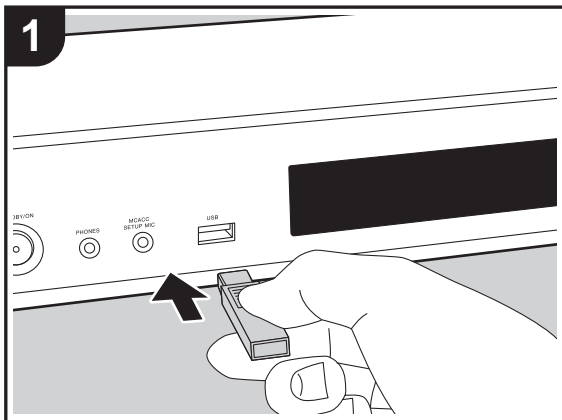
- 対応サンプリングレート：44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
- 量子化ビット：16 bit、24 bit

DSD (.dsf/.dff/.DSF/.DFF):

- 対応フォーマット：DSF/DSDIFF
- 対応サンプリングレート：2.8 MHz、5.6 MHz
- VBR (可変ビットレート) で記録されたファイルを再生した場合、再生時間が正しく表示されないことがあります。
- リモート再生は、ギャップレス再生に対応していません。



USB ストレージ



基本の再生

USB ストレージの音楽ファイルを再生できます。

1. テレビの入力を本機と接続した入力に切り換えます。
2. 本機前面の USB 端子に音楽ファイルが入った USB ストレージを接続します。
3. リモコンの「USB」ボタンを押します。
 - 表示部の「USB」が点滅する場合は、USB ストレージが正しく接続されているか確認してください。
 - 表示部に「Connecting…」が表示されている間は、本機と接続している USB ストレージを抜かないでください。データ破損や故障の原因になります。
4. 次の画面で、リモコンの ENTER ボタン (b) を押します。USB ストレージ内のフォルダや音楽ファイルがリスト表示されますので、カーソルでフォルダを選び、ENTER ボタン (b) を押します。
 - ひとつ前の画面に戻るには ◀ ボタン (d) を押します。
5. リモコンのカーソルで音楽ファイルを選び、ENTER ボタン (b) で再生します。
 - 本機の USB 端子は USB2.0 規格に準拠しています。再生するコンテンツによっては、転送速度が足りずに音途切れなどが発生する場合があります。

また、以下のリモコン操作が可能です。

- (a) フォルダやファイルのリストが一画面で表示されない場合に、画面を切り換えることができます。
- (c) 再生中に押すと、曲情報を切り換えます。フォルダやファイルのリスト画面を表示中に押すと、再生画面に戻ります。
- (e) 前の曲を再生します。
- (f) リピートやランダム再生します。このボタンを押すたびにリピートモードが切り換わります。
- (g) 再生中に押すと、一時停止します。一時停止中に押すと、再生します。
- (h) 次の曲を再生します。



USB デバイスについて

- すべてのUSBストレージとの動作を保証するものではありません。
- 本機ではUSB マスストレージクラスに対応しているUSBストレージを使用できます。また、USBストレージのフォーマットは、FAT16、FAT32に対応しています。
- USBストレージがパーティションで区切られている場合、本機では複数のUSBストレージとして認識されません。
- 1フォルダにつき20,000曲まで、フォルダは16階層まで対応しています。
- 本機はハブおよびハブ機能付きUSB機器に対応していません。これらの機器を本機に接続しないでください。
- 本機はセキュリティ機能付きUSBストレージに対応していません。
- USBストレージにACアダプターが付属している場合は、ACアダプターをつないで家庭用電源でお使いください。
- USBカードリーダーに挿したメディアは、この機能で使えないことがあります。また、USBストレージによっては、正しく内容を読み込めなかったりする場合があります。
- USBストレージの使用に際して、データの損失や変更、ストレージの故障などが発生しても弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。USBストレージに保存されているデータは、本機でのご使用の前にバックアップを取っておくことをおすすめします。

対応音声フォーマットについて

本機で再生できる音楽ファイルのフォーマットは次のとおりです。なお、著作権保護された音声ファイルは本機では再生できません。

MP3 (.mp3/.MP3):

- 対応フォーマット：MPEG-1/MPEG-2 Audio Layer-3
- 対応サンプリングレート：44.1 kHz、48 kHz
- 対応ビットレート：8～320 kbps および VBR

WMA (.wma/.WMA):

- 対応サンプリングレート：44.1 kHz、48 kHz
- 対応ビットレート：5～320 kbps および VBR
- WMA Pro/Voice/WMA Lossless 非対応

WAV (.wav/.WAV):

WAV ファイルは非圧縮の PCM デジタルオーディオを含みます。

- 対応サンプリングレート：44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
- 量子化ビット：8 bit、16 bit、24 bit

AIFF (.aiff/.aif/.aifc/.afc/.AIFF/.AIF/.AIFC/.AFC):
AIFF ファイルは非圧縮の PCM デジタルオーディオを含みます。

- 対応サンプリングレート：44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
- 量子化ビット：8 bit、16 bit、24 bit

AAC (.aac/.m4a/.mp4/.3gp/.3g2/.AAC/.M4A/.MP4/.3GP/.3G2):

- 対応フォーマット：MPEG-2/MPEG-4 Audio
- 対応サンプリングレート：44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 対応ビットレート：8～320 kbps および VBR

FLAC (.flac/.FLAC):

- 対応サンプリングレート：44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
- 量子化ビット：8 bit、16 bit、24 bit

Apple Lossless (.m4a/.mp4/.M4A/.MP4):

- 対応サンプリングレート：44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
- 量子化ビット：16 bit、24 bit

DSD (.dsf/.dff/.DSF/.DFF):

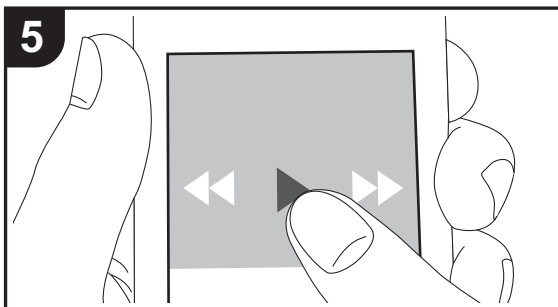
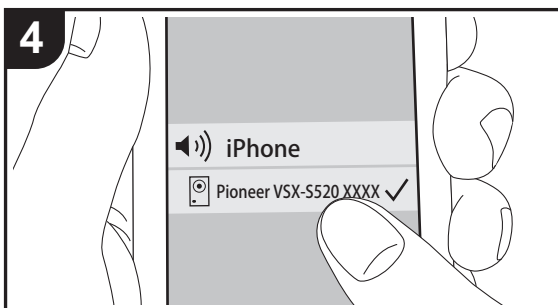
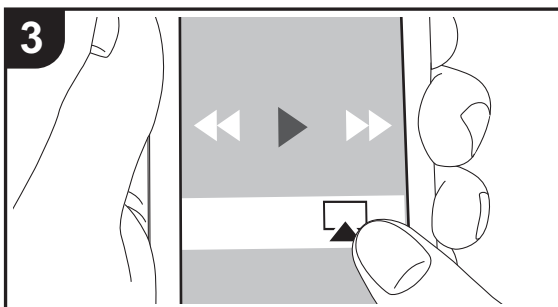
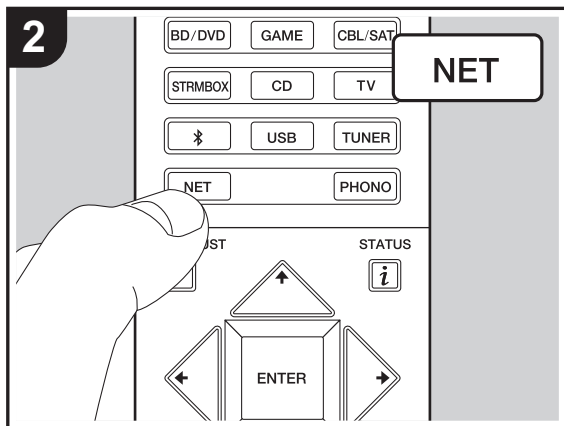
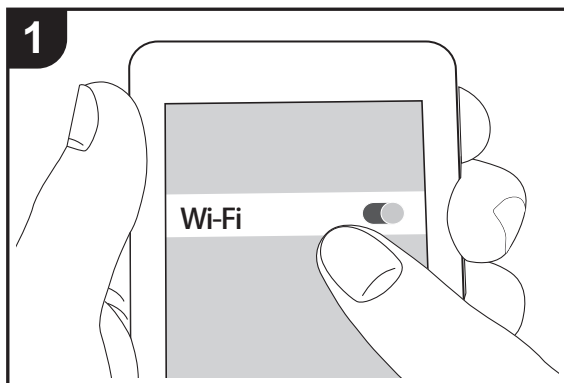
- 対応フォーマット：DSF/DSDIFF
- 対応サンプリングレート：2.8 MHz、5.6 MHz

Dolby TrueHD (.vr/.mlp/.VR/.MLP):

- 対応サンプリングレート：44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
- VBR (可変ビットレート) で記録されたファイルを再生した場合、再生時間が正しく表示されないことがあります。
- 本機はUSB再生における下記条件時でのギャップレス再生に対応しています。
WAV、FLAC、Apple Lossless 再生時、同一のフォーマット、サンプリング周波数、チャンネル数、量子化ビット数が連続再生される場合



AirPlay®




基本の操作

本機と同じアクセスポイントに接続した iPhone®、iPod touch®、iPad® の音楽ファイルをワイヤレスで楽しむことができます。


- iOS 端末の OS は最新のバージョンにアップデートしてください。

1. iOS 端末をアクセスポイントに接続します。


2. NET ボタンを押します。

3. iOS 端末のコントロールセンターから AirPlay アイコン  をタップして、表示される機器から本機を選択し、「完了」をタップします。

4. iOS 端末の音楽ファイルを再生します。

- お買い上げ時の状態ではネットワークスタンバイ機能がオンに設定されており、上記の 3、4 の操作を行うと、本機の電源オンと「NET」入力切替が自動で行われます。スタンバイ時の消費電力を下げるには、リモコンの  ボタンを押して表示されるホーム画面から「システム設定」- 「ハードウェア」- 「電源管理」- 「ネットワークスタンバイ」を「オフ」にしてください。

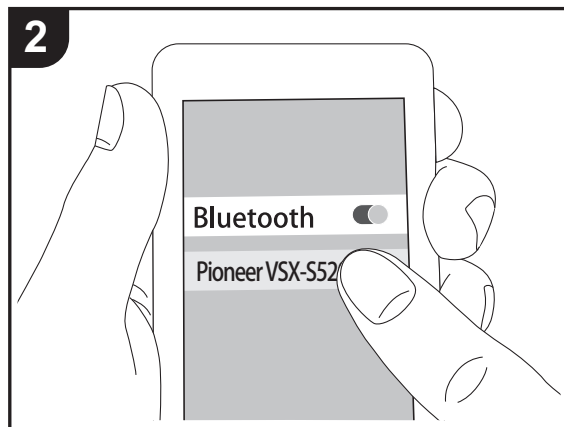
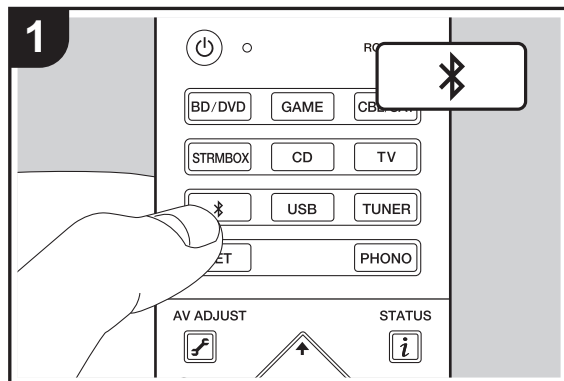
- AirPlay ワイヤレス技術の特性上、本機での再生音は AirPlay 対応機器での再生音と比べてやや遅れることがあります。

また、iTunes (Ver. 10.2 以降) を搭載した PC の音楽ファイルも再生することができます。操作は、本機と PC が同じネットワークに接続していることを確認したうえで、本機の NET ボタンを押します。次に iTunes の AirPlay アイコン  をクリックして、表示される機器から本機を選び、音楽ファイルを再生します。

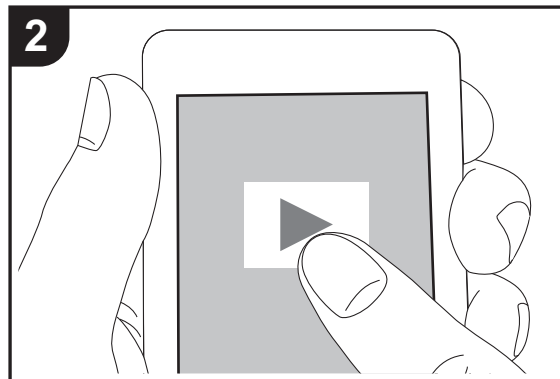
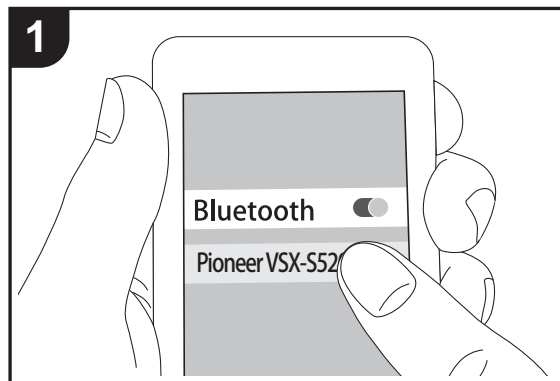


BLUETOOTH® 再生

ペアリング



再生する



ペアリング

1. リモコンの **ℵ** ボタンを押すと、本体表示部に「Now Pairing...」が表示され、ペアリングモードになります。

Now Pairing...

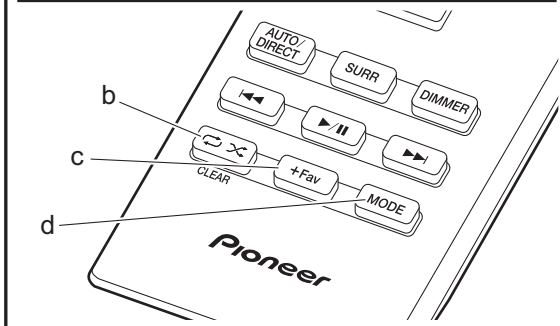
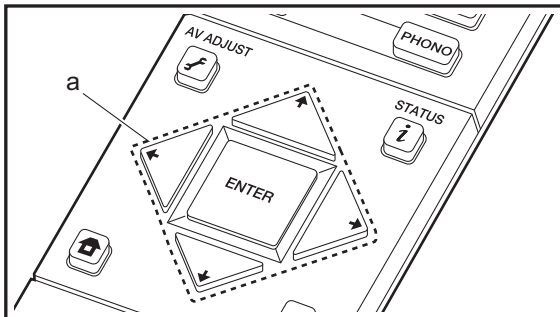
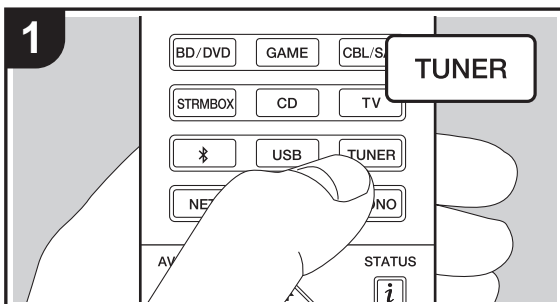
2. BLUETOOTH 対応機器の BLUETOOTH 機能を有効 (オン) にして、表示される機器から本機を選びます。パスワードを要求された場合は、「0000」を入力してください。
 - 別の BLUETOOTH 対応機器と接続する場合は、「Now Pairing...」が表示されるまで **ℵ** ボタンを長押しして、上記の 2 の操作を行います。本機は最大 8 台のペアリング情報を記憶できます。
 - 約 15 m 圏内で通信できます。なお、すべての BLUETOOTH 対応機器との接続動作を保証するものではありません。

再生する

1. 本機の電源がオンのときに、BLUETOOTH 対応機器の接続操作を行います。
2. 本機の入力が自動で「BT AUDIO」に切り換わります。
3. 音楽ファイルを再生します。BLUETOOTH 対応機器のボリュームは適度に大きくしてください。
 - BLUETOOTH ワイヤレス技術の特性上、本機での再生音は BLUETOOTH 対応機器での再生音と比べてやや遅れることがあります。



FM ラジオを聴く



自動で選局する

1. リモコンの TUNER ボタンを押します。
2. リモコンの MODE ボタン (d) を押して、表示部に「AUTO」を表示させます。
3. リモコンのカーソルの \blacktriangleleft / \blacktriangleright ボタン (a) を押すと、自動選局が始まり、放送局が見つかったと自動的に停止します。放送局を受信すると、表示部の「TUNED」が点灯します。FM ステレオ局を受信した場合は、「FM STEREO」が点灯します。
 - 「TUNED」が消灯している間は、音が出ません。

FM 放送を受信しにくいときは

建物の構造や周囲の環境によって電波状況が異なり受信状態が悪くなることがあります。その場合、次項の「手動で選局する」を参照しながら、ご希望の放送局に応じて手動で選局してください。

手動で選局する

1. リモコンの TUNER ボタンを押します。
2. リモコンの MODE ボタン (d) を押して、表示部の「AUTO」を消灯させます。
3. リモコンのカーソルの \blacktriangleleft / \blacktriangleright ボタン (a) を押しながら、聴きたい放送局を選びます。
 - ボタンを押すごとに周波数が1ステップずつ変わります。ボタンを押し続けると、連続して周波数が変わり、離すと止まります。表示部を見ながら周波数を合わせてください。

自動で選局する方法に戻す

リモコンの MODE ボタン (d) を再度押し、表示部に「AUTO」を表示させます。自動的に放送局を受信します。

放送局を登録する

好きな放送局を最大 40 局まで登録できます。放送局をあらかじめ登録しておけば、周波数で合わせなくても、すばやく選局できます。

1. 登録したい放送局を受信します。
2. リモコンの +Fav ボタン (c) を押して、表示部のプリセット番号を点滅させます。
3. プリセット番号が点滅している間 (約 8 秒間) に、リモコンのカーソルの \blacktriangleleft / \blacktriangleright ボタン (a) をくり返し押して、1～40 の間で番号を選びます。
4. 再度リモコンの +Fav ボタン (c) を押して登録します。登録されるとプリセット番号の点滅が止まります。

登録したプリセット局を選ぶ

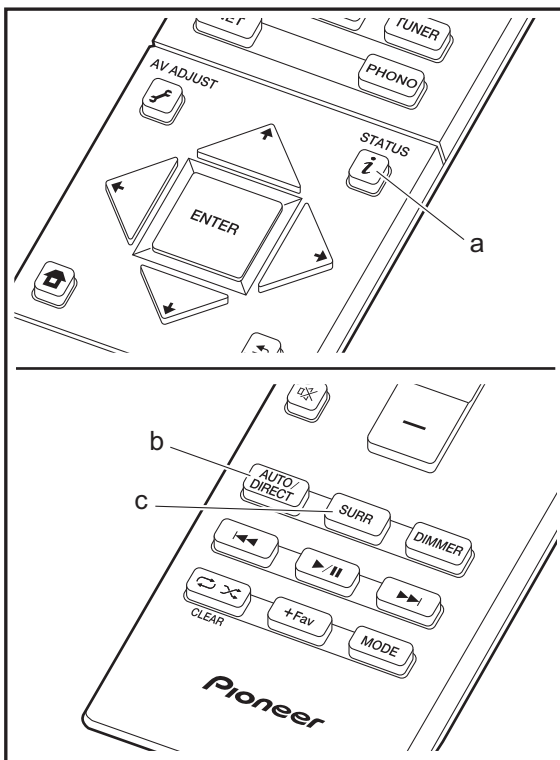
1. リモコンの TUNER ボタンを押します。
2. リモコンのカーソルの \blacktriangleleft / \blacktriangleright ボタン (a) を押して、プリセット番号を選びます。

登録したプリセット局を削除する

1. リモコンの TUNER ボタンを押します。
2. リモコンのカーソルの \blacktriangleleft / \blacktriangleright ボタン (a) を押して、削除したいプリセット番号を選びます。
3. リモコンの +Fav ボタン (c) を押したあと、プリセット番号が点滅している間に CLEAR ボタン (b) を押して、プリセット番号を削除します。
 - 削除されると、表示部から番号が消えます。



リスニングモード

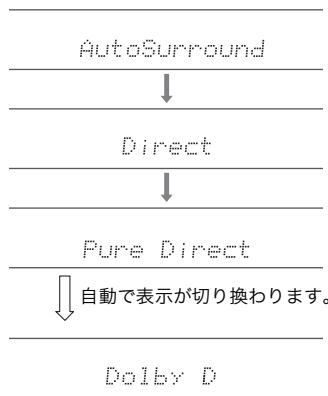


リスニングモードの選び方

再生中に「AUTO/DIRECT」、「SURR」のボタンをくり返し押すことで、リスニングモードを切り換えることができます。

AUTO/DIRECT ボタン (b)

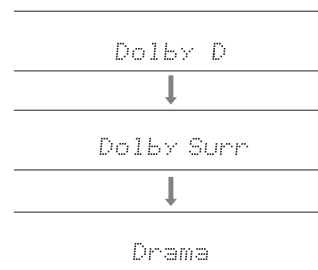
くり返し押すと、入力信号に応じたリスニングモードが自動で選択される「Auto Surround」、「Direct」、「Pure Direct」のモードに切り換わります。いずれかを選ぶと、本体表示部に「Auto Surround」(または「Direct」、「Pure Direct」)と表示されたあと、マルチチャンネルの入力信号では Dolby Digital、2チャンネルの入力信号では Stereo モードなど、それぞれの音声フォーマットに対して最適なリスニングモードに自動で切り換わり、表示部に「Dolby D」のように表示されます。



「Direct」モードは、トーンコントロール機能など音質に影響する処理を一部遮断することで、より良い音質を楽しむことができます。また「Pure Direct」は、さらに音質に影響を与える処理を遮断することで、原音に忠実な再生を行います。この場合、MCACC で測定されたスピーカー補正は無効になります。

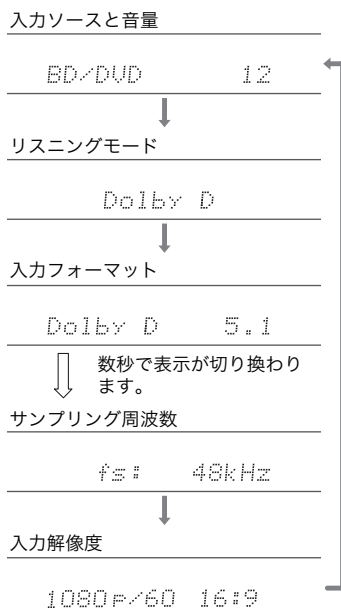
SURR ボタン (c)

くり返し押すと、入力している信号の音声フォーマットで選択できる、さまざまなリスニングモードを切り換えることができます。お好みに応じて選択ください。表示部には選択されているリスニングモードが表示されます。



それぞれのリスニングモードの効果については、「リスニングモードの効果」(➡P31)を、入力する信号の音声フォーマットごとに選択できるリスニングモードについては、「選択できるリスニングモードについて」(➡P34)をご参照ください。

「AUTO/DIRECT」、「SURR」ボタンは、各ボタンごとに最後に選んだリスニングモードを記憶します。最後に選んだリスニングモードに対応していないコンテンツを再生した場合は、そのコンテンツにとって最もスタンダードなリスニングモードを自動的に選択します。また、i ボタン (a) をくり返し押すと、本体表示部が次の順に切り換わります。



リスニングモードの効果

リスニングモードのアップデート対応について

本機はファームウェアのアップデートにより、Dolby Atmos および DTS:X 音声フォーマットの再生への対応を予定しております。そのため、ファームウェアのバージョンによって、選択できるリスニングモードが異なります。

Dolby Atmos 音声フォーマットに対応する前のバージョン

- Dolby Pro Logic II 関連のモードが選択できます。

Dolby Atmos 音声フォーマットに対応したバージョン

- Dolby Atmos、Dolby Surround および Surround Enhancer が選択できます。(アップデートを行うと、Dolby Pro Logic II 関連のモードは選択できなくなります) また、Surround Enhancer が選択可能なときに、F.S.Surround (Front Stage Surround) が選択できなくなります。

DTS:X 音声フォーマットに対応する前のバージョン

- Neo:6 Cinema および Neo:6 Music が選択できます。

DTS:X 音声フォーマットに対応したバージョン

- DTS:X および DTS Neural:X が選択できます。(アップデートを行うと、Neo:6 Cinema および Neo:6 Music は選択できなくなります)

アルファベット (ABC) 順

AAC

AAC で収録されたソースの再生に適したモードです。MPEG-2 AAC 方式で圧縮されたデジタルデータで 5.1 チャンネルのサラウンド音声を提供します。

- 地上デジタル、BS/CS 放送などの AAC ソースの再生時に選んでください。

Action

アクションシーンの多い映画を楽しむのに適したモードです。

AdvancedGame

ゲームコンテンツを楽しむのに適したモードです。

Classical

クラシックやオペラに適したモードです。サラウンド感を強調して、音声イメージが全体に広がる大ホールで聴いているような自然な響きを楽しめます。

Dolby Atmos

Dolby Atmos 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

Dolby Atmos 音声フォーマットは、最新設備の映画館で導入されており、ホームシアターにも革新的なサウンド体験を実現しています。Dolby Atmos は既存のサラウンドとは異なり、チャンネルではなく、3次元空間を、独立した動きのある音声オブジェクトで、よりクリアに、より正確に配置することが可能です。Dolby Atmos は、ブルーレイディスクの音声フォーマットのオプションとして採用され、リスナーの上方に音場を導入したことで、より立体的な音場を実現しています。

- この音声フォーマットの伝送には HDMI ケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

Dolby D (Dolby Digital)

Dolby Digital 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

Dolby Digital 音声フォーマットは、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタルフォーマットで、映画製作に広く採用されており、また、DVD-Video やブルーレイディスクでは標準の音声フォーマットとして採用されています。DVD-Video やブルーレイディスクでは、フロントスピーカーとセンタースピーカーの 3 チャンネルとサラウンドスピーカーの 2 チャンネル、低音域専用の LFE チャンネル (サブウーファースの音声要素) の最大 5.1 チャンネルで記録することが可能です。

- この音声フォーマットの伝送にはデジタルケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。



Dolby D + (Dolby Digital Plus)

Dolby Digital Plus 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

Dolby Digital Plus 音声フォーマットは、Dolby Digital をベースに改良され、チャンネル数の拡大と、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。Dolby Digital Plus はブルーレイディスクの音声フォーマットのオプションとして採用され、5.1 チャンネルをベースに、サラウンドバックチャンネルなどを追加した最大 7.1 チャンネルで記録することが可能です。

- この音声フォーマットの伝送には HDMI ケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

Dolby PL II (Dolby Pro Logic II)

2 チャンネルの入力信号を 5.1 チャンネルに拡張するなど、接続しているスピーカー構成に合わせてマルチチャンネルに拡張再生できるリスニングモードです。音場を拡大することにより、臨場感と深みのあるシームレスなサウンドが楽しめます。CD や映画に加えて、ゲームソフトの再生も鮮明な音像定位などが得られます。映画に最適な Movie モードと、音楽再生に最適な Music モード、ゲームに最適な Game モードが選べます。

Dolby Surround

2 チャンネルや 5.1 チャンネルの入力信号を、接続しているスピーカー構成に合わせてマルチチャンネルに拡張再生できるリスニングモードです。従来のスピーカー配置に加え、Dolby のスピーカー技術を採用した Dolby Atmos 用の再生システムにも対応しています。

Dolby TrueHD

Dolby TrueHD 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

Dolby TrueHD 音声フォーマットは、MLP とよばれるロスレス圧縮技術をベースとし拡張された「可逆型」の音声フォーマットで、スタジオで録音されたマスター音声の忠実な再現を可能としています。Dolby TrueHD はブルーレイディスクの音声フォーマットのオプションとして採用さ

れ、5.1 チャンネルをベースに、サラウンドバックチャンネルなどを追加した最大 7.1 チャンネルで記録することが可能です。7.1 チャンネルでは 96kHz/24bit、5.1 チャンネルでは 192kHz/24bit で記録することができます。

- この音声フォーマットの伝送には HDMI ケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

Drama

放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。すべてのサラウンド音声を強調して会話音声を明瞭にすることにより、局のスタジオにいるような臨場感が楽しめます。

DSD

DSD で収録されたソースの再生に適したモードです。

- 本機は HDMI 入力端子からの DSD 信号入力に対応していますが、接続するプレーヤーによっては、プレーヤー側の出力設定を PCM 出力に設定した方がよい音声を得られる場合があります。
- ブルーレイディスク / DVD プレーヤー側の出力設定を DSD にしていない場合は、このリスニングモードは選べません。

DTS

DTS 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS 音声フォーマットは、DTS, Inc. により開発されたマルチチャンネルデジタルフォーマットです。DVD-Video のオプションの音声フォーマットや、ブルーレイディスクの標準の音声フォーマットとして採用されており、フロントスピーカーとセンタースピーカーの 3 チャンネルとサラウンドスピーカーの 2 チャンネル、低音域専用の LFE チャンネル (サブウーファアの音声要素) の 5.1 チャンネルを、最大 48kHz のサンプリングレートと 24 bit の解像度、1.5 Mbps のビットレートの豊富な情報量で記録することができます。

- この音声フォーマットの伝送にはデジタルケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に

設定されている必要があります。

DTS 96/24

DTS 96/24 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS 96/24 音声フォーマットは、DVD-Video やブルーレイディスクのオプションの音声フォーマットとして採用されており、フロントスピーカーとセンタースピーカーの 3 チャンネルとサラウンドスピーカーの 2 チャンネル、低音域専用の LFE チャンネル (サブウーファアの音声要素) の 5.1 チャンネルを、96 kHz のサンプリングレートと 24 bit の解像度を使ってきめ細やかな再現性を実現します。

- この音声フォーマットの伝送にはデジタルケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

DTS Express

DTS Express 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS Express は、ブルーレイディスクのオプションの音声フォーマットとして採用されており、5.1 チャンネルをベースに、サラウンドバックチャンネルなどを追加した最大 7.1 チャンネルをロービットレートでサポートする音声フォーマットです。

- この音声フォーマットの伝送には HDMI ケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

DTS-HD HR (DTS-HD High Resolution Audio)

DTS-HD High Resolution Audio 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS-HD High Resolution Audio 音声フォーマットは、ブルーレイディスクのオプションの音声フォーマットとして採用されており、5.1 チャンネルをベースに、サラウンドバックチャンネルなどを追加した最大 7.1 チャンネルを、96 kHz のサンプリングレートと 24 bit の解像度で記録することができます。

- この音声フォーマットの伝送には HDMI ケーブルでの接



続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

DTS-HD MSTR (DTS-HD Master Audio)

DTS-HD Master Audio 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS-HD Master Audio 音声フォーマットは、ブルーレイディスクのオプションの音声フォーマットとして採用されており、5.1 チャンネルをベースに、サラウンドバックチャンネルなどを追加した最大 7.1 チャンネルを、ロスレス・オーディオ再生技術により記録することができます。7.1 チャンネルでは 96 kHz/24 bit、5.1 チャンネルでは 192 kHz/24 bit に対応しています。

- この音声フォーマットの伝送には HDMI ケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。

DTS Neo:6

2 チャンネルの入力信号を 5.1 チャンネルに拡張するなど、接続しているスピーカー構成に合わせてマルチチャンネルに拡張再生できるリスニングモードです。すべてのチャンネルに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性にも優れています。映画に最適な Neo:6 Cinema モードと、音楽再生に最適な Neo:6 Music モードが選べます。

DTS Neural:X

2 チャンネルや 5.1 チャンネルの入力信号を、接続しているスピーカー構成に合わせてマルチチャンネルに拡張再生できるリスニングモードです。

DTS:X

DTS:X 音声フォーマットで記録されたサウンドデザインを、忠実に再現するモードです。

DTS:X 音声フォーマットは、従来のチャンネルベースのミキシング方式と、オブジェクトベースのダイナミックなオーディオミキシングを組み合わせ、精密な音の定位や移動を表現できることが特徴です。

- この音声フォーマットの伝送には HDMI ケーブルでの接続と、再生機側の音声出力がビットストリーム出力に設

定されている必要があります。

Ent.Show (Entertainment Show)

ロック、ポピュラーなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドが楽しめます。

Ext.Mono (Extended Mono)

すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されるモードです。どの場所においても同じ音場イメージで音楽を聴くことができます。

Ext.Stereo (Extended Stereo)

BGMとして音楽を流すときに適したモードです。フロントだけでなくサラウンドからもステレオ音声を再生し、ステレオイメージを作ります。

F.S.Surround (Front Stage Surround)

サラウンドスピーカーを設置しなくてもマルチチャンネルサラウンド再生しているようなバーチャル再生が楽しめるモードです。左右それぞれの耳に届く音声の特性を制御することによって効果を実現しています。

Mono

アナログまたは PCM 信号入力時に、左右のスピーカーからモノラル音声で再生されるモードです。

Multich PCM (Multichannel PCM)

マルチチャンネル PCM で収録されたソースの再生に適したモードです。

Rock/Pop

ロックコンテンツを楽しむのに適したモードです。

Sports

スポーツコンテンツを楽しむのに適したモードです。

Stereo

左右フロントスピーカーとサブウーファーから音声が出力されるモードです。

Surround Enhancer

壁などの反射を利用せずに自然で包み込まれるような臨場感溢れるサウンドが楽しめるモードです。仮想的にサラウンドチャンネルの音声を創出し、より広い音場を実現することができます。

Unplugged

アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、ステージの前で聴いているようなサウンドが楽しめます。



選択できるリスニングモードについて

入力する信号の音声フォーマットに応じて、さまざまなリスニングモードが選べるようになります。

- Stereo モードは、すべての音声フォーマットで選択できます。
- ヘッドホン接続時に選べるリスニングモードは、Pure Direct、Stereo のみです。

リスニングモードのアップデート対応について

本機はファームウェアのアップデートにより、Dolby Atmos および DTS:X 音声フォーマットの再生への対応を予定しております。そのため、ファームウェアのバージョンによって、選択できるリスニングモードが異なります。

Dolby Atmos 音声フォーマットに対応する前のバージョン

- Dolby Pro Logic II 関連のモードが選択できます。

Dolby Atmos 音声フォーマットに対応したバージョン

- Dolby Atmos、Dolby Surround および Surround Enhancer が選択できます。(アップデートを行うと、Dolby Pro Logic II 関連のモードは選択できなくなります) また、Surround Enhancer が選択可能になるときに、F.S.Surround (Front Stage Surround) が選択できなくなります。

DTS:X 音声フォーマットに対応する前のバージョン

- Neo:6 Cinema および Neo:6 Music が選択できます。

DTS:X 音声フォーマットに対応したバージョン

- DTS:X および DTS Neural:X が選択できます。(アップデートを行うと、Neo:6 Cinema および Neo:6 Music は選択できなくなります)

入力フォーマット	リスニングモード
Analog	Stereo
	Mono
	Dolby Surround
	Surround Enhancer
	PL II Movie *1
	PL II Music *1
	PL II Game *1
	Neo:6 Cinema *1
	Neo:6 Music *1
	DTS Neural:X
	Classical *2
	Unplugged *2
	Ent.Show *2
	Drama *2
	AdvancedGame *2
	Action *2
Rock/Pop *2	
Sports *2	
Ext.Stereo *1	
Ext.Mono *1	
F.S.Surround	

* 1: センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。

* 2: サラウンドスピーカーの設置が必要です。

入力フォーマット	リスニングモード
PCM 音楽ファイル (DSD/ Dolby TrueHD を除く)	Stereo
	Mono
	Dolby Surround
	Surround Enhancer
	PL II Movie *1
	PL II Music *1
	PL II Game *1
	Neo:6 Cinema *1
	Neo:6 Music *1
	DTS Neural:X
	Classical *2
	Unplugged *2
	Ent.Show *2
	Drama *2
	AdvancedGame *2
	Action *2
Rock/Pop *2	
Sports *2	
Ext.Stereo *1	
Ext.Mono *1	
F.S.Surround	

* 1: センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。

* 2: サラウンドスピーカーの設置が必要です。



入力フォーマット	リスニングモード
AAC	Stereo
	AAC *1 *2
	Dolby Surround
	Surround Enhancer
	PL II Movie *3
	PL II Music *3
	PL II Game *3
	Neo:6 Cinema *3
	Neo:6 Music *3
	DTS Neural:X
	Classical *4
	Unplugged *4
	Ent.Show *4
	Drama *4
	AdvancedGame *4
	Action *4
	Rock/Pop *4
	Sports *4
	Ext.Stereo *2
	Ext.Mono *2
F.S.Surround	

- * 1: 入力フォーマットのチャンネル数がモノラル、2 chの場合、選択できません。
- * 2: センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
- * 3: 入力フォーマットのチャンネル数が2 chで、センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを設置しているときのみ選択できます。
- * 4: サラウンドスピーカーの設置が必要です。

入力フォーマット	リスニングモード
Multich PCM	Stereo
	Multich PCM *1
	Dolby Surround
	Surround Enhancer
	DTS Neural:X
	Classical *2
	Unplugged *2
	Ent.Show *2
	Drama *2
	AdvancedGame *2
	Action *2
	Rock/Pop *2
	Sports *2
	Ext.Stereo *1
	Ext.Mono *1
	F.S.Surround

- * 1: センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
- * 2: サラウンドスピーカーの設置が必要です。

入力フォーマット	リスニングモード
DSD	Stereo
	DSD *1 *2
	Dolby Surround
	Surround Enhancer
	PL II Movie *3
	PL II Music *3
	PL II Game *3
	Neo:6 Cinema *3
	Neo:6 Music *3
	DTS Neural:X
	Classical *4
	Unplugged *4
	Ent.Show *4
	Drama *4
	AdvancedGame *4
	Action *4
Rock/Pop *4	
Sports *4	
Ext.Stereo *2	
Ext.Mono *2	
F.S.Surround	

- * 1: 入力フォーマットのチャンネル数がモノラル、2 chの場合、選択できません。
- * 2: センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
- * 3: 入力フォーマットのチャンネル数が2 chで、センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを設置しているときのみ選択できます。
- * 4: サラウンドスピーカーの設置が必要です。



入力フォーマット	リスニングモード
Dolby Atmos	Stereo
	Dolby Atmos
	Surround Enhancer
	Classical
	Unplugged
	Ent.Show
	Drama
	AdvancedGame
	Action
	Rock/Pop
	Sports
	Ext.Stereo
	Ext.Mono
F.S.Surround	

入力フォーマット	リスニングモード
Dolby D	Stereo
	Dolby D *1 *2
	Dolby Surround
	Surround Enhancer
	PL II Movie *3
	PL II Music *3
	PL II Game *3
	Neo:6 Cinema *3
	Neo:6 Music *3
	Classical *4
	Unplugged *4
	Ent.Show *4
	Drama *4
	AdvancedGame *4
	Action *4
	Rock/Pop *4
	Sports *4
	Ext.Stereo *2
	Ext.Mono *2
F.S.Surround	

- * 1: 入力フォーマットのチャンネル数が2 ch の場合、選択できません。
- * 2: センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
- * 3: 入力フォーマットのチャンネル数が2 ch で、センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを設置しているときのみ選択できます。
- * 4: サラウンドスピーカーの設置が必要です。

入力フォーマット	リスニングモード
Dolby D+	Stereo
	Dolby D+ *1 *2 *3
	Dolby Surround
	Surround Enhancer
	PL II Movie *4
	PL II Music *4
	PL II Game *4
	Neo:6 Cinema *4
	Neo:6 Music *4
	Classical *5
	Unplugged *5
	Ent.Show *5
	Drama *5
	AdvancedGame *5
	Action *5
	Rock/Pop *5
Sports *5	
Ext.Stereo *2	
Ext.Mono *2	
F.S.Surround	

- * 1: 入力フォーマットのチャンネル数が2 ch の場合、選択できません。
- * 2: センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
- * 3: 入力ソースがブルーレイディスクの場合は、Dolby D+ は選択できません。代わりに Dolby D のリスニングモードが選択できます。
- * 4: 入力フォーマットのチャンネル数が2 ch で、センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを設置しているときのみ選択できます。
- * 5: サラウンドスピーカーの設置が必要です。



入力フォーマット	リスニングモード
Dolby TrueHD	Stereo
	Dolby TrueHD*1*2
	Dolby Surround
	Surround Enhancer
	PL II Movie*3
	PL II Music*3
	PL II Game*3
	Neo:6 Cinema*3
	Neo:6 Music*3
	Classical*4
	Unplugged*4
	Ent.Show*4
	Drama*4
	AdvancedGame*4
	Action*4
	Rock/Pop*4
Sports*4	
Ext.Stereo*2	
Ext.Mono*2	
F.S.Surround	

- * 1: 入力フォーマットのチャンネル数が2 ch の場合、選択できません。
- * 2: センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
- * 3: 入力フォーマットのチャンネル数が2 ch で、センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを設置しているときのみ選択できます。
- * 4: サラウンドスピーカーの設置が必要です。

入力フォーマット	リスニングモード
DTS	Stereo
	DTS*1*2
	PL II Movie*3
	PL II Music*3
	PL II Game*3
	Neo:6 Cinema*3
	Neo:6 Music*3
	DTS Neural:X
	Classical*4
	Unplugged*4
	Ent.Show*4
	Drama*4
	AdvancedGame*4
	Action*4
	Rock/Pop*4
	Sports*4
Ext.Stereo*2	
Ext.Mono*2	
F.S.Surround	

- * 1: 入力フォーマットのチャンネル数が2 ch の場合、選択できません。
- * 2: センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
- * 3: 入力フォーマットのチャンネル数が2 ch で、センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを設置しているときのみ選択できます。
- * 4: サラウンドスピーカーの設置が必要です。

入力フォーマット	リスニングモード
DTS 96/24	Stereo
	DTS 96/24*1*2
	PL II Movie*3
	PL II Music*3
	PL II Game*3
	Neo:6 Cinema*3
	Neo:6 Music*3
	DTS Neural:X
	Classical*4
	Unplugged*4
	Ent.Show*4
	Drama*4
	AdvancedGame*4
	Action*4
	Rock/Pop*4
	Sports*4
Ext.Stereo*2	
Ext.Mono*2	
F.S.Surround	

- * 1: 入力フォーマットのチャンネル数が2 ch の場合、選択できません。
- * 2: センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
- * 3: 入力フォーマットのチャンネル数が2 ch で、センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを設置しているときのみ選択できます。
- * 4: サラウンドスピーカーの設置が必要です。



入力フォーマット	リスニングモード
DTS Express	Stereo
	DTS Express *1*2
	PL II Movie *3
	PL II Music *3
	PL II Game *3
	Neo:6 Cinema *3
	Neo:6 Music *3
	DTS Neural:X
	Classical *4
	Unplugged *4
	Ent.Show *4
	Drama *4
	AdvancedGame *4
	Action *4
	Rock/Pop *4
	Sports *4
Ext.Stereo *2	
Ext.Mono *2	
F.S.Surround	

- * 1: 入力フォーマットのチャンネル数が2 chの場合、選択できません。
- * 2: センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
- * 3: 入力フォーマットのチャンネル数が2 chで、センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを設置しているときのみ選択できます。
- * 4: サラウンドスピーカーの設置が必要です。

入力フォーマット	リスニングモード
DTS-HD HR	Stereo
	DTS-HD HR *1*2
	PL II Movie *3
	PL II Music *3
	PL II Game *3
	Neo:6 Cinema *3
	Neo:6 Music *3
	DTS Neural:X
	Classical *4
	Unplugged *4
	Ent.Show *4
	Drama *4
	AdvancedGame *4
	Action *4
	Rock/Pop *4
	Sports *4
Ext.Stereo *2	
Ext.Mono *2	
F.S.Surround	

- * 1: 入力フォーマットのチャンネル数が2 chの場合、選択できません。
- * 2: センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
- * 3: 入力フォーマットのチャンネル数が2 chで、センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを設置しているときのみ選択できます。
- * 4: サラウンドスピーカーの設置が必要です。

入力フォーマット	リスニングモード
DTS-HD MSTR	Stereo
	DTS-HD MSTR *1*2
	PL II Movie *3
	PL II Music *3
	PL II Game *3
	Neo:6 Cinema *3
	Neo:6 Music *3
	DTS Neural:X
	Classical *4
	Unplugged *4
	Ent.Show *4
	Drama *4
	AdvancedGame *4
	Action *4
	Rock/Pop *4
	Sports *4
Ext.Stereo *2	
Ext.Mono *2	
F.S.Surround	

- * 1: 入力フォーマットのチャンネル数が2 chの場合、選択できません。
- * 2: センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。
- * 3: 入力フォーマットのチャンネル数が2 chで、センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーを設置しているときのみ選択できます。
- * 4: サラウンドスピーカーの設置が必要です。



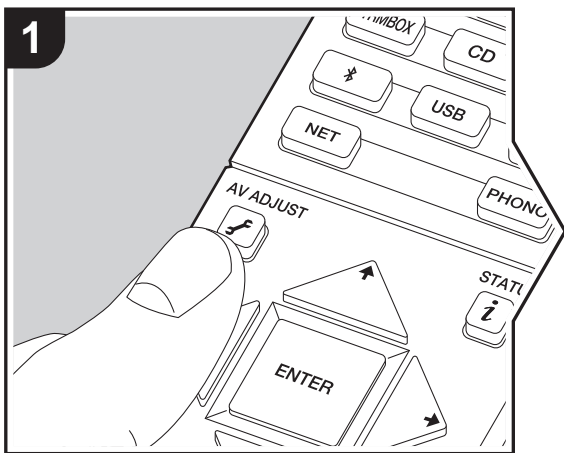
入力フォーマット	リスニングモード
DTS:X	Stereo
	DTS:X
	Classical*1
	Unplugged*1
	Ent.Show*1
	Drama*1
	AdvancedGame*1
	Action*1
	Rock/Pop*1
	Sports*1
	Ext.Stereo*2
	Ext.Mono*2
	F.S.Surround

* 1: サラウンドスピーカーの設置が必要です。

* 2: センタースピーカーまたはサラウンドスピーカーの設置が必要です。



AV Adjust



再生中にリモコンの ボタンを押すと、テレビの画面で、音質の調整などよく利用する設定を行うことができます。なお、入力切替が「CD」、「TV」、「PHONO」、「TUNER」のときはテレビの画面には表示されませんので、本体表示部を見ながら操作してください。

1. リモコンの ボタンを押します。
2. AV Adjust が表示されたあと、リモコンの / で内容を選び、ENTER ボタンで決定します。



- それぞれの設定項目の初期値は、カーソル / で変更します。
- ひとつ前の画面に戻るには ボタンを押します。
- 3. 設定を終了するときは、 ボタンを押します。

■トーン

低域: スピーカーの低音域を強調したり、弱めたりします。

高域: スピーカーの高音域を強調したり、弱めたりします。

- リスニングモードが Direct または Pure Direct モードのときは、設定できません。

■レベル

センター: 音声を聴きながら、センタースピーカーのスピーカーレベルを調整します。

サブウーファー: 音声を聴きながら、サブウーファースピーカーレベルを調整します。

- 調整した内容は、本機をスタンバイ状態にすると設定前の内容に戻ります。

■ MCACC

MCACC EQ: 部屋の環境による音のひずみを補正するイコライザ機能を有効 / 無効に切り換えます。

- この設定はフルオート MCACC を行っていないと選べません。
- リスニングモードが Pure Direct モードのときは、設定できません。

マニュアル EQ 選択: ホーム画面の「MCACC」-「マニュアル MCACC」-「EQ の調整」(→P53) で設定した「プリセット 1」～「プリセット 3」を選択できます。「オフ」に設定すると、すべての音域で同じ音場設定になります。

- リスニングモードが Pure Direct モードのときは、設定できません。

フェイズコントロール: 低域の位相ずれを補正して低音を増強します。原音に忠実な力強い低音域再生を実現します。

- リスニングモードが Pure Direct モードのときは、設定できません。

シアターフィルター: 高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。

- リスニングモードが Direct または Pure Direct モードのときは、設定できません。

■その他

サウンドディレイ: 映像が音声より遅れている場合、音声を遅らせて映像と音声のずれを調整できます。各入力切替に個別に設定することができます。

サウンドレトリバー: 圧縮された音声をより良い音質にします。MP3 などの非可逆圧縮ファイルの再生時に効果があります。この設定は、各入力切替ごとに行えます。サンプリング周波数が 48 kHz 以下の信号に働きます。ビットストリーム信号は効果がありません。

- リスニングモードが Direct または Pure Direct モードのときは、設定できません。



DRC: 小さな音でも細かな音が聴こえやすくなる機能です。夜中などに音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。Dolby 系、DTS 系の入力信号再生時のみに効果があります。

- リスニングモードが Direct または Pure Direct モードのときは、設定できません。
- 以下の場合、この機能を使用することはできません。
 - ホーム画面の「システム設定」-「音の設定・調整」-「Dolby」-「Loudness Management」(➡P48)を「オフ」に設定し、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD を再生している場合
 - 入力信号が DTS 系で、「Dialog Control」が 0 dB 以外の場合

Panorama: Dolby Pro Logic II Music リスニングモードで再生する際に、音場を左右に広げて再生することができます。

Dimension: Dolby Pro Logic II Music リスニングモードで再生する際の、音場の前後方向を調整します。設定値が小さいほど前方に、大きいほど後方に音場が移動します。

Center Width: Dolby Pro Logic II Music リスニングモードで再生する際の、フロント音場の広がりを調整します。設定値が小さいほど中央に音が集中し、大きいほど中央の音を左右に振り分ける率が高くなります。

Dialog Control: 音声の会話部分を 1 dB ステップで 6 dB まで引き上げ、騒音下でも会話部分を聴こえやすくします。

- DTS:X コンテンツ以外では設定できません。
- コンテンツによっては選択できない場合もあります。

Center Image: DTS Neo:6 Music リスニングモードで再生する際の、フロント音場の広がりを調整します。設定値が小さいほど中央に音が集中し、大きいほど中央の音を左右に振り分ける率が高くなります。

本機はファームウェアのアップデートにより、Dolby Atmos および DTS:X 音声フォーマットの再生への対応を予定しております。そのため、ファームウェアのバージョンによって、設定できる項目が異なります。

Dolby Atmos 音声フォーマットに対応する前のバージョン

- Panorama、Dimension、Center Width が設定できません。

Dolby Atmos 音声フォーマットに対応したバージョン

- アップデートを行うと、Panorama、Dimension、Center Width は設定できなくなります。

DTS:X 音声フォーマットに対応する前のバージョン

- Center Image が設定できます。

DTS:X 音声フォーマットに対応したバージョン

- Dialog Control が設定できます。(アップデートを行うと、Center Image は設定できなくなります)



再生機能に関する追補情報

本機は、ご購入後のファームウェア（システムソフトウェア）のアップデートや、製品の生産途中からのファームウェアの切り替えによって、お使いいただける機能が取扱説明書に記載されている内容から追加・変更されることがあります。

追加・変更された再生機能については、以下の参照先よりご覧ください。

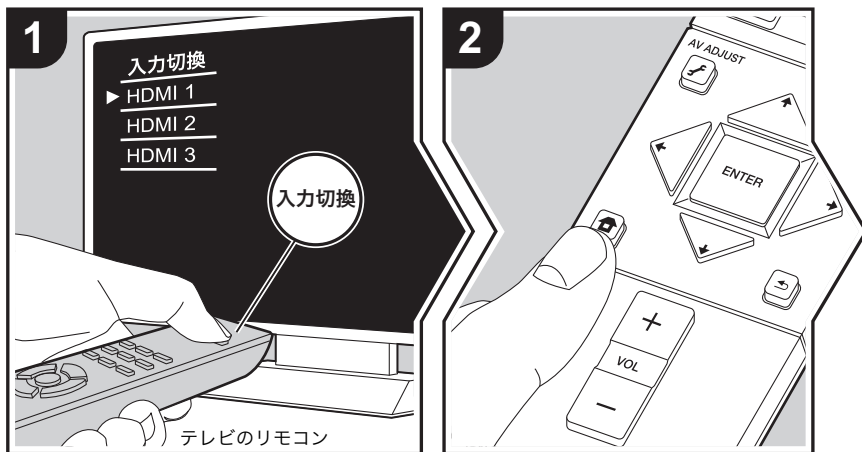
[再生機能に関する追補情報](#)

[>>>ここをクリック<<<](#)



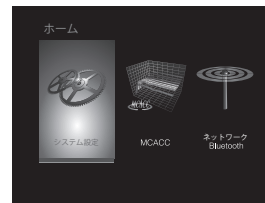


システム設定



本機をより深くお楽しみいただくための応用的な設定ができます。

1. テレビの入力を本機と接続した入力に切り換えます。
2. リモコンの ボタンを押してホーム画面を表示させ、リモコンのカーソルでシステム設定を選び、ENTER ボタンを押します。



3. リモコンの / / / で内容を選び、ENTER ボタンで決定します。
 - それぞれの設定項目の初期値は、カーソル / で変更します。
 - ひとつ前の画面に戻るには ボタンを押します。
4. 設定を終了するときは、 ボタンを押します。

入力 / 出力端子の割り当て

■ TV 出力 / OSD

1080p -> 4K アップスケーリング	4K に対応したテレビをご使用の場合に、1080p で入力された映像信号を自動的に 4K で出力することができます。 「オフ (初期値)」: この機能を使用しない場合 「自動」: この機能を使用する場合 • ご使用のテレビが 4K に対応していない場合は、「オフ」にしてください。
スーパーレゾリューション	「1080p -> 4K アップスケーリング」を「自動」に設定している場合に入力された映像信号の補正の度合いを「オフ」、「1」(弱) ~ 「3」(強) から選びます。
OSD 言語	テレビに表示する言語を選びます。 英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、オランダ語、スウェーデン語、日本語



インポーズ OSD	音量調整や入力切換などの情報をテレビ画面に表示するかどうかを設定します。 「オン (初期値)」: OSD をテレビに表示する 「オフ」: OSD をテレビに表示しない • この設定を「オン」にしても、入力信号によっては OSD が表示されないことがあります。表示されない場合は、接続機器の解像度を変更してください。
スクリーンセーバー	スクリーンセーバーの起動時間の設定です。 「3分 (初期値)」、「5分」、「10分」、「オフ」から選びます。

■ HDMI 入力

各入力切換に割り当てられている、HDMI IN 端子の割り当て設定を変更することができます。

BD/DVD	「HDMI 1 (HDCP 2.2)」～「HDMI 4 (HDCP 2.2)」: BD/DVD 入力切換に任意の HDMI IN 端子を割り当てます。割り当てない場合は、「----」を選びます。他の入力切換に設定されている HDMI IN 端子を選ぶ場合は、該当する入力切換の設定を「----」に変更すると選べるようになります。(初期値は「HDMI 1 (HDCP 2.2)」)
CBL/SAT	「HDMI 1 (HDCP 2.2)」～「HDMI 4 (HDCP 2.2)」: CBL/SAT 入力切換に任意の HDMI IN 端子を割り当てます。割り当てない場合は、「----」を選びます。他の入力切換に設定されている HDMI IN 端子を選ぶ場合は、該当する入力切換の設定を「----」に変更すると選べるようになります。(初期値は「HDMI 2 (HDCP 2.2)」)
GAME	「HDMI 1 (HDCP 2.2)」～「HDMI 4 (HDCP 2.2)」: GAME 入力切換に任意の HDMI IN 端子を割り当てます。割り当てない場合は、「----」を選びます。他の入力切換に設定されている HDMI IN 端子を選ぶ場合は、該当する入力切換の設定を「----」に変更すると選べるようになります。(初期値は「HDMI 4 (HDCP 2.2)」)

STRM BOX	「HDMI 1 (HDCP 2.2)」～「HDMI 4 (HDCP 2.2)」: STRM BOX 入力切換に任意の HDMI IN 端子を割り当てます。割り当てない場合は、「----」を選びます。他の入力切換に設定されている HDMI IN 端子を選ぶ場合は、該当する入力切換の設定を「----」に変更すると選べるようになります。(初期値は「HDMI 3 (HDCP 2.2)」)
----------	---

■ デジタル音声入力

各入力切換に割り当てられている、DIGITAL IN COAXIAL/OPTICAL 端子の割り当て設定を変更することができます。割り当てない場合は、「----」を選びます。

BD/DVD	「COAXIAL (同軸入力)」、「OPTICAL (光入力)」: BD/DVD 入力切換に任意の DIGITAL IN 端子を割り当てます。(初期値は「----」)
CBL/SAT	「COAXIAL (同軸入力)」、「OPTICAL (光入力)」: CBL/SAT 入力切換に任意の DIGITAL IN 端子を割り当てます。(初期値は「----」)
GAME	「COAXIAL (同軸入力)」、「OPTICAL (光入力)」: GAME 入力切換に任意の DIGITAL IN 端子を割り当てます。(初期値は「----」)
STRM BOX	「COAXIAL (同軸入力)」、「OPTICAL (光入力)」: STRM BOX 入力切換に任意の DIGITAL IN 端子を割り当てます。(初期値は「----」)
CD	「COAXIAL (同軸入力)」、「OPTICAL (光入力)」: CD 入力切換に任意の DIGITAL IN 端子を割り当てます。(初期値は「COAXIAL (同軸入力)」)
TV	「COAXIAL (同軸入力)」、「OPTICAL (光入力)」: TV 入力切換に任意の DIGITAL IN 端子を割り当てます。(初期値は「OPTICAL (光入力)」)

- デジタル入力から入力される PCM 信号 (ステレオ / モノラル) のサンプリングレートは、32kHz、44.1kHz、48kHz、88.2kHz、96kHz/16bit、20bit、24bit です。



■アナログ音声入力

各入力切換に割り当てられている、AUDIO IN 端子の割り当て設定を変更することができます。割り当てない場合は、「-----」を選びます。

BD/DVD	「オーディオ 1」、「オーディオ 2」: BD/DVD 入力切換に任意の AUDIO IN 端子を割り当てます。(初期値は「オーディオ 1」)
CBL/SAT	「オーディオ 1」、「オーディオ 2」: CBL/SAT 入力切換に任意の AUDIO IN 端子を割り当てます。(初期値は「オーディオ 2」)
GAME	「オーディオ 1」、「オーディオ 2」: GAME 入力切換に任意の AUDIO IN 端子を割り当てます。(初期値は「-----」)
STRM BOX	「オーディオ 1」、「オーディオ 2」: STRM BOX 入力切換に任意の AUDIO IN 端子を割り当てます。(初期値は「-----」)
CD	「オーディオ 1」、「オーディオ 2」: CD 入力切換に任意の AUDIO IN 端子を割り当てます。(初期値は「-----」)
TV	「オーディオ 1」、「オーディオ 2」: TV 入力切換に任意の AUDIO IN 端子を割り当てます。(初期値は「-----」)

スピーカー

スピーカーの接続環境や音量レベルなどを変更することができます。フルオート MCACC を行った場合は、自動で設定されています。ヘッドホンを接続しているときや、「ハードウェア」-「HDMI」-「テレビオーディオ出力」の設定を「オン」にしてご利用のテレビのスピーカーから音声を出力しているときは、この設定を選択することはできません。

■配置・構成

スピーカーチャンネル	接続しているスピーカーのチャンネル数に合わせて、「2.1 ch」、「3.1 ch」、「4.1 ch」、「5.1 ch (初期値)」、「2.1.2 ch」、「3.1.2 ch」から選択してください。
サブウーファー	サブウーファーの有無を設定します。 「有り (初期値)」: サブウーファーを接続する場合 「無し」: サブウーファーを接続しない場合
ハイトスピーカー	SURROUND 端子にハイトスピーカーを接続する場合、スピーカーのタイプを設定します。接続するスピーカーのタイプや配置に合わせて「フロント ハイ」、「トップミドル (初期値)」、「Dolby Speaker フロント」から選択してください。 • 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。

■クロスオーバー

フロント	各チャンネルの低域再生能力の大小によって設定します。 「スモール (初期値)」: 低域再生能力が十分ではない小型のスピーカーの場合 「ラージ」: 低域再生能力のあるフルレンジスピーカーの場合 「配置・構成」-「サブウーファー」の設定を「無し」にした場合、「フロント」の設定は「ラージ」に固定され、他のチャンネルの低音域がフロントスピーカーから出力されます。ご使用のスピーカーの取扱説明書を参考に設定してください。
------	---



センター	各チャンネルの低域再生能力の大小によって設定します。 「スモール (初期値)」: 低域再生能力が十分ではない小型のスピーカーの場合 「レンジ」: 低域再生能力のあるフルレンジスピーカーの場合 • 「フロント」が「スモール」に設定されている場合、この設定は「スモール」になります。 • 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。
ハイト	各チャンネルの低域再生能力の大小によって設定します。 「スモール (初期値)」: 低域再生能力が十分ではない小型のスピーカーの場合 「レンジ」: 低域再生能力のあるフルレンジスピーカーの場合 • 「フロント」が「スモール」に設定されている場合、この設定は「スモール」になります。 • 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。
サラウンド	各チャンネルの低域再生能力の大小によって設定します。 「スモール (初期値)」: 低域再生能力が十分ではない小型のスピーカーの場合 「レンジ」: 低域再生能力のあるフルレンジスピーカーの場合 • 「フロント」が「スモール」に設定されている場合、この設定は「スモール」になります。 • 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。
クロスオーバー	「スモール」に設定されたスピーカーがあるとき、何 Hz 以下の低音域を他のスピーカーで再生するか、また LFE (低域効果音) 信号の何 Hz 以下の低音域を再生するかを設定します。設定できる各周波数は「50Hz」～「200Hz」です。(初期値は「80Hz」)

ダブルバス	「配置・構成」-「サブウーファー」の設定が「有り」で、「フロント」の設定が「レンジ」のときのみ選択できます。 左右フロントスピーカー、センタースピーカーの低音をサブウーファーに送り、低音の出力を強調します。 「オン」: 低音の出力を強調する場合 「オフ」: 低音の出力を強調しない場合 • フルオート MCACC を行っても、この機能は自動で設定されません。
-------	---

■ 距離

視聴位置から各スピーカーまでの距離を設定します。

フロント左	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。(初期値は「3.00m」)
センター	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。(初期値は「3.00m」)
フロント右	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。(初期値は「3.00m」)
ハイト左	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。(初期値は「3.00m」)
ハイト右	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。(初期値は「3.00m」)
サラウンド右	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。(初期値は「3.00m」)
サラウンド左	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。(初期値は「3.00m」)
サブウーファー	各スピーカーと視聴位置の距離を設定します。(初期値は「3.00m」)

• 距離の単位は、リモコンの MODE ボタンを押して切り換えることができます。単位をフィートで設定する場合は、0.1 ft ～ 30.0 ft の間で 0.1ft 単位で設定可能です。単位をメートルで設定する場合は、0.03 m ～ 9.00 m の間で 0.03 m 単位で設定可能です。



■チャンネルレベル

フロント左	「-12 dB」～「+12 dB」から選びます (1 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、好みの音量レベルを選択してください。(初期値は「0 dB」)
センター	「-12 dB」～「+12 dB」から選びます (1 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、好みの音量レベルを選択してください。(初期値は「0 dB」)
フロント右	「-12 dB」～「+12 dB」から選びます (1 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、好みの音量レベルを選択してください。(初期値は「0 dB」)
ハイト左	「-12 dB」～「+12 dB」から選びます (1 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、好みの音量レベルを選択してください。(初期値は「0 dB」)
ハイト右	「-12 dB」～「+12 dB」から選びます (1 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、好みの音量レベルを選択してください。(初期値は「0 dB」)
サラウンド右	「-12 dB」～「+12 dB」から選びます (1 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、好みの音量レベルを選択してください。(初期値は「0 dB」)
サラウンド左	「-12 dB」～「+12 dB」から選びます (1 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、好みの音量レベルを選択してください。(初期値は「0 dB」)
サブウーファー	「-15 dB」～「+12 dB」から選びます (1 dB 単位)。数値を変えるたびにテスト音が出力されますので、好みの音量レベルを選択してください。(初期値は「0 dB」)

■Dolby Enabled Speaker

ドルビーイネーブルドスピーカーから天井までの距離	Dolby Enabled スピーカーから天井までの距離を設定します。「0.1 ft/0.03 m」～「15.0 ft/4.50 m」から選びます (0.1 ft/0.03 m 単位) (初期値は「1.80 m」) <ul style="list-style-type: none"> 距離の単位 (フィート / メートル) は、「距離」の設定で使用している単位で表示されます。
Reflex Optimizer	Dolby Enabled スピーカーの天井からの反射効果を高めることができます。 「オン」: この機能を使用する場合 「オフ (初期値)」: この機能を使用しない場合 <ul style="list-style-type: none"> リスニングモードが Pure Direct モードのときは、この機能は効果がありません。

- この設定は、「配置・構成」-「ハイトスピーカー」を「Dolby Speaker」に設定している場合に選択できます。



音の設定・調整

■デュアルモノ / モノ

デュアルモノ	<p>多重音声や多重言語の放送などを再生するときの音声や言語の種類を設定します。</p> <p>「主 (初期値)」: 主音声のみが再生されます。</p> <p>「副」: 副音声のみが再生されます。</p> <p>「主 / 副」: 主音声と副音声と同時に再生されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音声多重放送の場合、リモコンの i ボタンを押すと本機の表示部に「1 + 1」と表示されます。
モノラル入力チャンネル	<p>2チャンネルで記録された Dolby Digital などのデジタル信号やアナログ / PCM 信号を Mono リスニングモードで再生する場合の入力チャンネルを設定します。</p> <p>「左」: 左チャンネルの音声のみを再生します。</p> <p>「右」: 右チャンネルの音声のみを再生します。</p> <p>「左 + 右 (初期値)」: 左右両チャンネルの音声を再生します。</p>

■ Dolby

Loudness Management	<p>Dolby TrueHD 再生時に、セリフの音量を一定レベルに揃えるダイアログノーマライゼーション機能を有効にします。なお、Dolby Digital Plus/Dolby TrueHD 再生時にこの設定をオフにすると、小音量でもサラウンドが楽しめる DRC 機能はオフに固定されます。</p> <p>「オン (初期値)」: この機能を使用する場合</p> <p>「オフ」: この機能を使用しない場合</p>
---------------------	---

■ボリューム

音量制限	<p>音量が大きくなり過ぎないように最大値を設定します。「オフ (初期値)」、「30」～「49」から選びます。</p>
ヘッドホン音量レベル	<p>ヘッドホンの出力レベルを調整します。「-12 dB」～「+12 dB」から選びます。(初期値は「0 dB」)</p>

入力ソース

■インプットボリュームアプソーバ

本機に接続された複数の機器で音量差がある場合の調整です。設定する場合は任意の入力切換を選んでください。

インプットボリュームアプソーバ	<p>「-12 dB」～「+12 dB」から選びます。他の機器と比べて音量が大きい場合は - の値を、小さい場合は + の値で調整します。音声を確認する場合は接続機器を再生してください。(初期値は「0 dB」)</p>
-----------------	---

■名前変更

各入力切換にわかりやすい名前を設定します。入力した名前が本体表示部に表示されます。設定する場合は任意の入力切換を選んでください。

名前変更	<ol style="list-style-type: none"> カーソルで文字・記号を選び、ENTER ボタンを押します。この操作をくり返して最大 10 文字まで入力します。 「A/a」: 大文字 / 小文字が切り換わります。(リモコンの MODE ボタンを押しても大文字 / 小文字が切り換わります) 「←」「→」: 矢印の方向にカーソルが移動します。 「<」: カーソルの左側の文字を 1 文字消去します。 「□」: 1 文字分スペースが入ります。 ・リモコンの CLEAR ボタンを押すと、入力した文字をすべて消去します。 入力が終われば、カーソルで「OK」を選び、ENTER ボタンを押します。 入力した名前が保存されます。
------	--

- ・プリセットされた放送局に名前をつける場合は、リモコンの TUNER ボタンを押して FM を選び、プリセット番号を選びます。
- ・「NET」、「USB」、「BT AUDIO」の入力切換を選択時は、設定できません。



■音声信号選択

HDMI IN 端子の「BD/DVD」と AUDIO IN 端子の「BD/DVD」に接続しているなど、1つの入力切換に複数の音声接続をしている場合に、優先する入力端子を選択します。入力切換ごとに設定します。設定する場合は任意の入力切換を選んでください。なお、初期値が変更できないものもあります。

音声信号選択	<p>「ARC」：ARC 対応テレビからの入力信号を優先する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> この項目は、「ハードウェア」-「HDMI」-「オーディオリターンチャンネル」の設定を「自動」にして、かつ「TV」の入力切換を選択時にのみ選ぶことができます。 <p>「HDMI」：HDMI IN 端子の入力を優先する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> この項目は、設定する入力切換が「入力 / 出力端子の割り当て」-「HDMI 入力」の設定で HDMI 端子に割り当てられている場合にのみ選ぶことができます。 <p>「COAXIAL (同軸入力)」：DIGITAL IN COAXIAL 端子の入力を優先する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> この項目は、設定する入力切換が「入力 / 出力端子の割り当て」-「デジタル音声入力」の設定で COAXIAL 端子に割り当てられている場合にのみ選ぶことができます。 <p>「OPTICAL (光入力)」：DIGITAL IN OPTICAL 端子の入力を優先する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> この項目は、設定する入力切換が「入力 / 出力端子の割り当て」-「デジタル音声入力」の設定で OPTICAL 端子に割り当てられている場合にのみ選ぶことができます。 <p>「アナログ」：入力信号に関わらず常にアナログ音声を出力する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> この項目は、設定する入力切換が「入力 / 出力端子の割り当て」-「アナログ音声入力」の設定で AUDIO IN 端子に割り当てられている場合にのみ選ぶことができます。 <p>(初期値：BD/DVD: HDMI、CBL/SAT: HDMI、GAME: HDMI、STRM BOX: HDMI、CD: COAXIAL (同軸入力)、TV: OPTICAL (光入力)、PHONO: アナログ)</p>
--------	--

PCM 固定	<p>「音声信号選択」の設定で「HDMI」、「COAXIAL (同軸入力)」、「OPTICAL (光入力)」を選んだ場合の入力信号を PCM(マルチチャンネル PCM は除く)に固定するかどうかを選択します。PCM 信号の再生中にノイズや曲間の頭切れが発生する場合は「オン」に設定してください。通常は「オフ(初期値)」にしておいてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「音声信号選択」の設定を変更するたびにこの設定は「オフ」に戻ります。
--------	---

- 「TUNER」、「NET」、「USB」、「BT AUDIO」の入力切換を選択時は、この設定を変更できません。



ハードウェア

■ HDMI

HDMI CEC	<p>この設定を「オン」にすると、HDMI 接続した CEC 対応機器と入力切替連動などの連動機能が働きます。</p> <p>「オン」: この機能を使用する場合 「オフ (初期値)」: この機能を使用しない場合</p> <p>この設定を変更した場合、すべての接続機器の電源を切って電源を入れ直してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ご使用のテレビによっては、テレビ側でリンク設定などが必要です。 この設定を「オン」にして、操作画面を閉じると、本体表示部に接続されている CEC 対応機器名称と「CEC On」が表示されます。 この設定を「オン」にすると、スタンバイ状態での消費電力が増加することがあります。(テレビの状態により、通常の待機時消費電力モードになります。) この設定が「オン」で、ご利用のテレビのスピーカーから音声を出力しているときに、本機の MASTER VOLUME ダイアルを操作すると、本機に接続したスピーカーからも音声が出ます。どちらか一方の音声のみ出力したい場合は、本機またはテレビの設定を変えるか、本機の音量を下げてください。 この設定を「オン」にして、異常な動作をする場合は「オフ」にしてください。 接続した機器が CEC に対応していない場合や、対応しているかわからない場合は、「オフ」にしてください。
----------	--

HDMI スタンバイスルー	<p>「オフ」以外に設定すると、本機がスタンバイ状態でも、HDMI 接続している再生機器の映像と音声をテレビで再生することができます。なお、「HDMI CEC」が「オン」に設定されている場合は、「自動」および「自動 (エコ)」のみ選択できます。その他を選択する場合は、「HDMI CEC」を「オフ」に設定してください。(初期値は「オフ」)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「オフ」以外に設定すると、本機がスタンバイ状態での消費電力が増加します。 <p>「BD/DVD」、「CBL/SAT」、「GAME」、「STRM BOX」: たとえば「BD/DVD」を選んでいると、本機がスタンバイ状態でも、「BD/DVD」端子に接続した再生機器をテレビで再生することができます。この機能を使用したい再生機器が決まっている場合に、この設定値を選択します。</p> <p>「最終値」: スタンバイにする直前に選んでいた入力切替の映像と音声をテレビで再生することができます。</p> <p>「自動」、「自動 (エコ)」: 接続した再生機器が CEC 規格に準拠している場合は、この設定を選びます。スタンバイにする直前に選んでいた入力切替が何であっても、CEC 連動機能により、再生機器の映像と音声をテレビで再生することができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> CEC 規格に準拠していない再生機器をテレビで再生する場合は、本機の電源をオンにして入力を切り換える必要があります。 CEC 規格に準拠したテレビをお使いの場合は、「自動 (エコ)」を選ぶとスタンバイ状態での消費電力を低減できます。
---------------	--



テレビオーディオ出力	<p>本機の電源が入った状態で、テレビのスピーカーから音声を聴くことができます。</p> <p>「オン」: この機能を使用する場合 「オフ (初期値)」: この機能を使用しない場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 「HDMI CEC」の設定を「オン」にした場合、この設定は「自動」に固定されます。この設定を変更する場合は「HDMI CEC」の設定を「オフ」にしてください。 「テレビオーディオ出力」が「オン」に設定されている場合、テレビから音声が出ているときはリスニングモードを変更できません。 お使いのテレビや接続機器の入力信号によっては、この設定が「オン」でもテレビから音声が出ないことがあります。その場合は、本機のスピーカーから音声が出ます。 本機に入力された音声をご利用のテレビのスピーカーから出力しているときに、本機の MASTER VOLUME ダイアルを操作すると、本機から音声が出ます。音声を出したくない場合は、本機またはテレビの設定を変えるか、本機の音量を下げてください。
オーディオリターンチャンネル	<p>HDMI 接続した ARC 機能対応テレビの音声を、本機と接続したスピーカーで聴くことができます。</p> <p>この機能を使用するには、あらかじめ「HDMI CEC」を「オン」に設定しておいてください。</p> <p>「自動」: テレビの音声を本機のスピーカーで聴く場合 「オフ」: ARC 機能を使用しない場合</p>
オートディレイ	<p>HDMI リップシンク対応テレビからの情報に応じて映像と音声のズレを自動補正します。</p> <p>「オン (初期値)」: 自動補正機能を有効にする場合 「オフ」: 自動補正機能を使用しない場合</p>

■電源管理

スリープタイマー	<p>指定した時間が経過したら、本機を自動的にスタンバイ状態にすることができます。「30分」、「60分」、「90分」から選びます。</p> <p>「オフ (初期値)」: 自動的にスタンバイ状態にしない場合</p>
自動スタンバイ	<p>映像または音声入力がない状態で本機を 20 分間操作しなかった場合、自動的にスタンバイ状態に移行させることができます。(「スタンバイ時の USB 電源供給」または「ネットワークスタンバイ」が有効になっているときは、消費電力の増加を最小限に抑制する HYBRID STANDBY モードに移行します。)</p> <p>「オン」: 自動的にスタンバイ状態に移行させる場合。「ASb」表示が点灯します。</p> <p>「オフ (初期値)」: スタンバイ状態への移行をさせない場合</p> <ul style="list-style-type: none"> スタンバイ状態に移行する30秒前に本体表示部とテレビ画面に「Auto Standby」と表示されます。
HDMI スタンバイスルー時の自動スタンバイ	<p>「HDMI スタンバイスルー」動作中に「自動スタンバイ」設定を有効または無効にします。</p> <p>「オン」: 有効にする場合 「オフ」: 無効にする場合</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自動スタンバイ」の設定が「オフ」の場合、この設定は「オン」にできません。
スタンバイ時の USB 電源供給	<p>この機能を「オン」に設定すると、本機がスタンバイ状態でも、USB 端子に接続された機器に給電することができます。(初期値は「オフ」)</p> <ul style="list-style-type: none"> この機能を使用中は、本機がスタンバイ状態での消費電力が増加しますが、必要最小限の回路のみが作動する HYBRID STANDBY モードに自動で移行して、消費電力の増加を最小限に抑制します。



ネットワークスタンバイ	この機能を「オン (初期値)」にすると、本機をコントロールできるアプリケーションを使用して、ネットワーク経由で本機の電源をオンにすることができます。 <ul style="list-style-type: none"> 「ネットワークスタンバイ」使用中は、本機がスタンバイ状態での消費電力が増加しますが、必要最小限の回路のみが作動する HYBRID STANDBY モードに自動で移行して、消費電力の増加を最小限に抑制します。 ネットワークへの接続が切断されると、消費電力の抑制のため「ネットワークスタンバイ」が無効になる場合があります。この場合は、リモコンや本体の電源ボタンで電源をオンにしてください。
Bluetooth による起動	本機がスタンバイ時に、BLUETOOTH 対応機器と接続することにより、本機を起動させる機能です。 「オン」：この機能を使用する場合 「オフ (初期値)」：この機能を使用しない場合 <ul style="list-style-type: none"> この設定を「オン」にすると、本機がスタンバイ状態での消費電力が増加しますが、必要最小限の回路のみが作動する HYBRID STANDBY モードに自動で移行して、消費電力の増加を最小限に抑制します。 「ネットワーク / Bluetooth」 - 「Bluetooth」 - 「自動入力切り換え」 (⇒P58) を「オフ」に設定している場合、この設定は「オフ」に固定されます。

- 「ネットワークスタンバイ」、「Bluetooth による起動」が選択できない場合は、しばらくお待ちください。ネットワーク機能が起動すると選べるようになります。

その他

■ファームウェアアップデート

アップデート通知	更新可能なファームウェアが存在する場合、ネットワーク経由で更新を通知します。 「有効 (初期値)」：通知する場合 「無効」：通知しない場合
バージョン	現在のファームウェアのバージョンを表示します。

ネットワーク経由のアップデート	ネットワーク経由でファームウェアを更新するときに ENTER ボタンを押して選択します。 <ul style="list-style-type: none"> インターネットに接続していない場合や、更新可能なファームウェアが存在しない場合は、この設定は選択できません。
USB 経由のアップデート	USB 経由でファームウェアを更新するときに ENTER ボタンを押して選択します。 <ul style="list-style-type: none"> USB ストレージを接続していない場合や、USB ストレージに更新可能なファームウェアが存在しない場合は、この設定は選択できません。

- 「ファームウェアアップデート」が選択できない場合は、しばらくお待ちください。ネットワーク機能が起動すると選べるようになります。

■初期設定

初期設定をシステム設定メニューから行うことができます。

- 「初期設定」が選択できない場合は、しばらくお待ちください。ネットワーク機能が起動すると選べるようになります。

■ロック

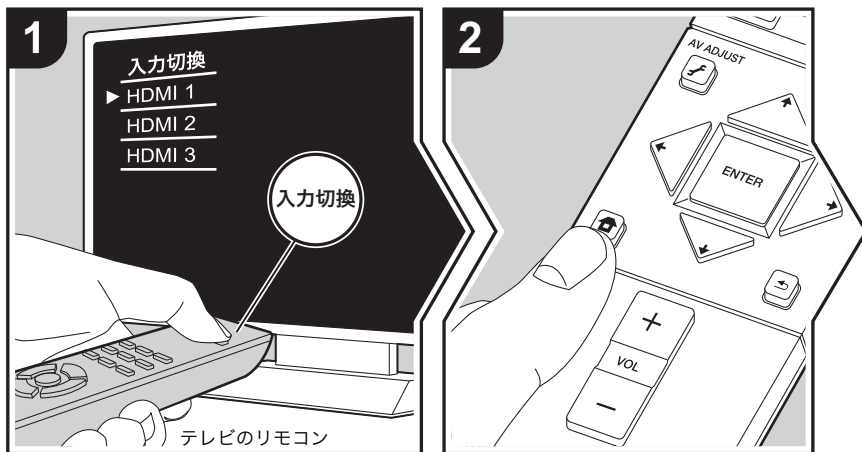
セットアップ項目	セットアップメニューをロックして、設定を変更できないようにします。 「ロック」：ロックを設定 「解除 (初期値)」：ロックを解除
----------	--

■初期設定に戻す

初期設定に戻す	本機をリセットして、すべての設定をお買い上げ時の状態に戻します。本体表示部に「Clear」と表示され、本機がスタンバイ状態になるとリセット完了です。 リセットを行うとお客様の設定内容が初期設定に戻りますので、実行する前に、設定内容をメモなどに記録してください。
---------	---

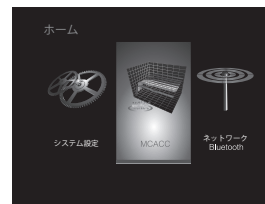


MCACC



スピーカーの自動設定やお好みのイコライザ設定を行います。また現在設定されている各スピーカーの設定値などの内容が確認できます。

1. テレビの入力を本機と接続した入力に切り換えます。
2. リモコンの **ENTER** ボタンを押してホーム画面を表示させ、リモコンのカーソルで MCACC を選び、ENTER ボタンを押します。



3. リモコンの **↑** / **↓** / **←** / **→** で内容を選び、ENTER ボタンで決定します。
 - それぞれの設定項目の初期値は、カーソル **←** / **→** で変更します。
 - ひとつ前の画面に戻るには **↶** ボタンを押します。
4. 設定を終了するときは、**HOME** ボタンを押します。

フルオート MCACC

付属の測定用マイクを視聴位置に設置して、各スピーカーから出力されるテスト音を測定し、最適な音量レベルやクロスオーバー周波数、視聴位置からの距離を自動で設定します。また、スピーカーのイコライザ調整を自動で行い、部屋の環境による音のひずみを補正することができます。

詳細については、初期設定の「1. フルオート MCACC」(⇒P19)をご覧ください。

マニュアル MCACC

■ EQ の調整

フルオート MCACC を行った場合は自動で設定されていますが、お好みで接続したスピーカーごとに、出力する音域の音量を調整することができます。それぞれのスピーカーの音域別で音量を調整します。プリセット 1～3 まで 3 種類のイコライザを設定することができます。各スピーカーで選択できる周波数の数は、サブウーファーは 4 バンドまで、それ以外のスピーカーは 9 バンドまでです。設定したイコライザ効果を反映するには、「AV Adjust」 - 「MCACC」 - 「マニュアル EQ 選択」(⇒P40) でプリセット番号を選んでください。




フロント左	<p>カーソルの ◀/▶ で「63 Hz」～「16 kHz」からスピーカーの周波数を選んだあと、▲/▼ でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」の間で調節します。(初期値は「0.0 dB」)</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」(➡P45)の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。 「63 Hz」は、「システム設定」-「スピーカー」-「クロスオーバー」(➡P45)でこのスピーカーの設定を「ラージ」にしている場合のみ選択できます。
センター	<p>カーソルの ◀/▶ で「63 Hz」～「16 kHz」からスピーカーの周波数を選んだあと、▲/▼ でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」の間で調節します。(初期値は「0.0 dB」)</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」(➡P45)の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。 「63 Hz」は、「システム設定」-「スピーカー」-「クロスオーバー」(➡P45)でこのスピーカーの設定を「ラージ」にしている場合のみ選択できます。
フロント右	<p>カーソルの ◀/▶ で「63 Hz」～「16 kHz」からスピーカーの周波数を選んだあと、▲/▼ でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」の間で調節します。(初期値は「0.0 dB」)</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」(➡P45)の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。 「63 Hz」は、「システム設定」-「スピーカー」-「クロスオーバー」(➡P45)でこのスピーカーの設定を「ラージ」にしている場合のみ選択できます。

ハイト左	<p>カーソルの ◀/▶ で「63 Hz」～「16 kHz」からスピーカーの周波数を選んだあと、▲/▼ でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」の間で調節します。(初期値は「0.0 dB」)</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」(➡P45)の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。 「63 Hz」は、「システム設定」-「スピーカー」-「クロスオーバー」(➡P45)でこのスピーカーの設定を「ラージ」にしている場合のみ選択できます。
ハイト右	<p>カーソルの ◀/▶ で「63 Hz」～「16 kHz」からスピーカーの周波数を選んだあと、▲/▼ でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」の間で調節します。(初期値は「0.0 dB」)</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」(➡P45)の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。 「63 Hz」は、「システム設定」-「スピーカー」-「クロスオーバー」(➡P45)でこのスピーカーの設定を「ラージ」にしている場合のみ選択できます。
サラウンド右	<p>カーソルの ◀/▶ で「63 Hz」～「16 kHz」からスピーカーの周波数を選んだあと、▲/▼ でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」の間で調節します。(初期値は「0.0 dB」)</p> <ul style="list-style-type: none"> 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」(➡P45)の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。 「63 Hz」は、「システム設定」-「スピーカー」-「クロスオーバー」(➡P45)でこのスピーカーの設定を「ラージ」にしている場合のみ選択できます。



サラウンド左	<p>カーソルの ◀/▶ で「63 Hz」～「16 kHz」からスピーカーの周波数を選んだあと、▲/▼ でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」の間で調節します。(初期値は「0.0 dB」)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 正しく接続しているにもかかわらず項目を選択できないときは、「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「スピーカーチャンネル」(➔P45)の設定が接続しているチャンネル数と合っているか確認してください。 • 「63 Hz」は、「システム設定」-「スピーカー」-「クロソオーバー」(➔P45)でこのスピーカーの設定を「ラージ」にしている場合のみ選択できます。
サブウーファー	<p>カーソルの ◀/▶ で「31 Hz」～「250 Hz」からスピーカーの周波数を選んだあと、▲/▼ でその周波数の音量を「-12.0 dB」～「+12.0 dB」の間で調節します。(初期値は「0.0 dB」)</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「システム設定」-「スピーカー」-「配置・構成」-「サブウーファー」(➔P45)の設定を「無し」にしているときは選択できません。

- 入力ソースまたはリスニングモードの設定によっては、望ましい効果を得ることができない場合があります。
- 音を聴きながら調整したい場合は、リモコンの  ボタンを押して、「AV Adjust」-「MCACC」-「マニュアル EQ 選択」(➔P40)で調整するプリセットを選択してから調整してください。

MCACC データチェック

接続したスピーカーのチャンネル数や各スピーカーの設定項目の内容や設定値が確認できます。

■スピーカー設定

接続したスピーカーのチャンネル数や各スピーカーの低音再生能力の大小の設定を確認できます。

■チャンネルレベル

各スピーカーの出力レベルの設定を確認できます。

■スピーカー距離

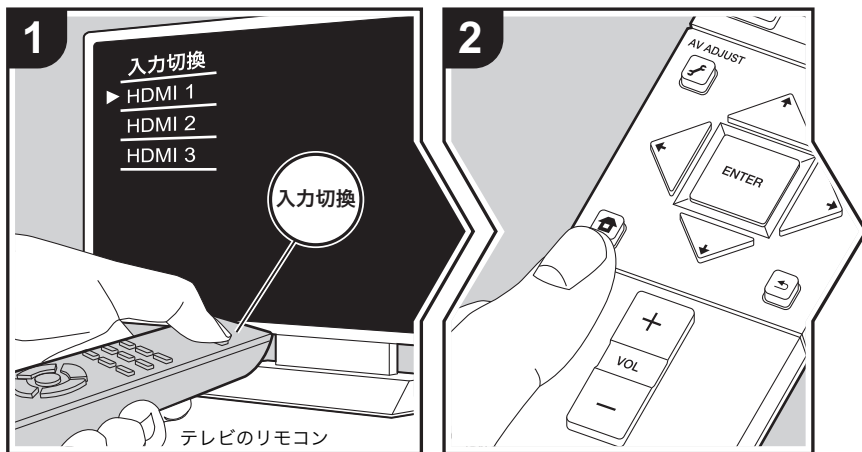
視聴位置から各スピーカーまでの距離を確認できます。

■Acoustic Calibration EQ

「マニュアル MCACC」で設定された各スピーカーの周波数特性の補正値を確認できます。



ネットワーク / Bluetooth



ネットワーク接続に関する設定や BLUETOOTH に関する設定ができます。

1. テレビの入力を本機と接続した入力に切り換えます。
2. リモコンの **HOME** ボタンを押してホーム画面を表示させ、リモコンのカーソルでネットワーク / Bluetooth を選び、ENTER ボタンを押します。



3. リモコンの **UP** / **DOWN** / **LEFT** / **RIGHT** で内容を選び、ENTER ボタンで決定します。
 - それぞれの設定項目の初期値は、カーソル **LEFT** / **RIGHT** で変更します。
 - ひとつ前の画面に戻るには **BACK** ボタンを押します。
4. 設定を終了するときは、**HOME** ボタンを押します。

ネットワーク

- DHCP で LAN を構築している場合は「DHCP」の設定を「有効」にして自動設定してください。また、各機器に固定 IP アドレスを割り当てる場合は、「DHCP」の設定を「無効」にして「IP アドレス」の設定で本機にアドレスを割り当て、サブネットマスクとゲートウェイなどお使いの LAN に関する情報を設定する必要があります。

Wi-Fi	無線 LAN 対応ルーター経由で、本機をネットワークに接続します。 「オン」：無線 LAN で接続する場合 「オフ (有線) (初期値)」：有線 LAN で接続する場合
Wi-Fi Setup	「Start」が表示された状態で ENTER ボタンを押して、無線 LAN の設定を行います。 • Wi-Fi 設定については、初期設定の「3. ネットワーク接続」(→P19) をご確認ください。
Wi-Fi 接続状態	接続しているアクセスポイントの情報が表示されます。 「SSID」：接続しているアクセスポイントの SSID 「感度」：接続しているアクセスポイントの信号強度 「ステータス」：接続しているアクセスポイントの状態



MAC アドレス	本機の MAC アドレスを確認します。 この値は機器固有のものであり、変更はできません。
DHCP	「有効 (初期値)」: DHCP で自動設定する 「無効」: DHCP を使わず手動設定する 「無効」を選んだ場合、「IP アドレス」、「サブネットマスク」、「ゲートウェイ」、「DNS サーバー」は手動で設定してください。
IP アドレス	IP アドレスを表示・設定します。
サブネットマスク	サブネットマスクを表示・設定します。
ゲートウェイ	ゲートウェイアドレスを表示・設定します。
DNS サーバー	DNS サーバー (プライマリ) を表示・設定します。
プロキシ URL	プロキシサーバーの URL を表示・設定します。
プロキシポート	「プロキシ URL」入力時にプロキシサーバーのポート番号を表示・設定します。
フレンドリーネーム	ネットワーク接続している機器側で表示される本機の機種名をわかりやすい名前に変更します。 お買い上げ時の初期値は Pioneer VSX-S520 **** に設定されています。(* は機器固有の英数字が表示されます) 1. ENTER ボタンを押し、編集画面を表示させます。 2. カーソルで文字・記号を選び、ENTER ボタンを押します。 この操作をくり返して最大 31 文字まで入力します。 「A/a」: 大文字 / 小文字が切り換わります。(リモコンの MODE ボタンを押しても大文字 / 小文字が切り換わります) 「←」「→」: 矢印の方向にカーソルが移動します。 「☒」: カーソルの左側の文字を 1 文字消去します。 「□」: 1 文字分スペースが入ります。 • リモコンの CLEAR ボタンを押すと、入力した文字をすべて消去します。 3. 入力が終われば、カーソルで「OK」を選び、ENTER ボタンを押します。 入力した名前が保存されます。

AirPlay パスワード	入力したユーザーのみが AirPlay を利用できるよう最大 31 桁のパスワードを設定することができます。 1. ENTER ボタンを押し、編集画面を表示させます。 2. カーソルで文字・記号を選び、ENTER ボタンを押します。 この操作をくり返して最大 31 文字まで入力します。 「A/a」: 大文字 / 小文字が切り換わります。(リモコンの MODE ボタンを押しても大文字 / 小文字が切り換わります) 「←」「→」: 矢印の方向にカーソルが移動します。 「☒」: カーソルの左側の文字を 1 文字消去します。 「□」: 1 文字分スペースが入ります。 • リモコンの +Fav ボタンを押すと、パスワードを「*」で表示するか入力した文字をそのまま表示するか切り換えます。 • リモコンの CLEAR ボタンを押すと、入力した文字をすべて消去します。 3. 入力が終われば、カーソルで「OK」を選び、ENTER ボタンを押します。 入力したパスワードが保存されます。
データ利用	弊社は、製品の品質やサービス向上のため、お客様の使用状況に関する情報をネットワーク経由で取得させていただく場合がございます。この設定を「有り」にすると情報が収集され、「無し」にすると情報を収集されることはありません。(初期値は「無し」) この設定はプライバシーポリシーの確認後に設定できます。 「データ利用」を選んで ENTER ボタンを押すと、プライバシーポリシーが表示されます。(ネットワークの接続設定中にも、同じ画面が一度だけ表示されます) 情報の収集に同意すると、この設定も「有り」になります。なお、同意したあとでもこの設定を「無し」に設定すると、情報が収集されることはありません。
ネットワーク確認	ネットワークの接続状態を確認します。 「Start」が表示された状態で ENTER ボタンを押してください。

- 「ネットワーク」が選択できない場合は、しばらくお待ちください。ネットワーク機能が起動すると選べるようになります。



Bluetooth

Bluetooth	<p>BLUETOOTH 機能の使用 / 不使用を設定します。 「オン (初期値)」: BLUETOOTH 機能を使用して、BLUETOOTH 対応機器との接続を有効にします。 BLUETOOTH に関する各種設定を行う場合もこの設定を「オン」にしてください。 「オフ」: BLUETOOTH 機能を使用しない場合</p>
自動入力切り換え	<p>BLUETOOTH 対応機器側から本機に接続すると、本機の入力切換を自動的に「BT AUDIO」に切り換えることができます。 「オン (初期値)」: BLUETOOTH 対応機器の接続に対応して、入力切換を自動で「BT AUDIO」にします。 「オフ」: この機能を無効にします。 <ul style="list-style-type: none"> 自動的に入力切換が切り換わらない場合は、「オフ」に設定して、手動で入力切換を設定してください。 </p>
自動接続	<p>入力切換を「BT AUDIO」に切り換えると、自動的に最後に接続していた BLUETOOTH 対応機器と接続する機能です。 「オン (初期値)」: この機能を使用する場合 「オフ」: この機能を使用しない場合 <ul style="list-style-type: none"> ご使用の BLUETOOTH 対応機器によっては、この機能が働かないことがあります。 </p>
ペアリング情報	<p>本機に保存されているペアリング情報を初期化することができます。 「削除」が表示された状態で ENTER ボタンを押すと、本機に保存されているペアリング情報が初期化されます。 <ul style="list-style-type: none"> BLUETOOTH 対応機器側のペアリング情報は初期化されません。再度その機器と本機をペアリングする際は、BLUETOOTH 対応機器側のペアリング情報を消去してから行ってください。ペアリング情報の消去については、BLUETOOTH 対応機器の取扱説明書をご参照ください。 </p>
デバイス	<p>接続されている BLUETOOTH 対応機器の名前が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> 「ステータス」が「待機中」や「ペアリング」の場合は、名前は表示されません。 </p>

ステータス	<p>接続されている BLUETOOTH 対応機器の状態が表示されます。 「待機中」: ペアリングされていない 「ペアリング」: ペアリング中 「接続済み」: 接続完了</p>
-------	---

- 「Bluetooth」が選択できない場合は、しばらくお待ちください。BLUETOOTH 機能が起動すると選べるようになります。



ファームウェアアップデート

本機のアップデート機能について

本機は、ファームウェア(システムソフトウェア)をネットワーク経由やUSB経由でアップデートする機能を搭載しています。これにより、さまざまな動作の改善や機能の追加を行うことができます。

アップデートの方法

ファームウェアの更新は、ネットワーク経由とUSB経由の2つの方法があります。ネットワーク経由またはUSB経由のどちらの方法も、更新には約20分かかります。また、どちらの方法で更新しても、これまで変更した設定の内容は保持されます。

なお、本機をネットワーク接続している場合、ファームウェアの更新の通知が表示される場合があります。アップデートを行う場合は、リモコンのカーソルボタンで、「アップデートします」を選んでENTERボタンで決定してください。「Completed!」が表示されると、更新完了です。


- 最新の更新情報については、弊社ホームページでご確認ください。更新がなければ本機のファームウェアをアップデートする必要はありません。
- 更新の前に、測定用マイクを接続していないことを確認してください。
- 更新中は、以下のことを行わないでください。
 - ケーブルやUSBストレージ、測定用マイク、ヘッドホンの抜き差し、電源を切るなど機器の操作
 - PCやスマートフォンのアプリケーションからの本機へのアクセス

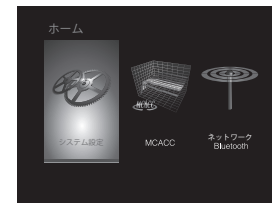
免責事項：本プログラムおよび付随するオンラインドキュメンテーションは、お客様の責任においてご使用いただくために提供されます。

弊社は、法理に関わらず、また不法行為や契約から生じるかを問わず、本プログラムまたは付随するオンラインドキュメンテーションの使用に際して生じたいかなる損害および請求に対して責任を負うものではなく、賠償することもありません。

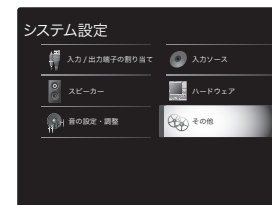
弊社は、いかなる場合においても、補償、弁済、損失利益または逸失利益、データの損失その他の理由により生じた損害を含む(ただしこれらに限定されない)、特別損害、間接的損害、付随的又は派生的損害について、お客様または第三者に対して一切の責任を負いません。

ネットワーク経由で更新する

- 本機の電源が入っていること、インターネットに接続していることを確認してください。
 - ネットワークに接続されたコントロール機器(PCなど)の電源を切ってください。
 - 再生中のインターネットラジオ、USBまたは、サーバーなどを止めてください。
 - ホーム画面の「システム設定」-「ハードウェア」-「HDMI」-「HDMI CEC」の設定を「オン」にしている場合は、「オフ」にしてください。
 - 記載が画面の実際の表示と異なる場合がありますが、操作や機能は変わりません。
1. テレビの入力を本機と接続した入力に切り換えます。
 2. リモコンの  ボタンを押します。



3. カーソルで「システム設定」-「その他」-「ファームウェアアップデート」-「ネットワーク経由のアップデート」を順に選び、ENTERボタンを押します。



- 「ファームウェアアップデート」がグレー表示されて選べない場合は、起動するまでにしばらく時間がかかります。



- 更新可能なファームウェアが存在しない場合、「ネットワーク経由のアップデート」は選べません。
- 「アップデート」が選ばれた状態で、ENTER ボタンを押して更新を開始します。
 - 書き換えるプログラムによっては途中でテレビ画面が消える場合があります。その場合、進行状況は本体の表示部で確認できます。書き込みが完了して再度電源を入れるまで、テレビ画面には何も表示されません。
 - 「Completed!」が表示されると、更新完了です。
 - 本体の **STANDBY/ON** ボタンを押して、本機をスタンバイ状態にします。これでアップデートが完了して、最新のファームウェアに更新されました。
 - リモコンの **STANDBY/ON** ボタンは使用しないでください。

エラーが表示されたときは：エラー時は、本体の表示部に「* - ** Error!」と表示されます。（「*」は表示される英数字を表しています。）以下の説明を参照し、確認してください。

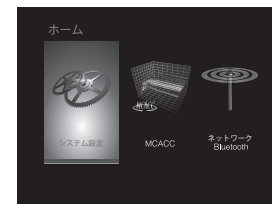
- * -01, * -10:** LAN ケーブルが認識できません。LAN ケーブルを正しく接続してください。
- * -02, * -03, * -04, * -05, * -06, * -11, * -13, * -14, * -16, * -17, * -18, * -20, * -21:** インターネットに接続できません。以下の項目を確認してください。
 - ルーターの電源が入っている
 - 本機とルーターがネットワーク接続されている
 本機およびルーターの電源の抜き差しをお試しください。改善することがあります。それでもインターネットにつながらない場合は、DNS サーバーまたはプロキシサーバーが停止している可能性があります。サーバーの稼働状況をプロバイダにご確認ください。
- その他：**一度電源プラグを抜いたあとコンセントに差し込み、最初からやり直してください。

USB 経由で更新する

- 128MB 以上の容量の USB ストレージを準備してください。USB ストレージのフォーマットは、FAT16、FAT32 に対応しています。

- USB カードリーダーに挿入したメディアは、この機能で使えないことがあります。
 - セキュリティ機能付きの USB ストレージには対応していません。
 - ハブおよびハブ機能付き USB 機器に対応していません。これらの機器を本機に接続しないでください。
- USB ストレージにデータがある場合は消去してください。
 - ネットワークに接続されたコントロール機器(PCなど)の電源を切ってください。
 - 再生中のインターネットラジオ、USB または、サーバーなどを止めてください。
 - ホーム画面の「システム設定」-「ハードウェア」-「HDMI」-「HDMI CEC」の設定を「オン」にしている場合は、「オフ」にしてください。
 - USB ストレージやその内容によっては、読み込みに時間がかかる場合、正しく内容を読み込めない場合、電源が正しく供給されなかったりする場合があります。
 - USB ストレージの使用に際して、データの損失や変更、ストレージの故障などが発生しても、弊社は一切責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。
 - 記載が画面の実際の表示と異なる場合がありますが、操作や機能は変わりません。
 - お使いの PC に USB ストレージを接続します。
 - 弊社ホームページからお使いの PC にファームウェアファイルをダウンロードして、解凍します。ファームウェアには、以下のようなファイル名が付いています。
 - PIOSLM1001_S50000SASAFPSP_***.zip
 PC 上でこのファイルを解凍してください。機種により、ファイルやフォルダの数は異なります。
 - 解凍したファイルやフォルダをすべて USB ストレージのルートフォルダにコピーします。
 - 必ず解凍したファイルをコピーしてください。
 - USB ストレージを本体の USB 端子に接続します。
 - USB ストレージに AC アダプターが付属している場合は、AC アダプターをつないで家庭用電源でお使いください。
 - USB ストレージがパーティションで区切られている

- 場合、本機では複数の USB ストレージとして認識されます。
- テレビの入力を本機と接続した入力に切り換えます。
 - リモコンの **HOME** ボタンを押します。





- カーソルで「システム設定」-「その他」-「ファームウェアアップデート」-「USB 経由のアップデート」を順に選び、ENTER ボタンを押します。



- 「ファームウェアアップデート」がグレー表示されて選べない場合は、起動するまでにしばらく時間がかかります。
 - 更新可能なファームウェアが存在しない場合、「USB 経由のアップデート」は選べません。
- 「アップデート」が選ばれた状態で、ENTER ボタンを押して更新を開始します。
 - 書き換えるプログラムによっては途中でテレビ画面が消える場合があります。その場合、進行状況は本体の表示部で確認できます。書き込みが完了して再度電源を入れるまで、テレビ画面には何も表示されません。
 - 更新中は、電源を切ったり、USB ストレージを抜き差ししないでください。



- 「Completed!」が表示されると、更新完了です。
9. 本体から USB ストレージを抜きます。
10. 本体の  STANDBY/ON ボタンを押して、本機をスタンバイ状態にします。これでアップデートが完了して、最新のファームウェアに更新されました。
- リモコンの  ボタンは使用しないでください。

エラーが表示されたときは：エラー時は、本体の表示部に「* - ** Error!」と表示されます。(「*」は表示される英数字を表しています。)以下の説明を参照し、確認してください。

- *** -01, * -10:** USB ストレージが認識できません。USB ストレージや USB ケーブルが、本体の USB 端子にしっかりと差し込まれているか確認してください。USB ストレージで外部電源を供給できる製品は、外部電源をご使用ください。
- *** -05, * -13, * -20, * -21:** USB ストレージのルートフォルダにファームウェアファイルが存在しない、お使いの機種と異なるファームウェアファイルが使用されている、などが考えられます。再度ファームウェアファイルのダウンロードからやり直してください。
- **その他：**一度電源プラグを抜いたあとコンセントに差し込み、最初からやり直してください。



困ったときは

はじめにお読みください

トラブルは接続や設定、操作方法を見直す以外にも、電源のオン/オフ、電源コードの抜き差しで改善することがあります。本機や接続している機器の両方でお試ください。また、映像や音声が出ない、HDMI 連動ができないなどの場合、接続している HDMI ケーブルの抜き差しを行うと改善することもあります。差し直す際は、HDMI ケーブルが巻かれていると接触が悪くなりますので、なるべく巻かずに差し直してください。差し直したあとは、本機と接続している機器の電源を一度オフにし、再度電源を入れ直してください。

- 本機はマイクロコンピュータにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約 5 秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。
- 製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害 (CD レンタル料等) については補償対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音・録画できることを確認の上、録音・録画を行ってください。

動作が不安定なときは

再起動をお試ください

本機を再起動すると改善することがあります。本機の電源をスタンバイにしたあとで、本体の **STANDBY/ON** ボタンを 5 秒以上押し続けて、本機を再起動してください。(本機の設定内容は保持されます。) 再起動しても改善しない場合は、本機や接続機器の電源コードの抜き差しをお試ください。

本機のリセット (設定内容は初期化されます)

再起動で改善しない場合は、本機をリセットして、すべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことで、トラブルが解消されることがあります。リセットを行うと、お客様の設定内容が初期値に戻りますので、以下の操作をする前に、設定内容をメモなどに記録してください。

1. リモコンの **HOME** ボタンを押し、ホーム画面から「システム設定」- 「その他」- 「初期設定に戻す」を選んで ENTER ボタンを押します。
2. 「はい」を選んで ENTER ボタンを押します。
3. 本機がスタンバイ状態になり、設定がリセットされます。

■電源

電源が入らない

- 電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。
- 一度電源プラグをコンセントから抜き、5 秒以上待ってから、再度コンセントに差し込んでください。

本機の電源が切れる場合

- ホーム画面の「システム設定」- 「ハードウェア」- 「電源管理」- 「自動スタンバイ」が作動すると、自動でスタンバイ状態になります。
- 表示部に「CHECK SP WIRE」と表示された場合は、スピーカーコードがショートしている可能性があります。スピーカーコードの芯線が別のスピーカーコードの芯線や後面パネルと接触していないかを確認し、再度電源を入れてください。
- 本機の温度が異常に上昇して保護回路機能が作動した可能性があります。この場合、電源を入れ直してもまた電源が切れる状態がくり返されます。本機の周りに十分な換気スペースを確保して、本機の温度が下がるまでしばらく待ってから電源を入れ直してください。

警告: 煙が出ている、変なにおいがする、異様な音がするなど、少しでも異常を感じたら、すぐに電源プラグをコンセントから抜き、販売店または弊社の修理窓口にご連絡ください。

■音声

- 測定用マイクを接続したままになっていないことを確認してください。
- 接続した機器の出力端子と、本機の入力端子が正しく接続されているか確認してください。
- 接続ケーブルが、折れ曲がったり、ねじれたり、破損したりしていないことを確認してください。
- 表示部の MUTING 表示が点滅している場合、リモコンの **MUTE** ボタンを押して消音を解除してください。
- ヘッドホンが PHONES 端子に接続しているときは、スピーカーから音は出ません。
- ホーム画面の「システム設定」- 「入力ソース」- 「音声信号選択」- 「PCM 固定」が「オン」になっている場合、PCM 信号以外の入力では音声は再生されません。設定をオフに変更してください。

以上を確認しても改善されない場合、以下を確認してください。

テレビの音が出ない

- 本機の入力切換を、テレビと接続した端子のポジションに切り換える必要があります。
- テレビが ARC 機能に対応していない場合は、HDMI ケーブルの接続に加えて、光デジタルケーブルまたは、同軸デジタルケーブルまたはオーディオ用ピンケーブルでテレビと本機を接続してください。

接続した再生機器の音が出ない

- 本機の入力切換を、再生機器と接続した端子のポジションに切り換える必要があります。
- 接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD 対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がオフになっていることがあります。
- 一部の DVD-Video ディスクでは、メニューから音声出力形式を選ぶ必要があります。



特定のスピーカーから音が出ない

- スピーカーコードの+/-は正しく接続されているか、むき出しの芯線部分がスピーカー端子の金属部分と接触していないか確認してください。
- スピーカーコードがショートしていないことを確認してください。
- スピーカーの接続が正しく行われているか、ご確認ください。(➔P12) スピーカーの接続環境については、初期設定の「1. フルオート MCACC」(➔P19)で設定が必要です。
- 入力信号やリスニングモードによっては、音が出にくい場合があります。他のリスニングモードを選択して、音が出るかご確認ください。

サブウーファーから音が出ない

- 入力信号にサブウーファー音声要素 (LFE) が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

ノイズが聴こえる

- コード留めを使ってオーディオ用ピンケーブル、電源コード、スピーカーケーブルなどを束ねると音質が劣化するおそれがあります。コードを束ねないようにしてください。
- オーディオケーブルが雑音を拾っている可能性があります。ケーブルの位置を変えてみてください。

HDMI に入力した音声の冒頭部分が聴こえない

- HDMI 信号は、ほかの音声信号に比べて認識するのに時間がかかるため、音声ですぐに出力されない場合があります。

音が急に小さくなった

- 本機の内部温度が一定の温度を超えた状態で長時間お使いになると、回路保護のために自動で音量を絞る場合があります。

■リスニングモード

- Dolby Digitalなどのデジタルサラウンド再生を楽しむためには、音声信号はHDMIケーブルまたは同軸デジタルケーブルまたは光デジタルケーブルでの接続が必要です。また、接続したブルーレイディスクプレーヤーなどの音声出力がビットストリーム出力に設定されている必要があります。
- リモコンの **i** ボタンをくり返し押すと、本体表示部が切り換わり、入力フォーマットを確認することができます。

以上を確認しても改善されない場合、以下を確認してください。

希望するリスニングモードが選べない

- スピーカーの接続状況によっては選べないリスニングモードがあります。(➔P34)

Dolby TrueHD、Dolby Atmos、DTS-HD Master Audio、DTS:X フォーマットで聴くことができない

- Dolby TrueHD や Dolby Atmos、DTS-HD Master Audio、DTS:X などの音声信号が音源ごとのフォーマットで出力されない場合、接続したブルーレイディスクプレーヤーなどの設定で、「BD ビデオ副音声」(または再エンコード、セカンダリ音声、ビデオ付加音声など)機能を「切」にしてお試しください。設定を変更したあとは、各ソース用のリスニングモードに切り換えてご確認ください。
- 本機はファームウェアのアップデートにより、Dolby Atmos および DTS:X 音声フォーマットの再生への対応を予定しております。

DTS 信号について

- DTS 信号から急に PCM 信号に切り換わるタイプのソフトは、PCM がすぐに再生されない場合があります。このときは再生機側で再生を約 3 秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。
- 一部の CD または LD プレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しく DTS 再生ができない場合があります。

出力されている DTS 信号に何らかの処理 (出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など)が行われていると、本機が正しい DTS 信号とみなすことができず、ノイズが発生することがあります。

- DTS 対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側で一時停止やスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

■映像

- 接続した機器の出力端子と、本機の入力端子が正しく接続されているか確認ください。
- 接続ケーブルが、折れ曲がったり、ねじれたり、破損したりしていないことを確認してください。
- テレビの映像が乱れる場合は、本機の電源ケーブルや接続ケーブルが干渉している場合があります。テレビのアンテナ線と本機のケーブル類を離してお試しください。
- テレビなど、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。

以上を確認しても改善されない場合、以下を確認してください。

映像が出ない

- 本機の入力切換を、再生機器と接続した端子のポジションに切り換える必要があります。

HDMI 入力端子に接続した機器の映像が出ない

- 本機の電源がスタンバイ状態の場合、接続した再生機器の映像をテレビに映し出すにはホーム画面の「システム設定」-「ハードウェア」-「HDMI」-「HDMI スタンバイスルー」を有効にする必要があります。なお、HDMI スタンバイスルーの機能については (➔P50) をご確認ください。
- HDMI 入力端子から入力した映像が出ないとき、本体の表示部に「Resolution Error」と表示されていませんか? この場合テレビが、プレーヤーから入力した映像の解像度に対応していません。プレーヤー側で設定を変更



してください。

- HDMI-DVI アダプターを使っている場合は、正常な動作は保証されません。また、PC から出力される映像信号についても保証されません。

映像がちらつく

- テレビの対応解像度が再生機器の出力解像度に適合していない可能性があります。再生機器と本機を HDMI 接続している場合は、再生機器側の出力解像度を変更してお試しください。また、テレビの画面モードを変更すると、改善される場合があります。

映像と音声にずれがある

- お使いのテレビの設定や接続環境などによっては、映像が音声より遅れて表示されることがあります。リモコンの ボタンを押して表示される「AV Adjust」の「その他」-「サウンドディレイ」で調整してください。

■ 連動動作

テレビなどの CEC 対応機器との HDMI 連動動作が動かない

- ホーム画面の「システム設定」-「ハードウェア」-「HDMI」-「HDMI CEC」の設定を「オン」にする必要があります。
- CEC 対応機器側も HDMI 連動の設定が必要です。取扱説明書でご確認ください。
- シャープ製のプレーヤーやレコーダーを HDMI 接続する場合は、ホーム画面の「システム設定」-「ハードウェア」-「HDMI」-「HDMI スタンバイスルー」を「自動」に設定してください。

■ FM 放送に関して

放送が受信しづらい、ノイズが多い

- アンテナの接続をもう一度確認してください。
- アンテナをスピーカーケーブルや電源コードから離してください。

- テレビやコンピューターから離してください。
- 近くに自動車が走っていたり飛行機が飛んでいると雑音が入ることがあります。
- 電波がコンクリートの壁等で遮断されていると放送が受信しにくくなります。
- モノラル受信に変更してみてください。
- テレビに配線されている壁面のアンテナ端子を利用すると FM 受信がクリアになることがあります。

■ BLUETOOTH 機能

- 本機の電源抜き差しや、BLUETOOTH 対応機器の電源オン / オフなどをお試しください。BLUETOOTH 対応機器の再起動が効果的な場合もあります。
- BLUETOOTH 対応機器が A2DP プロファイルに対応している必要があります。
- 電子レンジ、コードレス電話機など 2.4GHz 帯の電波を使用する機器の近くでは電波干渉を起こしますので使用できないことがあります。
- 周囲に金属製の物があると、電波に影響を及ぼし、BLUETOOTH 接続ができない場合があります。

以上を確認しても改善されない場合、以下を確認してください。

本機に接続できない

- BLUETOOTH 対応機器の BLUETOOTH 機能が有効になっているか確認してください。

BLUETOOTH 接続しているのに音楽の再生ができない

- BLUETOOTH 対応機器のボリューム設定が小さいと、音声は再生されないことがあります。BLUETOOTH 対応機器のボリューム設定を大きくしてください。
- BLUETOOTH 対応機器によっては、送信 / 受信切換スイッチが搭載されている場合があります。送信に切り換えてお試しください。
- BLUETOOTH 対応機器の特性や仕様によっては、本機で音楽を再生できない場合があります。

音声が途切れる

- BLUETOOTH 対応機器に問題が発生している可能性があります。ホームページなどで情報を調べてみてください。

BLUETOOTH 対応機器との接続後、音質が低下した

- 受信状態がよくありません。BLUETOOTH 対応機器を本機に近づける、または BLUETOOTH 対応機器と本機の間にある障害物を取り除いてください。

■ ネットワーク機能

- ネットワークサービスを選択できない場合は、ネットワーク機能が起動すると選べるようになります。起動には約 1 分かかります。
- NET 表示が点滅している場合、本機がホームネットワークに正しく接続できていません。
- 本機とルーターの電源抜き差しや、ルーターの再起動などをお試しください。
- アクセスポイント一覧に該当のルーターが表示されないときは、無線 LAN ルーターが SSID を隠す設定になっている場合や、ANY 接続がオフになっている場合があります。設定を変えてお試しください。

以上を確認しても改善されない場合、以下を確認してください。

インターネットラジオが聴けない

- サービスプロバイダーがサービスを終了していると、本機でそのネットワークサービスやコンテンツを利用できなくなる場合があります。
- モデムとルーターが正しく接続され、電源が入っているか確認してください。
- ルーターの LAN 側ポートと本機が正しく接続されているか確認してください。
- 他の機器からインターネットに接続できるか確認してください。できない場合、ネットワークに接続されているすべての機器の電源をオフにし、しばらくしてからオンにしてみてください。



- 特定のラジオ局だけが聴けない場合は、登録した URL が正しいか、またラジオ局から配信されているフォーマットが本機に対応しているものか確認してください。
- ISP によってはプロキシサーバーを設定する必要があります。
- お使いの ISP がサポートしているルーターやモデムを使用しているか確認してください。

ネットワークサーバーが使用できない

- 本機とネットワークサーバーは同じルーターに接続する必要があります。
- 本機が対応しているネットワークサーバーは、Windows Media® Player 11 または 12、またはホームネットワーク機能対応の NAS です。
- Windows Media® Player は設定が必要な場合があります。(➡P23)
- PC を使用する場合は、Windows Media® Player のライブラリに登録されている音楽ファイルのみが再生できます。

ネットワークサーバーで音楽ファイルを再生しているときに音が途切れる

- ネットワークサーバーが動作に必要な条件を満たしているか確認してください。
- PC をネットワークサーバーにしている場合、サーバーソフトウェア (Windows Media® Player 12 など) 以外のアプリケーションソフトを終了させてみてください。
- PC で大きな容量のファイルをダウンロードしたりコピーしている場合は再生音が途切れる場合があります。

■ USB ストレージ

USB ストレージが表示されない

- USB ストレージや USB ケーブルが本機の USB 端子にしっかりと差し込まれているか確認してください。
- USB ストレージをいったん本機から外し、再度接続してみてください。
- 本機の USB 端子から電源供給を受けるタイプのハードディスクの動作は保証できません。

- コンテンツの種類によっては正常に再生できないことがあります。対応フォーマットをご確認ください。
- セキュリティ機能付きの USB ストレージの動作は保証できません。

■ 無線 LAN ネットワーク

- 本機と無線 LAN ルーターの電源の抜き差しや、無線 LAN ルーターの電源オン状態の確認、および無線 LAN ルーターの再起動などをお試しく下さい。

以上を確認しても改善されない場合、以下を確認してください。

無線 LAN ネットワークに接続できない

- 無線 LAN ルーターの設定が手動設定に切り換わっている場合があります。自動設定に戻してください。
- 手動でのセットアップをお試しく下さい。つながる場合があります。
- 無線 LAN ルーターが SSID を隠す設定 (ステルスモードなど) になっている場合や、ANY 接続がオフになっている場合は、表示されません。設定を変えてお試しく下さい。
- SSID および暗号化設定 (WEP など) が正しいか確認してください。ネットワークの設定と本機の設定内容を合わせてください。
- マルチバイト文字で設定されている SSID への接続は対応していません。無線 LAN ルーターの SSID を英数字で設定しなおして再度お試しく下さい。

選択した SSID とは異なる SSID に接続される

- 無線 LAN ルーターによっては、1 台で複数の SSID を設定できるものがあります。このようなルーターに自動設定ボタンを使って接続すると、接続したい SSID とは異なる SSID に接続される場合があります。この場合、パスワード入力による接続を行ってください。

再生音が途切れたり通信できない

- 電波状態が悪いため、電波が届かないことがあります。

無線 LAN ルーターからの距離を短くしたり、障害物をなくしたりして、見通しを良くしてから接続し直してください。また、電子レンジや他のアクセスポイントから離して設置してください。無線 LAN ルーターと本機は、同じ部屋に配置することを推奨します。

- 周囲に金属製の物があると、電波に影響を及ぼし、無線 LAN の接続ができない場合があります。
- 他の無線 LAN を本機の近くで使用すると、再生音が途切れたり通信できないなど他にも色々な症状が発生することがあります。このような場合は無線 LAN ルーターのチャンネルを変更することで回避できます。変更方法は無線 LAN ルーターの取扱説明書をご覧ください。
- 無線 LAN で使用する帯域が不足している可能性があります。有線 LAN で接続してください。

■ リモコン

- 電池の極性を間違えて挿入していないか確認してください。
- 新しい電池を入れてください。種類が異なる電池、新しい電池と古い電池を一緒に使用しないでください。
- 本体の受光部が直射日光やインバータータイプの蛍光灯の光に当たらないようにしてください。必要に応じて位置を変えてください。
- 本体を色付きのガラス扉が付いたラックやキャビネットに設置したり、扉が閉じているとリモコンが正常に機能しないことがあります。

■ 表示部、オンスクリーンディスプレイ

表示部が点灯しない

- Dimmer 機能が働いていると表示部が薄暗くなったり、消灯します。DIMMER ボタンを押して、表示部の明るさを変えてください。



■その他

本体から異音聞こえる

- 本機と同系統のコンセントに他の機器を接続している場合、その機器の影響を受けて異音が発生する場合があります。他の機器の電源プラグをコンセントから抜いて症状が改善される場合は、本機とその機器を別系統のコンセントに接続してください。

フルオート MCACC を実行中に「騒音が大きすぎます」というメッセージが出る

- お使いのスピーカーに異常があることも考えられます。スピーカーの出力などを点検してみてください。

DRC 機能が働かない

- 再生ソースが Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS のいずれかになっているか確認してください。



主な仕様

アンプ (音声) 部

定格出力
80 W × 6 ch (1 kHz、全高調波歪率 1% 以下、4 Ω、非同時駆動、JEITA)

入力感度 / インピーダンス (1 kHz、80 W/4 Ω)
200 mV/47 kΩ (LINE (Unbalance))
6.0 mV/47 kΩ (PHONO MM)

RCA 定格出力電圧 / インピーダンス
1 V/470 Ω (SUBWOOFER PRE OUT)

PHONO 最大許容入力
30 mV (MM 1 kHz 1%)

周波数特性
10 Hz - 40 kHz/+1 dB、-3 dB

トーンコントロール最大変化量
±10 dB、90 Hz (BASS)
±10 dB、7.5 kHz (TREBLE)

SN 比
80 dB (IHF-A、LINE IN、SP OUT)
70 dB (IHF-A、PHONO IN、SP OUT)

スピーカー適応インピーダンス
4 Ω - 8 Ω

ヘッドホン出力インピーダンス
102 Ω

ヘッドホン定格出力
85 mW (32 Ω、1 kHz、全高調波歪率 10%)

チューナー部

FM 受信範囲
76.0 MHz - 95.0 MHz

プリセットチャンネル数
40

ネットワーク部

イーサネット LAN
10BASE-T/100BASE-TX

無線 LAN
対応規格 IEEE 802.11 a/b/g/n 準拠 (Wi-Fi® 準拠)
5 GHz/2.4 GHz band

BLUETOOTH 部

通信システム
BLUETOOTH バージョン 4.1+LE

周波数帯域
2.4 GHz band

変調方式
FHSS (周波数ホッピングスペクトラム拡散)

対応プロファイル
A2DP 1.2
AVRCP 1.3
HOGP-Host (Client)
HOGP-HID Device (Server)
HID Service (HIDS)

対応コーデック
SBC
AAC

伝送範囲 (A2DP)
20 Hz - 20 kHz (サンプリング周波数 44.1 kHz)

最大通信距離

遮蔽物の無い見通し 約 15 m (＊)
＊ 実際の通信範囲は機器間の障害物、電子レンジの電磁波、静電気、コードレスフォン、受信感度、アンテナの性能、操作システム、アプリケーションソフトウェアなどの影響により異なります。

総合

電源・電圧
AC 100 - 240 V、50/60 Hz

消費電力
60 W
0.2 W (待機時)
16 W (無音時)
2 W (HDMI スタンバイスルー時)
2.6 W (ネットワークスタンバイ時)

最大外形寸法
435(幅) × 70(高さ) × 325(奥行) mm

質量
4 kg

HDMI

入力
IN1 (BD/DVD、HDCP2.2)、IN2 (CBL/SAT、HDCP2.2)、IN3 (STRM BOX、HDCP2.2)、IN4 (GAME、HDCP2.2)

出力
OUT (HDCP2.2)

対応
ディープカラー、x.v.Color™、リップシンク、オーディオリターンチャンネル、3D、4K 60Hz、CEC、対応カラー (sYCC601、Adobe RGB、Adobe YCC601)、コンテンツタイプ、HDR

音声形式
Dolby TrueHD、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby Atmos (アップデート対応)、DTS、DTS:X (アップデート対応)、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、DTS 96/24、DTS-HD Express、DSD、PCM、AAC

最大解像度
4k 60 Hz (YCbCr 4:4:4)

音声入力

デジタル
OPTICAL (TV)
COAXIAL (CD)

アナログ
1 (BD/DVD)、2 (CBL/SAT)、PHONO (専用)

音声出力

アナログ
SUBWOOFER PRE OUT

スピーカー
FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/R、SUBWOOFER

ヘッドホン
PHONES (前面、φ3.5 mm)

その他

USB : 1 (前面、Ver.2.0、5 V/1 A)
イーサネット : 1
セットアップマイク : 1



HDMI について

対応する機能

HDMI(High-Definition Multimedia Interface) は、テレビ、プロジェクター、ブルーレイディスク/DVD プレーヤー、デジタルチューナーなどの映像機器の接続に対応したデジタルインターフェース規格です。これまで、映像機器を接続するには、さまざまな映像・音声ケーブルが個別に必要でした。HDMI では、1 本のケーブルで、制御信号、デジタル映像、デジタル音声(2チャンネルPCM、マルチチャンネルデジタル音声、マルチチャンネルPCM)を伝送できます。

HDMI CEC 機能: HDMI 規格の CEC(Consumer Electronics Control) に準拠した機器と HDMI ケーブルで接続することで、機器間のさまざまな連携動作が可能になります。再生機との入力の連動切り換えやテレビのリモコンで本機の音量調整などの操作ができたり、テレビの電源オフに連動して自動で電源をスタンバイすることができます。CEC 規格に準拠している製品と連動するように設計されておりませんが、すべての CEC 機器との連動動作を保証するものではありません。

ARC(オーディオリターンチャンネル): ARC に対応したテレビと 1 本の HDMI ケーブルで接続するだけで、本機の映像と音声をテレビに出力することも、テレビの音声を本機に入力することもできます。

HDMI スタンバイスルー: 本機の電源がスタンバイ状態になっているときでも、AV 機器からの入力信号をテレビに伝送することができます。

ディープカラー: ディープカラーに対応した機器と接続すると、入力される映像信号をより多くの色で表現できるようにテレビに出力することができます。

x.v.Color™: 色域を拡大することで、より現実に近い色を再現することができる技術です。

3D: AV 機器からの 3D 映像信号をテレビに伝送することができます。

4K: 本機は 4K(3840 × 2160p) および 4K SMPTE(4096 × 2160p) の映像信号に対応しています。

リップシンク: HDMI リップシンク対応テレビからの情報に応じて映像と音声のズレを自動補正します。

対応音声フォーマット

2チャンネルリニアPCM: 32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz、16/20/24 bit

マルチチャンネルリニアPCM: 最大 5.1 チャンネル、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz、16/20/24 bit

ビットストリーム: Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS、DTS-HD High Resolution Audio、DTS-HD Master Audio

DSB: 対応サンプリングレート: 2.8 MHz
お使いのブルーレイディスク/DVD プレーヤーも上記の音声フォーマットの HDMI 出力に対応している必要があります。

対応解像度

著作権保護技術: HDCP1.4/HDCP2.2

カラースペース(色深度): 720 × 480i 60Hz, 720 × 576i 50Hz, 720 × 480p 60Hz, 720 × 576p 50Hz, 1920 × 1080i 50/60Hz, 1280 × 720p 24/25/30/50/60Hz, 1680 × 720p 24/25/30/50/60Hz, 1920 × 1080p 24/25/30/50/60Hz, 2560 × 1080p 24/25/30/50/60Hz, 4K (3840 × 2160p) 24/25/30Hz, 4K SMPTE (4096 × 2160p) 24/25/30Hz : RGB/YCbCr4:4:4 (8/10/12 bit), YCbCr4:2:2 (12 bit) 4K (3840 × 2160p) 50/60Hz, 4K SMPTE (4096 × 2160p) 50/60Hz : RGB/YCbCr4:4:4 (8 bit),

YCbCr4:2:2 (12 bit), YCbCr4:2:0 (8/10/12 bit)



ライセンスと商標について

DOLBY ATMOS

Manufactured under license from Dolby Laboratories. Dolby, Dolby Atmos, Dolby Surround and the double-D symbol are trademarks of Dolby Laboratories.



For DTS patents, see <http://patents.dts.com>. Manufactured under license from DTS, Inc. DTS, the Symbol, DTS in combination with the Symbol, DTS:X, and the DTS:X logo are registered trademarks or trademarks of DTS, Inc. in the United States and/or other countries. © DTS, Inc. All Rights Reserved.



The "AAC" logo is a trademark of Dolby Laboratories.



The terms HDMI and HDMI High-Definition Multimedia Interface, and the HDMI Logo are trademarks or registered trademarks of HDMI Licensing LLC in the United States and other countries.



The Wi-Fi CERTIFIED Logo is a certification mark of Wi-Fi Alliance®.



AirPlay, iPad, iPhone, iPod touch は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

iPad Air、iPad mini は、Apple Inc. の商標です。iPhone の商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。

「Made for iPod」、「Made for iPhone」、「Made for iPad」とは、それぞれ iPod、iPhone、iPad 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。

アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。

この製品と iPod、iPhone、iPad を使用する際、ワイヤレス機能に影響する場

合があります。

AirPlay を利用するには、iOS 4.3.3 以降を搭載した iPhone / iPod touch / iPad、OS X Mountain Lion を搭載した Mac、iTunes 10.2.2 以降を搭載した Mac、PC が必要です。



Bluetooth® ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標です。



当社は日本オーディオ協会のハイレゾ定義に準拠した製品にこのロゴを冠して推奨しています。ロゴは登録商標です。

This product is protected by certain intellectual property rights of Microsoft. Use or distribution of such technology outside of this product is prohibited without a license from Microsoft.

Windows and the Windows logo are trademarks of the Microsoft group of companies.

QR コードは (株) デンソーウェーブの登録商標です。

"x.v.Color" and "x.v.Color" logo are trademarks of Sony Corporation.

DSD および Direct Stream Digital ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

MPEG Layer-3 audio coding technology licensed from Fraunhofer IIS and Thomson.

その他記載された会社名、製品名などは該当する各社の商標または登録商標です。

音のエチケッ

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。

隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。





ご相談窓口・修理窓口のご案内

販売店の「長期保証」制度にご加入の場合は：保証の手続き上、お買い上げになった販売店様での受付が必要となります。長期保証期間内の製品は、店頭への修理品持込みをお願いいたします。

意外な操作ミスが故障と思われています。お問い合わせの前に取扱説明書をもう一度お調べください。また弊社ホームページサポート情報にもトラブル解決のFAQを掲載していますので、ご参照ください。

■操作・設定方法ご案内について

パイオニアホームオーディオコールセンター 050-3388-9425

(受付時間：9:30～18:00 土・日・祝日および弊社で定める休業日を除きます)
下記 URL より FAQ をご確認ください。
<http://pioneer-audiovisual.com/support/purpose/faq/>

■修理のご案内・お申込みについて

修理受付窓口 0120-5-81028 0570-037-610 (携帯・PHS から)

(受付時間：月曜～金曜 9:30～18:00 土曜 9:30～12:00 13:00～17:00 日・祝日および弊社で定める休業日を除きます)

- 下記 URL から修理のご相談・お申込みをいただけます。
<http://pioneer.jp/support/purpose/repair/service/>
- 本機は持込み修理対応製品です。組合せ製品の場合は、部分的な故障と思われる場合でも、システム全体での動作確認が必要となるため、全機器のお持込みをお願いします。ご不明な場合は、窓口までお問い合わせをお願いします。
- お客様のご要望により出張修理を行う場合の出張修理代、または宅配便による引取り回収修理の送料は、有料とさせていただきます。

ご案内をスムーズにさせていただくために、以下の内容を事前にご確認ください。

- 型番：
VSX-S520
※各機器のリアパネルなどに記載されている型番を確認し、型番をご連絡ください。
- お買い上げ日
- お買い上げになった販売店名
- 故障の状況 (できるだけ具体的に)

■付属品のご案内・お申込みについて

部品受注センター 0120-5-81095 0570-057-140 (携帯・PHS から)

(受付時間：月曜～金曜 9:30～18:00 土曜 9:30～12:00 13:00～17:00 日・祝日および弊社で定める休業日を除きます)
下記 URL から部品のお申込み手順をご確認いただけます。
<http://pioneer.jp/support/purpose/parts/flow/>

保証書について

保証書の記載事項をご確認ください。また、所定事項をご記入いただき大切に保管してください。保証期間内に万一、故障や異常が生じたときは、保証書をご用意のうえ、上記相談窓口にご相談ください。

保証期間終了後の修理について

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後、最大 8 年間保有しています。保有期間経過後でも故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、ご相談ください。

電話番号、受付時間などは変更になる場合がございます。

Pioneer

オンキヨー & パイオニア株式会社

〒130-0015 東京都墨田区横網一丁目10番5号

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：

パイオニアホームオーディオコールセンター

☎ 050-3388-9425 (受付時間：9：30～18：00 土・日・祝日および弊社で定める休業日を除きます)

サポートのご案内 <http://pioneer-audiovisual.com/support/>

オンラインユーザー登録 <https://www2.jp.onkyo.com/customer/index.asp>

Eメールによる製品サポート情報や製品関連情報のお届け、ONKYO DIRECTオンラインショップからの情報メールのご案内などのサービスをご利用いただくことができます。

(ご登録いただいたお客様情報は、弊社のサービス以外の目的で使用されることはありません)

© 2016 Onkyo & Pioneer Corporation. All rights reserved.

Onkyo group has established its Privacy Policy, available at [<http://pioneer-audiovisual.com/privacy/>].

「Pioneer」及び「MCACCロゴ」は、パイオニア株式会社の商標であり、ライセンスに基づき使用されています。

SN 29402690D

F1711-4



* 2 9 4 0 2 6 9 0 D *